

(受消総7-1)

うじ安心館屋上防水ほか改修工事

N o	図 面 名 称	縮 尺	N o	図 面 名 称	縮 尺
A - 0 0	図面リスト	-	A - 2 3	部分詳細図 1 アプローチ庇	A2:S=1/50
A - 0 1	共通特記仕様書	-	A - 2 4	5 階 訓練用ステージ詳細図	A2:S=1/30 A2:S=1/50
A - 0 2	建築工事特記仕様書- 1	-	A - 2 5	部分詳細図 3 防水納まり詳細図	A2:S=1/20
A - 0 3	建築工事特記仕様書- 2	-	A - 2 6	駐輪場 配置図・仮設計画図	A2:S=1/300
A - 0 4	建築改修工事特記仕様書- 1	-	A - 2 7	既存駐輪場現況図	A2:S=1/60 1/100・1/300
A - 0 5	建築改修工事特記仕様書- 2	-	A - 2 8	駐輪場 立面図、屋根伏図、部材表	A2:S=1/40 A2:S=1/5
A - 0 6	建築改修工事特記仕様書- 3	-	A - 2 9	駐輪場 計画平面図、屋根伏図、排水構造図	A2:S=1/40 A2:S=1/100
A - 0 7	建築改修工事特記仕様書- 4	-			
A - 0 8	建築改修工事特記仕様書- 5	-	M - 0 1	機械設備工事特記仕様書 - 1	-
A - 0 9	建築改修工事特記仕様書- 6	-	M - 0 2	機械設備工事特記仕様書 - 2	-
A - 1 0	建築改修工事特記仕様書- 7	-	M - 0 3	換気設備 R階平面詳細図（撤去・改修）	A2:S=1/10
A - 1 1	付近見取図、配置図、仮設計画図	A2:S=1/2500 1/300	M - 0 4	駐輪場 給排水設備 改修・撤去平面図	A2:S=1/100
A - 1 2	R 階仮設計画図・楊重計画図（参考図）	A2:S=1/200	M - 0 5	施工標準図 （参考図）	-
A - 1 3	1 階平面図	A2:S=1/150			
A - 1 4	2 階平面図	A2:S=1/150	E - 0 1	電気設備工事特記仕様書 - 1	-
A - 1 5	3 階平面図	A2:S=1/150	E - 0 2	電気設備工事特記仕様書 - 2	-
A - 1 6	4 階平面図	A2:S=1/150	E - 0 3	R 階・P H 階 避雷針部材更新	A2:S=1/100
A - 1 7	5 階平面図	A2:S=1/150	E - 0 4	分電盤結線図	A2:S=1/20
A - 1 8	R 階平面図	A2:S=1/150	E - 0 5	R 階 換気扇 改修前	A2:S=1/100
A - 1 9	P H R 階平面図	A2:S=1/150	E - 0 6	R 階 換気扇 改修後	A2:S=1/100
A - 2 0	R 階平面詳細図 1（既存設備配管等）	A2:S=1/80	E - 0 7	R 階 配管・ﾚｯｸ等支持改修図	A2:S=1/150
A - 2 1	R 階平面詳細図 2（防音壁下部鉄骨）	A2:S=1/80	E - 0 8	駐輪場 平面図	A2:S=1/100
A - 2 2	電気室・発電機室・防音壁 立面図	A2:S=1/100			

[illegible]

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																																																																																																																																																																																																						
4	地業工事	6 砂利及び砂地業 (4.6.2) (4.6.3)	厚さ (mm)	○ 図示による	6 0		6	コンクリート工事	コンクリートの種類 (6.2.1)	種類 普通コンクリート 類別 類 ○ 類 (表6.2.1)	設計基準強度 (F _c) <table><tr><td>打 設 部 位</td><td>F_c (N/mm²)</td><td>スランブ (cm)</td><td>備 考</td></tr><tr><td rowspan="2">構造体</td><td>基礎</td><td>○ 2.4</td><td>○</td><td>○ 1.5</td><td>○ 1.8</td><td></td></tr><tr><td>上部</td><td>○ 2.4</td><td>○</td><td>○ 1.5</td><td>1.8</td><td>土間スラブを含む</td></tr><tr><td>土間コンクリート</td><td>○ 1.8</td><td>○</td><td>○ 1.5</td><td>○ 1.8</td><td>側溝・犬走り</td></tr><tr><td>捨コンクリート</td><td>○ 1.8</td><td>○</td><td>○ 1.5</td><td>○ 1.8</td><td></td></tr><tr><td>軽量コンクリート</td><td>○ 2.1</td><td>○</td><td>2.1</td><td>○ 1.8</td><td></td></tr><tr><td>無筋コンクリート</td><td>1.8</td><td>○</td><td>○ 1.5</td><td>○ 1.8</td><td>標仕6.14.1による</td></tr></table>	打 設 部 位	F _c (N/mm ²)	スランブ (cm)	備 考	構造体	基礎	○ 2.4	○	○ 1.5	○ 1.8		上部	○ 2.4	○	○ 1.5	1.8	土間スラブを含む	土間コンクリート	○ 1.8	○	○ 1.5	○ 1.8	側溝・犬走り	捨コンクリート	○ 1.8	○	○ 1.5	○ 1.8		軽量コンクリート	○ 2.1	○	2.1	○ 1.8		無筋コンクリート	1.8	○	○ 1.5	○ 1.8	標仕6.14.1による	構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 { F _c + 構造体強度補正值 (S) } N/mm ² (6.14.1 によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)	セメントの類別 (6.3.1)	普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種 ○ 高炉セメントの B 種 (適用箇所) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントの B 種 (適用箇所)	骨材 (6.3.1)	粗骨材 砂利 (JIS A5308), 砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 砂 (JIS A5308), 砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フェリススラグ ○ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 A (無害) ○	5 混和材料 (6.3.1)	○ 混和剤 AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の 種 (JIS A 6204) 防錆剤 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) ○ 混和材 フライアッシュ (JIS A 6201) 種、 種若しくは 種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207) ○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	構造体強度補正值 (6.3.2)	気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2) <table><tr><td>予想平均気温 ()</td><td>補正值</td><td colspan="3">期 間 (打 設 日)</td></tr><tr><td>普通</td><td>早強 (S)</td><td>南部地域</td><td>中部地域</td><td>北部地域</td></tr><tr><td>8以上</td><td>5以上</td><td>3</td><td>3/6 ~ 6/30</td><td>3/11 ~ 7/20</td><td>3/11 ~ 7/10</td></tr><tr><td></td><td>N/mm²</td><td>9/11 ~ 11/15</td><td>9/1 ~ 11/5</td><td>9/1 ~ 10/31</td></tr><tr><td>0以上</td><td>0以上</td><td>6</td><td>11/16 ~ 3/5</td><td>11/ 6 ~ 3/10</td><td>11/ 1 ~ 3/10</td></tr><tr><td>8未満</td><td>5未満</td><td>N/mm²</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 南部地域 (京都市 (一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む)	予想平均気温 ()	補正值	期 間 (打 設 日)			普通	早強 (S)	南部地域	中部地域	北部地域	8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10		N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31	0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10	8未満	5未満	N/mm ²				7 打継ぎ (6.6.4)	位置 構造図による ○ 標仕 6.6.4(1) による 目地の寸法 図示による ○	型枠 (せき板) (6.2.5) (6.8.1) (6.8.2)	合板の規格 「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 合板の材質 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 厚さ (mm) 12 ○ 打放し仕上げのせき板 合板せき板を用いる場合 (表6.2.4) <table><tr><td>種 別</td><td>板 面 の 品 質</td><td>施 工 箇 所</td></tr><tr><td>○ A 種</td><td>6.8.2(2)(7) ○</td><td></td></tr><tr><td>○ B 種</td><td>6.8.2(2)(4) ○</td><td></td></tr><tr><td>○ C 種</td><td>6.8.2(2)(4) ○</td><td></td></tr></table> ○ 合板せき板を用いない場合 せき板の材料	種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所	○ A 種	6.8.2(2)(7) ○		○ B 種	6.8.2(2)(4) ○		○ C 種	6.8.2(2)(4) ○		コンクリートの仕上りの平たんさ <table><tr><td>種 別</td><td>適 用 箇 所</td></tr><tr><td>○ a 種</td><td></td></tr><tr><td>○ b 種</td><td></td></tr><tr><td>○ c 種</td><td></td></tr></table> 外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ 図示による ○ 2 0 mm ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法 図示による ○	種 別	適 用 箇 所	○ a 種		○ b 種		○ c 種		9 スリーブ (6.8.2)	スリーブの材質 (表6.8.1) <table><tr><td>適 用 箇 所</td><td>材 種 (規 格 そ の 他)</td></tr><tr><td>水密を要する地中部分等</td><td>つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6mm 以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)</td></tr><tr><td>水密を要しない地中部分等</td><td>硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 の V U)</td></tr><tr><td>上記以外の円形スリーブ</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm 以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上)</td></tr></table>	適 用 箇 所	材 種 (規 格 そ の 他)	水密を要する地中部分等	つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6mm 以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)	水密を要しない地中部分等	硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 の V U)	上記以外の円形スリーブ	溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm 以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上)	6	コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)	11 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)	常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種類 ○ 1 種 ○ 2 種 施工箇所 気乾単位容積質量 t/m ³	12 寒中コンクリート (6.11.1)	予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第 6 章第 1 1 節 (寒中コンクリート) による。	13 暑中コンクリート (6.12.2)	暑中における構造体強度補正值 (S) <table><tr><td>地 域</td><td>日平均気温が25度を超える期間 (打設日)</td><td>補 正 値</td></tr><tr><td>北 部 地 域</td><td>7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日</td><td rowspan="2">6 N/mm² ○ 3 N/mm²</td></tr><tr><td>中 部 地 域</td><td>7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日</td></tr><tr><td>南 部 地 域</td><td>7 月 1 1 日 ~ 9 月 1 0 日</td><td></td></tr></table>	地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値	北 部 地 域	7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日	6 N/mm ² ○ 3 N/mm ²	中 部 地 域	7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日	南 部 地 域	7 月 1 1 日 ~ 9 月 1 0 日		14 マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2)	施工箇所 セメントの種類 ○ 中熟ポルトランドセメント ○ シリカセメント ○ 低熱ポルトランドセメント ○ 高炉セメント B 種 ○ フライアッシュセメント B 種 ○ 普通ポルトランドセメント 混和材料 ○ 混和剤 AE減水剤又は高性能AE減水剤 (JIS A 6204) ○ ○ 混和材 ○ フライアッシュの 種 (JIS A 6201) ○ 高炉スラグ微粉末の3000若しくは4000 (JIS A 6206) ○ スランブ 15cm ○	15 無筋コンクリート (6.14.1)	コンクリートの種類 普通コンクリート ○ コンクリート車の過積載防止対策等 受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車 1 台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。	7	鉄骨工事	1 鉄骨の製作工場 (7.1.3)	建築基準法第 6 8 条の 2 5 に基づき国土交通大臣から 構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場 又は同等以上の能力のある工場 ((○ S ○ H ○ M ○ R ○ J) グレード以上) ○ 監督職員の承諾する工場 (標準仕様書 7.1.1 以外の適用範囲に限る)	2 施工管理技術者 (7.1.4)	適用する	3 鋼材 (7.2.1)	種類 形状及び寸法 図示による ○	4 高力ボルト (7.2.2) (7.4.2)	ボルトの区分 ○ トルシア形高力ボルト ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト ○ J I S 形高力ボルト ○ ねじの呼び ○ すべり係数試験 ○ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○	5 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.4.2) (7.12.5)	セットの種類 ○ 1 種 (F8T) 相当 摩擦面の処理 ○ プラスト処理 (表面粗度 5 0 μ mRz 以上) ○ リン酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 すべり耐力試験 試験方法等 ○ 図示による ○	6 普通ボルト (7.2.3) (7.3.8)	ねじの呼び ○ 母屋又は胴縁の取付けに使用する普通ボルトの孔径 ○ 呼び径 +1.0mm	7 溶接材料 (7.2.5)	溶接材料 標準仕様書 7.2.5(1)(2) による ○ 図示による ○	8 ターンバックル (7.2.6)	胴の種類 割枠式 ○ バイブ式 ボルトの種類 羽子板ボルト ○ 両ねじボルト ○ アイボルト ねじの呼び ○	9 デッキプレート (7.2.7) (7.7.8)	材質、形状及び寸法 図示による ○ デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法 図示による	7	鉄骨工事	10 工作図 (7.3.2)	高力ボルト、普通ボルトのゲージ、ピッチ、傾き等 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)	11 仮組 (7.3.10)	○ 実施する 部位 () ○ 実施しない	12 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)	溶接作業者の技量付加試験 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による () ○	13 溶接接合 (7.6.4) (7.6.7)	開先の形状 ○ 図示による ○ 鋼製エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無 適用箇所 図示による ○ 切断面の仕上げ グライダーにより、粗さ100 μ mRz程度以下及びワザ深さ1mm程度以下 ○ スカラップの形状 ○ 図示による	14 溶接部の試験 (7.6.12)	完全溶込溶接部の超音波探傷試験 行う ○ 行わない ○ 工場溶接 AOQL ○ 4.0% ○ 2.5% 検査水準 ○ 第 6 水準 (部全て) ○ 工事現場溶接 H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等 ○ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」(独立行政法人 建築研究所) 3.5.2による受入検査 ○ 抜き取り検査 抜き取り検査 JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付則「溶接」に関する試験方法等 ○ JASS 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。 外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7.6.13による補修を行い、再試験する。	15 耐火被覆 (7.9.2) ~ (7.9.7)	種別 <table><tr><td>種 別</td><td>材 料 ・ 工 法</td><td>適用箇所 (部位 ・ 部分)</td></tr><tr><td>○ 耐火材吹付け</td><td>○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール</td><td></td></tr><tr><td>○ 耐火板張り</td><td>○ 繊維混入イタール板</td><td></td></tr><tr><td>○ 耐火材巻付け</td><td>○ 高断熱ロックウール</td><td></td></tr><tr><td>○ 5張り以上張り</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>○ 耐火塗料</td><td></td><td></td></tr></table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 <table><tr><td>性 能</td><td>適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)</td></tr><tr><td>○ 3 0 分耐火</td><td></td></tr><tr><td>○ 1 時耐火</td><td></td></tr><tr><td>○ 2 時耐火</td><td></td></tr><tr><td>○ 3 時耐火</td><td></td></tr></table>	種 別	材 料 ・ 工 法	適用箇所 (部位 ・ 部分)	○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール		○ 耐火板張り	○ 繊維混入イタール板		○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール		○ 5張り以上張り	-		○ 耐火塗料			性 能	適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)	○ 3 0 分耐火		○ 1 時耐火		○ 2 時耐火		○ 3 時耐火		16 アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2) (7.10.3)	適用 ○ 構造用アンカーボルト 種類 ○ SNR400B ○ アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ ○ 建方用アンカーボルト 種類 ○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1) 種別 ○ A 種 ○ B 種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 5 0 mm ○ 3 0 mm	17 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3)	モルタルの種別 無収縮モルタル ○ 材料・調合等 標示 7.2.9 (2)(7)から(1)による ○ 厚さ 図示による ○ 工法 A 種 ○ B 種
		打 設 部 位	F _c (N/mm ²)	スランブ (cm)	備 考																																																																																																																																																																																																																					
		構造体	基礎	○ 2.4	○	○ 1.5			○ 1.8																																																																																																																																																																																																																	
			上部	○ 2.4	○	○ 1.5			1.8	土間スラブを含む																																																																																																																																																																																																																
土間コンクリート	○ 1.8	○	○ 1.5	○ 1.8	側溝・犬走り																																																																																																																																																																																																																					
捨コンクリート	○ 1.8	○	○ 1.5	○ 1.8																																																																																																																																																																																																																						
軽量コンクリート	○ 2.1	○	2.1	○ 1.8																																																																																																																																																																																																																						
無筋コンクリート	1.8	○	○ 1.5	○ 1.8	標仕6.14.1による																																																																																																																																																																																																																					
予想平均気温 ()	補正值	期 間 (打 設 日)																																																																																																																																																																																																																								
普通	早強 (S)	南部地域	中部地域	北部地域																																																																																																																																																																																																																						
8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10																																																																																																																																																																																																																					
	N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31																																																																																																																																																																																																																						
0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10																																																																																																																																																																																																																					
8未満	5未満	N/mm ²																																																																																																																																																																																																																								
種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																								
○ A 種	6.8.2(2)(7) ○																																																																																																																																																																																																																									
○ B 種	6.8.2(2)(4) ○																																																																																																																																																																																																																									
○ C 種	6.8.2(2)(4) ○																																																																																																																																																																																																																									
種 別	適 用 箇 所																																																																																																																																																																																																																									
○ a 種																																																																																																																																																																																																																										
○ b 種																																																																																																																																																																																																																										
○ c 種																																																																																																																																																																																																																										
適 用 箇 所	材 種 (規 格 そ の 他)																																																																																																																																																																																																																									
水密を要する地中部分等	つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6mm 以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)																																																																																																																																																																																																																									
水密を要しない地中部分等	硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 の V U)																																																																																																																																																																																																																									
上記以外の円形スリーブ	溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm 以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上)																																																																																																																																																																																																																									
地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値																																																																																																																																																																																																																								
北 部 地 域	7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日	6 N/mm ² ○ 3 N/mm ²																																																																																																																																																																																																																								
中 部 地 域	7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日																																																																																																																																																																																																																									
南 部 地 域	7 月 1 1 日 ~ 9 月 1 0 日																																																																																																																																																																																																																									
種 別	材 料 ・ 工 法	適用箇所 (部位 ・ 部分)																																																																																																																																																																																																																								
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール																																																																																																																																																																																																																									
○ 耐火板張り	○ 繊維混入イタール板																																																																																																																																																																																																																									
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール																																																																																																																																																																																																																									
○ 5張り以上張り	-																																																																																																																																																																																																																									
○ 耐火塗料																																																																																																																																																																																																																										
性 能	適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)																																																																																																																																																																																																																									
○ 3 0 分耐火																																																																																																																																																																																																																										
○ 1 時耐火																																																																																																																																																																																																																										
○ 2 時耐火																																																																																																																																																																																																																										
○ 3 時耐火																																																																																																																																																																																																																										
うじ安心館屋上防水ほか改修工事															図 番																																																																																																																																																																																																											
建 築 工 事 特 記 仕 様 書 2															A-03																																																																																																																																																																																																											
Ver_R04(R05_02)																																																																																																																																																																																																																										

章	項	目	特 記 事 項	章	項	目	特 記 事 項	章	項	目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																						
3	防 水 改 修 工 事	アルミニウム製 笠木（3.9.2） （3.9.3）	○ 内とい（V P 管は使用しない） <table><tr><th>材 質</th><th>そ の 他</th></tr><tr><td>たてとい及び横走り管 ○ SGP ○</td><td>径 75mm</td></tr><tr><td>とい受け金物、足金物</td><td>改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下</td></tr><tr><td>防露巻き</td><td>改修標仕表3.8.3による F</td></tr></table> 掃除口を設ける（開放性のある自転車置き場のといを除く） ○ 養生鉄管を設ける（ 径 _____ 厚さ _____ 長さ _____ ） ○ 既存といの撤去及び養生 （ _____ ） ○ 銅管製といの防露巻 （ 改修標仕表3.8.4による ○ _____ ） ○ たてとい受金物（ _____ ） (表3.9.1)(表5.2.2) <table><tr><th>種 類</th><th>幅</th><th>板厚 (mm)</th><th>表 面 処 理</th><th>備 考</th></tr><tr><td>● 250 形</td><td>250</td><td>1.6</td><td>○ AB-1種 ○ AB-2種</td><td rowspan="5">隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。 ● 避雷導体仕様</td></tr><tr><td>○ 300 形</td><td>300</td><td>1.8</td><td>○ AC-1種 ○ AC-2種</td></tr><tr><td>○ 350 形</td><td>350</td><td>2.0</td><td>○ BA-1種 ○ BA-2種</td></tr><tr><td>● 500 形</td><td>500</td><td></td><td>● BB-1種 ○ BB-2種</td></tr><tr><td>曲げ材 ○ _____</td><td>2.0</td><td></td><td>○ BC-1種 ○ BC-2種</td></tr><tr><td>○ オブ ン形式</td><td></td><td>○ _____</td><td>○ C種</td><td></td></tr><tr><td>○ シ ール形式</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 既存笠木等の撤去 ● 行う （範囲 ● 図示 ○ _____） ○ 行わない 下地補修の工法 図示 ○ 板材折曲げ形の笠木取付方法 図示 ○ 建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 図示による ● 風速 V0=32、地上面粗度区分 _____	材 質	そ の 他	たてとい及び横走り管 ○ SGP ○	径 75mm	とい受け金物、足金物	改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下	防露巻き	改修標仕表3.8.3による F	種 類	幅	板厚 (mm)	表 面 処 理	備 考	● 250 形	250	1.6	○ AB-1種 ○ AB-2種	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。 ● 避雷導体仕様	○ 300 形	300	1.8	○ AC-1種 ○ AC-2種	○ 350 形	350	2.0	○ BA-1種 ○ BA-2種	● 500 形	500		● BB-1種 ○ BB-2種	曲げ材 ○ _____	2.0		○ BC-1種 ○ BC-2種	○ オブ ン形式		○ _____	○ C種		○ シ ール形式					4	外 壁 改 修 工 事	(4.1.4) (4.3.5) ～ (4.3.8) ○ モルタル塗り仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr><tr><td>自動式低圧I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>200～300</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ 手動式I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>○ 50～100</td><td>○ 40</td></tr><tr><td>○ 機械式I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>○ 100～200</td><td>○ 70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>○ 150～250</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない 抜き取り個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 (4.1.4) (4.4.5) ～ (4.4.6) ○ タイル張り仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr><tr><td>自動式低圧I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>200～300</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ 手動式I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>○ 50～100</td><td>○ 40</td></tr><tr><td>○ 機械式I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>○ 100～200</td><td>○ 70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>○ 150～250</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜き検査 抜き取り個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ _____ タイル撤去後の補修 <table><tr><th>工 法</th><th>材 料</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>○ タイル部分張替え工法</td><td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂</td><td></td></tr><tr><td>○ タイル張替え工法</td><td></td><td></td></tr></table> ○ コンクリート打放し仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr><tr><td>自動式低圧I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>200～300</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ 手動式I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>○ 50～100</td><td>○ 40</td></tr><tr><td>○ 機械式I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>○ 100～200</td><td>○ 70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>○ 150～250</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない （注入状況確認方法 _____） 抜き取り個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 (4.1.4) (4.3.9) ○ モルタル塗り仕上げ <table><tr><th>工 法</th><th>材 料</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>○ 充填工法</td><td>エポキシ樹脂モルタル</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ ポリマーセメントモルタル</td><td></td></tr><tr><td>○ モルタル塗替え工法</td><td>改修標仕表4.3.3による</td><td>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示 ○</td></tr></table> ○ タイル張り仕上げ <table><tr><th>工 法</th><th>材 料</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>○ タイル部分張替え工法</td><td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td><td></td></tr><tr><td>○ タイル張替え工法</td><td>○ 張付けモルタル ○ 現場調査材料 ○ 既調合モルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td><td></td></tr></table> (4.1.4) (4.4.5) (4.4.7) ～ (4.4.8)	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	自動式低圧I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130					○ 手動式I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40	○ 機械式I [※] 杉樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70		0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130					工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	自動式低圧I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130					○ 手動式I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40	○ 機械式I [※] 杉樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70		0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130					工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂		○ タイル張替え工法			工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	自動式低圧I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130					○ 手動式I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40	○ 機械式I [※] 杉樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70		0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130					工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	エポキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		○ モルタル塗替え工法	改修標仕表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示 ○	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ タイル張替え工法	○ 張付けモルタル ○ 現場調査材料 ○ 既調合モルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		4	外 壁 改 修 工 事	伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修標準仕様書表4.4.2による ○ タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ○ 行う ○ 行わない 抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ セメントモルタルによるタイル張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○ タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り ○ 有機系接着剤によるタイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ポリウレタン系 ○ 伸縮調整目地その他の目地 変性シリコン系 ○ タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル ○ _____ アンカーピン ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ 注入口付アンカーピン ステンレス鋼（SUS304）呼び径6mm程度 ○ 注入工法用材料 ○ ポリマーセメントスラリー <table><tr><th>広がり速度 (cm/s)</th><th>長さ変化率 (収縮) (%)</th><th>引張接着性 (材齢28日) (N/mm2)</th><th>曲げ性能 (材齢28日) (N/mm2)</th><th>吸水性 (72時間) (%)</th><th>耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm2)</th></tr><tr><td>3以上</td><td>3以下</td><td>0.5以上</td><td>5.0以上</td><td>15以上</td><td>5.0以上</td></tr></table> 保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00 ○ 充填工法用材料 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗替え工法用材料 既製目地材 ○ 使用する（形状 _____） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示 ○ (4.1.4) (4.4.5) (4.4.9) ～ (4.4.15) ○ タイル張り仕上げ <table><tr><th>工 法</th><th>アノカベ ン（本 / m²）一般部 指定部</th><th>注 入 口（箇所 / m²）一般部 指定部</th><th>充 填 量（箇所 / ml）</th><th>注 入 量（箇所 / ml）</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 部分 I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>16 ○ 25 ○</td><td></td><td>25 ○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 全面 I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>13 ○ 20 ○</td><td>12 ○ 20 ○</td><td></td><td>25 ○</td><td></td></tr><tr><td>○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 全面 I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>13 ○ 20 ○</td><td>12 ○ 20 ○</td><td></td><td>50 ○</td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アノカベ ン ン ン ン ン ン 部分 I[※] 杉樹脂注入工法</td><td>9 ○ 16 ○</td><td></td><td>25 ○</td><td></td><td></td></tr><</table>	広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm2)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm2)	吸水性 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上	工 法	アノカベ ン（本 / m ² ）一般部 指定部	注 入 口（箇所 / m ² ）一般部 指定部	充 填 量（箇所 / ml）	注 入 量（箇所 / ml）	施 工 箇 所	○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 部分 I [※] 杉樹脂注入工法	16 ○ 25 ○		25 ○			○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 全面 I [※] 杉樹脂注入工法	13 ○ 20 ○	12 ○ 20 ○		25 ○		○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 全面 I [※] 杉樹脂注入工法	13 ○ 20 ○	12 ○ 20 ○		50 ○		○ 注入口付アノカベ ン ン ン ン ン ン 部分 I [※] 杉樹脂注入工法	9 ○ 16 ○		25 ○		
			材 質	そ の 他																																																																																																																																																																																																													
たてとい及び横走り管 ○ SGP ○	径 75mm																																																																																																																																																																																																																
とい受け金物、足金物	改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下																																																																																																																																																																																																																
防露巻き	改修標仕表3.8.3による F																																																																																																																																																																																																																
種 類	幅	板厚 (mm)	表 面 処 理	備 考																																																																																																																																																																																																													
● 250 形	250	1.6	○ AB-1種 ○ AB-2種	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。 ● 避雷導体仕様																																																																																																																																																																																																													
○ 300 形	300	1.8	○ AC-1種 ○ AC-2種																																																																																																																																																																																																														
○ 350 形	350	2.0	○ BA-1種 ○ BA-2種																																																																																																																																																																																																														
● 500 形	500		● BB-1種 ○ BB-2種																																																																																																																																																																																																														
曲げ材 ○ _____	2.0		○ BC-1種 ○ BC-2種																																																																																																																																																																																																														
○ オブ ン形式		○ _____	○ C種																																																																																																																																																																																																														
○ シ ール形式																																																																																																																																																																																																																	
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																														
自動式低圧I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130																																																																																																																																																																																																														
○ 手動式I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40																																																																																																																																																																																																														
○ 機械式I [※] 杉樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70																																																																																																																																																																																																														
	0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130																																																																																																																																																																																																														
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																														
自動式低圧I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130																																																																																																																																																																																																														
○ 手動式I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40																																																																																																																																																																																																														
○ 機械式I [※] 杉樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70																																																																																																																																																																																																														
	0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130																																																																																																																																																																																																														
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																															
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂																																																																																																																																																																																																																
○ タイル張替え工法																																																																																																																																																																																																																	
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																														
自動式低圧I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130																																																																																																																																																																																																														
○ 手動式I [※] 杉樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40																																																																																																																																																																																																														
○ 機械式I [※] 杉樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70																																																																																																																																																																																																														
	0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130																																																																																																																																																																																																														
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																															
○ 充填工法	エポキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																
○ モルタル塗替え工法	改修標仕表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示 ○																																																																																																																																																																																																															
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																															
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																
○ タイル張替え工法	○ 張付けモルタル ○ 現場調査材料 ○ 既調合モルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																
広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm2)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm2)	吸水性 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm2)																																																																																																																																																																																																												
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上																																																																																																																																																																																																												
工 法	アノカベ ン（本 / m ² ）一般部 指定部	注 入 口（箇所 / m ² ）一般部 指定部	充 填 量（箇所 / ml）	注 入 量（箇所 / ml）	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																												
○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 部分 I [※] 杉樹脂注入工法	16 ○ 25 ○		25 ○																																																																																																																																																																																																														
○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 全面 I [※] 杉樹脂注入工法	13 ○ 20 ○	12 ○ 20 ○		25 ○																																																																																																																																																																																																													
○ アノカベ ン ン ン ン ン ン 全面 I [※] 杉樹脂注入工法	13 ○ 20 ○	12 ○ 20 ○		50 ○																																																																																																																																																																																																													
○ 注入口付アノカベ ン ン ン ン ン ン 部分 I [※] 杉樹脂注入工法	9 ○ 16 ○		25 ○																																																																																																																																																																																																														

4

外壁改修工事

11

タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法
(4.4.5) (4.4.7) ~ (4.4.8)

12

窓下人研面台の補修

仕上塗材 (4.1.5)

(4.5.2) (4.5.6)

特記事項

施工箇所及びタイルの種類

形状寸法(mm)

生地

釉薬

役物

色

耐凍害性

耐滑り性

工法その他

○ 既調合モルタル ()

タイルの試験張り

行わない

○ 行う (施工箇所)

タイルの見本焼

行わない

○ 行う (範囲、仕様は図示による)

施工後の確認及び試験 (タイル部分張替え工法を除く)

浮きの確認

全面打診による確認を行う

接着力の試験

接着力試験機による接着力試験を行う

○ 行わない

タイル張替え工法の伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地位置

改修標準表4.4.2による

○ 図示による

○ シール工法 (仕上塗材は外壁仕上塗材の上塗り材とする。)

塗膜防水 (弾性ウレタン系

○ エポキシ系)

薄付け仕上塗材 (JIS A 6909)

(表4.5.1)

種類(呼び名)	仕上	工法	備考
○ 外装薄塗材 Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け
○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 可とう形外装薄塗材 Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け
○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 外装薄塗材 E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け
○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 着色骨材砂壁状	○ こて塗り	○ 吹付け	
○ 可とう形外装薄塗材 E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け
○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 防水形外装薄塗材 E (増塗材)	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り
○ 凹凸状	吹付け		
○ 外装薄塗材 S	砂壁状	吹付け	

厚付け仕上塗材 (JIS A 6909)

(表4.5.1)

種類(呼び名)	仕上	工法	備考
○ 外装厚塗材 C	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け
○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
(○ 上塗材)	○ ひき起こし	○ かき落とし	
○ 外装厚塗材 Si	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け
○ 外装厚塗材 E	○ 平たん状	○ 凹凸状	○ こて塗り
(○ 上塗材)	○ ひき起こし	○ ローラ-塗り	

複層仕上塗材 (JIS A 6909)

(表4.5.1)

種類(呼び名)	仕上	工法	備考
○ 複層塗材 C E	○ 凸部処理	吹付け	
○ 複層塗材 Si	○ 凹凸状		
● 複層塗材 E			
○ 複層塗材 R E	● ゆず肌状	ローラ-塗り	
○ 可とう形複層塗材 C E	○ 凸部処理	○ 凹凸状	吹付け
○ ゆず肌状	吹付け	ローラ-塗り	
○ 防水形複層塗材 C E	○ 凸部処理	吹付け	
○ 防水形複層塗材 E	○ 凹凸状	(増塗材)	
○ 防水形複層塗材 R E	○ ゆず肌状	ローラ-塗り	

可とう形改修用仕上塗材 (JIS A 6909)

(表4.5.1)

種類(呼び名)	仕上	工法	備考
○ 可とう形改修塗材 E	○ 平たん状	ローラ-塗り	
○ 可とう形改修塗材 R E	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 可とう形改修塗材 C E	○ ゆず肌状	吹付け	

防火材料の指定

なし

○

下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上

補修

行う (参考工法: 製造所:)

○ 行わない

仕上塗材の耐候性

耐候形 3 種

○

仕上塗材の上塗材

溶媒

水系

○

樹脂

アクリル系

○

外観

つや有

○ つやなし

○ メタリック

既存塗膜等の除去及び下地処理

(4.5.4) (4.5.5)

既存塗膜の除去方法

試験施工実施

○ サンダー工法

○ 高圧水洗工法 (試験施工実施) (加圧力 ○ 30Mpa ○)

○ 塗膜はく離剤工法 (製造所:)

● 水洗い工法 (○ 高圧水洗 10~15pa)

既存塗膜の除去範囲

既存仕上

面全体

○ 既存壁面の (%)

○ 別図に示す範囲

4

外壁改修工事

特記事項

下地処理

下地のひび割れ部等の補修

○ 図示による

下地調整材

セメント系下地調整材 (JIS A 6916)

○ ポリマーセメントモルタル

○ 防水形仕上塗材主材 (JIS A 6910(複層仕上塗材))

種別

○ A 種

B 種

(表4.6.1)

15

マステック塗材塗り (4.1.5) (4.6.2)

16

部分改修工法 (4.5.7)

17

外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.7.2) (4.7.3)

外壁用塗膜防水塗り

仕上の形状

工法

外壁用仕上塗材の耐候性

○

下地挙動緩衝材の適用

○ 適用する

○ 適用しない

吹付け工法の模様材の種類

所要量 (kg/m²)

外壁用仕上塗材の種類

所要量 (kg/m²)

5

建具改修工事

1

性能

2

施工数量調査 (1.6.2)

3

改修工法 (5.1.3)

4

防火戸 (5.1.4)

5

見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)

6

防犯建物部品 (5.1.7)

7

アルミニウム製建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)

「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

行う (建具金物

○ ガラス

○ ガラス止め材

○

施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。

○ 行わない

既存建具を新規建具に改修する場合

かぶせ工法 (カバー工法

○ 持出し工法

○ ノンシール工法)

○ 撤去工法 (はつり工法

○ 引き抜き工法)

新規に建具を設置する場合

新規建具を設ける壁の開口方法

図示による

○

新規建具周囲の補修工法及び範囲

図示による

○

図示による

○

防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動

○ 連動させる (建具表による

○

○ 連動させない

建具見本の製作

○ 行う (建具番号

○

特殊な建具の仮組

○ 行う (建具番号

○

○ ブラインドボックス等の再使用 (

○

開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所

・ ドア

適用箇所 (

○

・ サッシ

適用箇所 (

○

・ シャッター

適用箇所 (

○

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1)

性能等級	○ A 種	○ B 種	○ C 種				
耐風圧性	S - 4	○	S - 5	○	S - 6	○	
気密性	A - 3			○	A - 4		○
水密性	W - 4			○	W - 5		○
枠見込み(mm)	図示			○ 70	○ 100	○ 図示	○

表面処理 (表5.2.2)

種別	色	施工箇所		
○ B - 1 種	○ 標準	○ 特注	図示による	○
○ B - 2 種	○ 標準	○ 特注	図示による	○
○	○ 標準	○ 特注		
○	○ 標準	○ 特注		
○	○ 標準	○ 特注		

○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級

○

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級

○

結露水の処理方法

○ 水貯め式

○ 排水式

図示による

○

水切り、ぜん板等

図示による

○

ステンレス製のくつずりの仕上

HL

○

8

網戸等 (5.2.3) (5.3.3)

5

建具改修工事

9

樹脂製建具 (5.3.2) ~ (5.3.5)

10

鋼製建具 (5.2.2) (5.4.2) ~ (5.4.4)

11

鋼製軽量建具 (5.2.2) (5.2.2) ~ (5.5.4)

12

ステンレス製建具 (5.2.2) (5.4.2) (5.6.2) ~ (5.6.5)

防虫網

網の種類

合成樹脂製

○ ガラス繊維入り合成樹脂製

○ ステンレス製 (SUS316)

形式

外部可動式

○ 固定式

線径、網目

0.25mm以上、16~18メッシュ

○

防鳥網

○ 設置する

外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表5.3.1)

性能等級	○ A 種	○ B 種	○ C 種				
耐風圧性	S - 4	○	S - 5	○	S - 6	○	
気密性	A - 4			○			
水密性	W - 4			○	W - 5		○
枠見込み(mm)	図示			○			

○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級

○ T-1

○ T-2

○

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級

○ H-4

○ H-5

○ H-6

○ H-7

○ H-8

○

ガラス

複層ガラス

○ 単板ガラス

○ 三重ガラス

○

表面色

○ 標準色

○ 特注色

水切り、ぜん板等

図示による

○

ステンレス製のくつずりの仕上

HL

○

外部に面する建具の耐風圧性

耐風圧性能の等級 (○

○

(表5.2.1)

簡易気密庫の気密性、水密性

適用する

○ 適用しない

(表5.4.1)

○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級

○

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級

○

○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級

○

JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は改修標準による)

製造所標準製作規定寸法許容差による

鋼板類の厚さ

表5.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅

が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)

○ mm

ステンレス製のくつずりの仕上

HL

○

標準型鋼製建具の形式及び寸法

建具表による

簡易気密型ドアセットの気密性

適用する (A - 3)

○ 適用しない

○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級

○

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級

○

○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級

○

鋼板

表面処理亜鉛めっき鋼板

○ ビニル被覆鋼板

○ カラー鋼板

鋼板類の厚さ

表5.4.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅

が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)

○ mm

召合せ、縦小口包み板の材質

鋼板

○

ステンレス製のくつずりの仕上

HL

○

標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法

建具表による

外部に面する建具の耐風圧性

耐風圧性能の等級 (○

○

(表5.2.1)

簡易気密庫の気密性、水密性

適用する

○ 適用しない

(表5.4.1)

○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級

○ T-1

○ T-2

○ T-3

○

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級

○ H-2

○ H-3

○

○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級

○ D-1

○ D-2

○

ステンレス鋼板の種類

○ SUS304

○ SUS430J1L

○ SUS443J1

○

ステンレス製のくつずりの仕上

HL

○

JISただし書き建具の寸法許容差

製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上

HL

○ 鏡面仕上

曲げ加工

普通曲げ

○ 角出し曲げ

13

建具用金物 (5.8.2) ~ (5.8.4)

5

建具改修工事

マスターキーの製作

作成する (グループ、各グループ 個)

○ 作成しない

○ 在来マスターキーに合わせる

鍵の制作本数

3 本 1 組 (室名札付き)

○

鍵箱

無

○ 有

開き戸 (表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
○ シリンダー錠	○ 握り玉: ステンレス	○ 取付位置 ()
	○ 鍵ノド: アルミ: アルミ合金, (ステンレス, 黄銅)	実用性能項目
		グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)
		○ 耐じん性能のグレード
○ 本締り錠	シリンダーノド: ステンレス	実用性能項目
		グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)
		○ 耐じん性能のグレード
○ 空錠	○ 握り玉: ステンレス	○ 取付位置 ()
	○ 鍵ノド: アルミ: アルミ合金, (ステンレス, 黄銅)	
○ グレモン錠	鍵ノド: アルミ: アルミ合金, (ステンレス)	○ 取付位置 ()
ケースハンドル錠	ステンレス	
点検口錠	亜鉛合金程度, (ステンレス)	
丁番	ステンレス, (黄銅)	
○ ビボットヒンジ	鍵ノド: ステンレス, (亜鉛合金)	亜鉛合金は木製建具用のみ
点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き
○ フロアヒンジ	鍵ノド: ステンレス, (本体は鋼)	ドアクローザー
○ ヒンジノドノド (丁番型)	鋼 (焼付け塗装)	○ 遅延閉り機能付き
○ ヒンジノドノド (ビレット型)	鍵ノド: ステンレス, (本体は鋼)	
○ ドアクローザー	本体: アルミ合金	
	アルミ: 鋼 (焼付け塗装)	
閉鎖順位調整器	ステンレス, (鋼)	
○ 押棒・押板	(ステンレス, 黄銅, 合成樹脂)	○ 取付位置 ()
上げ落とし (フランス落とし)	亜鉛合金程度, (ステンレス)	
○ アルミノド	鋼 (角めっき), (ステンレス)	
戸当り	亜鉛合金程度, (ステンレス, 黄銅)	○ おおもり止め付き

引戸 (表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
引戸用錠		木製建具の場合
		: シリンダーノド等はステンレス
○ クレセント	建具製作所の仕様による。	○ 取付位置 ()
引手類		木製建具の場合: ステンレス (黄銅)
戸車 (上吊りの場合を除く)		
レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス, (アルミ合金	黄銅は木製建具用のみ

窓 (表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
クレセント・調整器・ヒンジ等	建具製作所の仕様による。	

金属製建具用丁番

表 5.8.2 による

樹脂製建具用丁番

表 5.8.3 による

駆動装置及び検出装置の性能

○ 引き戸用駆動装置性能値

改修標準 表5.9.1 による (○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2)

種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源

○ 車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置性能値

改修標準 表5.9.2 による

種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源

14

自動ドア開閉装置 (5.9.2) ~ (5.9.3)

工事名

うじ安心館屋上防水ほか改修工事

図番

A-06

設計番号

設計年度

令和 年 月

Ver. R04 (R05.02)

7

塗装改修工事

素地ごしらえ
(7.3.2) ~ (7.3.7)

錆止め塗料塗り
(7.4.2) (7.4.3)

塗装工程
(7.5.2) ~ (7.13.2)

(表7.3.2) ~ (表7.3.7)

特記事項		種別	
下地面等		A種 ○ B種	
木部	不透明塗料塗りの場合	A種 ○ B種	
	透明塗料塗りの場合	○ A種 ○ B種 ○ C種	
鉄鋼面 (DP以外)		○ A種 ○ B種 ○ C種	
鉄鋼面 (DP)		○ A種 ○ B種 ○ C種	
亜鉛めっき鋼面		○ A種 ○ B種	
珪藻面及びせっこう板面 (DP)		○ A種 ○ B種	
コンクリート面 (DP以外) 及びALC板面		○ A種 ○ B種	
押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP)		○ A種 ○ B種	
コンクリート面 (DPのみ)		○ A種 ○ B種	
せっこう板面及びその他の板面	目地: 継目処理工法	A種 ○ B種	
	目地: 継目処理工法以外	○ A種 ○ B種	

錆止め塗料の種類

素地面	塗装の種類	塗料の種類	工程の種類	備考	
鉄鋼面	SOP (工程の種類別は表7.4.3)	塗替え	○ A種	C種 ○	
	E P - G (工程の種類別は表7.4.3)	新規見え掛り	○ A種	A種 ○	
		新規見え隠れ	○ A種	B種 ○	
	D P (工程の種類別は表7.4.4)	塗替え	○ A種 ○ B種	A種 ○	
		新規	7.4.2(1)(イ) (a)による	● B種 (下地調整) ○ C種 (下地調整)	鉄鋼面に準ずる
	亜鉛めっき鋼面	SOP (工程の種類別は表7.4.5)	塗替え	A種 ○ B種	C種 ○
		E P - G (工程の種類別は表7.4.5)	新規鋼製建具等	A種 ○ B種	A種 ○
			その他	B種 ○	B種 ○
		D P (工程の種類別は表7.4.6)	塗替え	○ C種 ○	C種 ○
			新規鋼製建具等	○ C種 ○	A種 ○
その他		塗替え	○ C種 ○	B種 ○	
		新規	● B種 ○	-	

工程の種類別 (表7.5.1) ~ (表7.13.1)

記号	名称	種別			
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	木部	新規外部 ○ A種 ○ B種 ○ C種		
		新規内部	○ A種 ○ B種 ○ C種		
			塗替え ○ A種 ○ B種 (外部の場合工程3, 工程4は行わない) ○ C種		
		鉄鋼面	○ A種 ○ B種 ○ C種		
		亜鉛めっき面	鋼製建具	A種 ○ B種 ○ C種	
	塗替え		○ A種 ○ B種 ○ C種		
	その他塗替え・新規	○ A種 ○ B種 ○ C種			
		C L	珪藻面塗り	○ A種 (着色塗料の種類) ○ B種	
	NAD	アル樹脂系非水分散形塗料塗り	○ A種 ○ B種		
			DP	耐候性塗料塗り	鉄鋼面
亜鉛めっき鋼面					○
コンクリート面及び押出成形セメント板面					○ A-1種 ○ B-1種 ○ C-1種
上塗り					● 1級 ふっ素樹脂系等 ○ 2級 シリコン系等 ○ 3級 ポリウレタン系等
E P - G		つや有合成樹脂珪藻面・せっこう板面・珪藻面・せっこう板面・その他板面	コンクリート面	○ A種 ○ B種 ○ C種	
			珪藻面・せっこう板面	しみ止め ○	
			その他板面	しみ止め剤 (B種及びC種の場合)	
			木部	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種	
			塗替え	○ A種 ○ B種 ○ C種	
鉄鋼面	亜鉛めっき鋼面	○ A種 ○ B種 ○ C種			
		○ A種 ○ B種 ○ C種			
		○ A種 ○ B種 ○ C種			
		○ A種 ○ B種 ○ C種			
		○ A種 ○ B種 ○ C種			
E P	合成樹脂珪藻面・ペイント塗り	○ A種 ○ B種 ○ C種			
		しみ止め ○			
		しみ止め剤 (B種及びC種の場合)			
		○ A種 ○ B種 ○ C種			
		○ A種 ○ B種 ○ C種			
UC	珪藻面・珪藻面・珪藻面	○ A種 ○ B種			
		○ ビンタス・珪藻面 (表7.13.1)			
		○ 珪藻面塗り (OS)			
		○ A種 ○ B種			
		○ A種 ○ B種			
WP	木材保護塗料塗り	○ A種 ○ B種			
		○ A種 ○ B種			
		○ A種 ○ B種			
		○ A種 ○ B種			
		○ A種 ○ B種			
クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用	○ 適用する (着色剤: ○ 溶剤系着色剤 ○ 油性染料着色剤) ○ 適用しない				
		ウレタン樹脂珪藻面・珪藻面・珪藻面の工程1の着色の適用	○ 適用する ○ 適用しない		
				オイルステイン塗りの工程等	○

8

耐震補強工事 (鉄筋工事)

1 鉄筋の種類
(8.2.1)

2 溶接金網
(8.2.2)

3 鉄筋の継手及び定着
(8.3.4) (8.4.2) (8.4.3)

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(8.3.5)

5 圧接完了後の試験
(8.3.8)

6 割裂補強筋
(8.21.6) (8.22.7)

(表8.2.1)

異形鉄筋	種類の記号	径 (mm)	備考
SD295	S D 2 9 5	D 1 6 以下	SD295はFc:21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する
	S D 3 4 5	D 1 9 以上	
	○		

綱目の形状、寸法 鉄線の径 (mm)

部 位	接 合 方 法	径 (mm)	
○	○ 重ね継手	○ ガス圧接継手	D 1 9 以上
	○ 機械式継手	○ 溶接継手	
	○ 重ね継手	○ ガス圧接継手	D 1 6 以下
	○ 機械式継手	○ 溶接継手	

○ 機械式継手 適用箇所、性能、種類、鉄筋相互のあき 構造図による
施工完了後の継手部の試験 行う ○ 行わない
不合格となった継手部への措置等 監督職員と協議する
○ 溶接継手 適用箇所、性能、工法、鉄筋相互のあき 構造図による
溶接完了後の溶接部の試験 行う ○ 行わない
不合格となった溶接部への措置等 監督職員と協議する

○ 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ 構造図による ○
○ 鉄筋継手位置 構造図による ○ 表8.3.3による
○ 鉄筋の定着長さ 構造図による ○ 表8.3.4による
○ 機械式定着工法 適用箇所、種類 構造図による
○ 帯筋組立の形、継手及び定着 構造図による

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ 構造図による ○ 表8.3.6による (次の2項目のかぶり厚さを除く。)
○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。
○ 塩害の及けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

施 工 箇 所 等	最 小 か ぶ り 厚 さ (mm)

機械式継手及び溶接継手のあき ○

試験方法
○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。

形状 ○ スパイラル筋 ○
種類の記号 ○ SR235 または SWM-P ○
呼び径、曲げ直径、ピッチ ○ 図示による () ○

8

耐震補強工事 (コンクリート工事)

1 コンクリートの強度
(8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2)

2 普通コンクリートの材料
(8.2.5)

コンクリートの類別 類 ○ 類

○ 普通コンクリート

打 設 部 位	Fc (N/mm ²)	スランプ (cm)	備考
構造体	基礎	○ 2 4 ○ ○ 1 8 ○	
	上部	○ 2 4 ○ ○ 1 8 ○	

○ 軽量コンクリート

打 設 部 位 (適用箇所)	Fc (N/mm ²)	スランプ (cm)	備考
	○ 2 1 ○	2 1 ○	

構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
(Fc + 構造体強度補正值 (S)) / N/mm²
(標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)

普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
○ 高炉セメントのB種 (施工箇所) ○
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントのB種 (施工箇所) ○

骨材
粗骨材 砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H
細骨材 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フェリススラグ ○ 再生骨材H
アルカリシリカ反応性による区分 A (無害) ○

8

耐震補強工事 (コンクリート工事)

3 構造体強度補正值
(8.2.5)

4 構造体用モルタル
(8.2.6)

5 型枠 (せき板)
(8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)

(表8.2.4)

気温による構造体強度補正值 (S)		期 間 (打 設 日)			
予想平均気温 ()	補正值 (S)	南部地域	中部地域	北部地域	
普通	早強	3	3/6 ~ 6/31	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10
8以上	5以上	N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31
0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10
8未満	5未満	N/mm ²			

南部地域 (京都市 (一部を除く)、旧八木町、旧園町以南の市町村)
北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町)
中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む)

モルタル圧縮強度 フロー値

合板の規格 「合板の日本農林規格」の「コンクリート用合板の規格」による合板
○
合板の材質 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○
厚さ (mm) 1 2 ○

打放し仕上げのせき板 (表8.1.4)

種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所
○ A種	8.2.7 (2) (7) ○	
○ B種	8.2.7 (2) (4) ○	
○ C種	8.2.7 (2) (4) ○	

○ 合板せき板を用いない場合
せき板の材料

コンクリートの仕上げの平たんさ

種 別	適 用 箇 所
○ a種	
○ b種	
○ c種	

8

耐震補強工事 (鉄骨工事)

1 鉄骨の製作工場
(8.1.5)

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者
(8.1.6)

3 鋼材の種類
(8.2.8)

4 高力ボルト
(8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

鉄骨の製作工場 (8.1.5)

○ 監督職員の承諾する工場
建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 (○ S ○ H ○ M ○ R ○ J) グレード以上

鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.6)

○ 適用する ○ 適用しない

鋼材の種類 (8.2.8)

種類の記号	使用箇所	規格等
SS400		JIS G 3101
SM400A		JIS G 3106
SN400A		JIS G 3136

図示による

高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

ボルトの種類
○ トルシア形高力ボルト (建築基準法の認定品)
○ JIS形高力ボルト (JIS B 1186) 2種 (F10T)
○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (建築基準法の認定品、1種 (F8T))

ねじの呼び
すべり係数試験 (対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する)
○ 行わない
○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○
JIS形高力ボルトの本締めで、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量

工事名

うじ安心館屋上防水ほか改修工事

図番

A-08

設計番号

設計年度

令和 年 月

Ver. R04 (R05.02)

8
1
8

耐震補強工事（柱補強工事）

6連続繊維補強
工法（8.2.13）
（8.24.6）

工法
○（一財）日本建築防災協会の評価を受けた工法
○
材料
○炭素繊維 ○アラミド繊維 ○ガラス繊維
性能
引張強度 N/mm2 ヤング係数 N/mm2
製造所
製品名
柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ
炭素繊維シート 20mm以上 ○
アラミド繊維シート 10mm以上 ○
仕上げモルタルの除去
構造躯体まで除去する ○ EFL除去は行わない
ひび割れ部改修
○モルタル打放し仕上げ 樹脂注入工法
○ EFL塗り仕上げ 樹脂注入工法
炭素繊維の目付量 図示による ○
炭素繊維シートの巻数 図示による ○
引張強度試験 行う 試験数量 （ ）
○ 行わない
付着強度試験 行う 試験数量 （ ）
○ 行わない
7 仕上げ（8.23.7）
（8.24.7）
図示による ○

8
1
9

耐震補強工事（耐震スリット）

1耐震スリット新設工事（8.25.2）

方 向	タ イ プ	耐 火 性 能	防 水 性 能
○ 垂直方向	完全（全貫通型）スリット	○ 耐火型	○ 有り
○ 水平方向	○ せん断型部分スリット	○ 非耐火型	○ 無し

品質・規格

既存仕上げの撤去範囲
○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。
設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。
既存鉄筋の処理
○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット)
耐震スリットの幅及び深さ ○ 図示による ○
耐震スリットの充填材
耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない
適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○
遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない
適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○
既存部分の撤去の補修
図示による ○

8
1
10

耐震補強工事（免震改修）

1 既存部分の撤去（8.26.5）

既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲
○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。
設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。
既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。
はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置
○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。

2 既存部分の処理（8.26.6）

既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度
既存柱・梁
○ 図示による 本特記仕様書8-6-3による。
壁（増打ち壁増設の場合）
○ 図示による 本特記仕様書8-6-3による。

3 支承材・減衰材（8.26.7）
（8.26.10）

○ 支承材
材質 諸元
○ 減衰材
材質 諸元
性能確認試験
項目 数量
製品検査
項目 内容
判定基準 検査頻度
防錆処置
設置位置の寸法許容差
既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合
割製補強筋
「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」
A₁ 鉄筋は直径6mm以上とし、ピッチは40～60mmとする。
○ 図示による

8
1
10

耐震補強工事（免震改修）

4 仕上げ（8.26.13）

図示による ○

5 耐火被覆（8.26.14）

仕様

6 EFL[※]ジョイント（8.26.15）

仕様
工法

7 検査（8.26.16）

項目 数量

8 維持管理要領（8.26.17）

維持管理要領に記載する項目
維持管理の目的 点検種別（○ 定期点検 ○ 応急点検 ○ 詳細点検）
点検の実施時期 点検項目 統括管理体制
点検・検査結果の保管 ○
維持管理に必要な計測機器の設置
○ 地震計 （仕様 ）
○ 下げ振り （仕様 ）
○ けがき板 （仕様 ）
○ 別置き試験体 （仕様 ）
○ （仕様 ）

8
1
12

耐震補強工事（基礎工事）

1 既存部分の処理等（8.28.2）

既存杭の撤去等
○ 撤去範囲及び方法 ○ 図示による（ ）
○ 杭頭部の処理 ○ 図示による（ ）
○ 既存杭の補強 ○ 図示による（ ）
○ 既存杭の健全性を確認する試験
○ 図示による（ ）
2 埋戻し及び盛土（8.28.3）

埋戻し及び盛土の種別 改修標準仕様書8.28.1による
○ A種 適用箇所（ ）
○ B種 適用箇所（ ）
○ C種 適用箇所（ ）土質（ ）
○ D種（細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上根を50%未満とする）
適用箇所（ ）
○ その他（材料 工法 ）
地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理
○ 図示による ○
山留め壁等の存置箇所（ 図示 ○ ）
3 杭地業（8.2.15）
（8.28.4）

支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ
○ 図示による（ ）
杭の材料、工法、寸法、施行方法等
○ 図示による（ ）
○ 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施行方法
○ 図示による（ ）
○ 杭の継手の箇所数、材料、工法等
○ 図示による（ ）
○ 杭の溶接継手 技能資格者の技量 ○ 図示による（ ）
溶接部の確認 ○ 図示による（ ）
○ 杭頭の処理 ○ 処理する ○ 処理しない
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
○ 図示による（ ）
○ 杭頭の中詰め材料 基礎のコンクリートと同調合のもの ○
杭の精度
水平方向の位置ずれ ○ 径径の1/4かつ100mm以下 ○ 評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度 ○ 1/100以内 ○ 評定等の評価内容による
記録する施工状況等
○ 図示による（ ）
4 砂利地業等（8.2.15）

材料 再生クラッシャーラン ○ 切込砂利 ○ 切込砕石
砂利厚さ ○ 60mm
砂地業 ○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂
5 捨コンクリート地業（8.28.4）

捨コンクリートの厚さ 50mm ○

9
1
9

ユニット及びその他の工事

3 可動間仕切（20.2.3）

種 類			遮 音 性	H [※] 以内に取付け可能な建具 寸 法 ・ 形 状
構 造 形 式	構成基材	表 面 仕 上		
○ バネル式 ○ スタッダ式 ○ スタッダ [※] H [※] 様式		○メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付 ○		

パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F

パネル操作方法による種類 パネル表面材・仕上 パネル圧接装置の操作方法 遮音性能

ハンガーレールの取付け下地の補強
取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障ない耐力及び変形量となるように補強する。
パネルをランナーに取り付ける部品
ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの ○
ハンガーレール及びランナー
パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、体力及び変形量が使用上支障ないもの
あと施工アンカー 材質 寸法
引抜耐力試験 行う

4 移動間仕切（20.2.4）

ハンガーレールの取付け下地の補強
取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障ない耐力及び変形量となるように補強する。
パネルをランナーに取り付ける部品
ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの ○
ハンガーレール及びランナー
パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、体力及び変形量が使用上支障ないもの
あと施工アンカー 材質 寸法
引抜耐力試験 行う

5 トイレブース（20.2.5）

表面材 ○メラミン樹脂系化粧板 ○ ポリエステル樹脂系化粧板
脚部 幅木型 ○ 足金物型
パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F
ドアエッジの材質 トイレブース製造所の仕様による ○

鋼材の種別（8.2.8）

種類の記号	使 用 箇 所	規格等
SS400	3 階屋上 消防訓練用ステージ	JIS G 3101
SM400A		JIS G 3106
SN400A		JIS G 3136
SGP	3 階屋上 消防訓練用ステージ	JIS G 3452

○ 図示による

3 階屋上 消防訓練用ステージ

垂鉛めっきの種別 材 料

A種 最低板厚4.5mm以上の形鋼、鋼板

B種 最低板厚3.2mm以上、4.5mm未満の形鋼、鋼板

C種 普通ボルト、アンカーボルト
最低板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板

素地ごしええは、JIS H 8641:2007 溶融亜鉛めっきによる。

溶融亜鉛めっき工法

天井点検口

非常用救助袋等

垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとする。
形式 ○ 傾斜式 ● 垂直式
品質・規格

図 番

A-09

設計番号

設計年度

令和 年 月

Ver. R04(R05_02)

9

ユニット及びその他の工事

10表示・標識
(20.2.11)

衝突防止表示
図示による（市販品　○ ステンレス製　径 30 mm　○ _____）
○ なし
法令に基づく表示
非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。

室名札

厚さ(mm)	材　　質	色	書　　体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5	○ アクリル板		○ 角太ゴシック	○ シルク印刷	○ 平付型
	○ アルミ板		○ 丸	○	○ 持外型

外国語表現　○ 行う　（　○ 英語　○ _____）
寸　法（mm）　○ 50×250　○ 60×250　○ 図示による

ビクトグラフ（便所、車いす、階段等）

厚さ(mm)	材　　質	印刷等の種別	取付け形式	備　　考
○ 5	○ アクリル板	○ シルク印刷	○ 平付型	
	○ アルミ板	○	○ 持外型	

寸　法（mm）　○ 150×150　○ 図示による

案内板（館内、各階、便所）

厚さ(mm)	材　　質	色	書　　体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5	○ アクリル板		○ 角太ゴシック	○ シルク印刷	○ 平付型
	○ アルミ板		○ 丸	○	○ 持外型

外国語表現　○ 行う　（　○ 英語　○ _____）
寸　法（mm）　○ 600×600　○ 100×600　○ 200×200　○ 図示による

館名板等
品質・規格_____

11タラップ
(20.2.12)

材質及び仕上げ
○ SUS304（スリップ止め加工　あり　○なし）
○ 鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（　（表14.2.2）による種別（　○種　__種　））

12ブラインド
(20.2.14)

形　式	種　　類	スラットの材質	スラット幅（mm）	ボックス・レールの材質
○ 横形	ギヤ式	アルミニウム合金	25	鋼製
	○ コード式		○ 35	○ _____
○ 縦形	2本操作コード式	○ アルミスラット	○ 80	アルミニウム
	○ 1本操作コード式	○ 加工スラット	○ 100	合金製

13ロールスクリーン
(20.2.15)

操作方法	スクリーンの材質	その他の材料	幅・高さ 取付箇所	品質等
○ スプリング式	○ ガラス繊維製	製造所の仕様	○ 図示による	
○ コード式	○ 合成・天然繊維製		○ _____	
○ 電動式	○ 木製			

14カーテン
(20.2.16)

（20.2.16）

取付箇所	形　　式	開閉操作方法	カーテン用きれ地の	ひだの種類
	シングル・ダブル・トリプル	電動　ひも引　手引	種別・品質・特殊加工等	つまみ　布片　プレーン
	○	○	○	○
	○	○	○	○
	○	○	○	○
	○	○	○	○
	○	○	○	○

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

15カーテンレール
(20.2.16)

材料　　アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材　○ ステンレス
○ _____
形式　○ 片引き　○ 引分け（暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。）
形状　○ C型　○ D型　○ 角型
強さによる区分　10-90　○ _____仕上げ　アルマイト　○ _____

16ブラインドボックス
カーテンボックス

○ 図示による　○ 市販品（アルミニウム製　押し出し型材）
仕様等　溝幅×深さ（mm）○ 90×150　○ 150×80　○ 120×80　○ _____
表面処理　○ C - 1（無着色）　○ C - 2（着色）

17くつぶきマット

材質　○ 塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製（SUS304）受枠）
○ 硬質アルミニウム合金（受枠とも）　○
○ ゴム製（ステンレス製（SUS304）受枠）

18鋼製書架及び棚

種類	規　格　等	JISによる種類
○ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	○ 1種　○ 2種　○ 3種
○ 鋼製物品棚	○ 法務省型	○ 4種　○ 5種　○ 6種

19収納家具(木製)

材質、形状、寸法
図示による _____
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
F _____

9

排水工事

20掲示板

	枠　の　材　質	表面の材質	照明器具	施　錠	品質・規格
○ 屋内	○ アルミニウム製（B-2） ○ ステンレス製（SUS304）		—	—	
○ 屋外	○ アルミニウム製（B-2） ○ ステンレス製（SUS304）		○ あり	○ あり	

21カウンター

品質・規格_____

22洗面カウンター

材　　種　　○ メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）○ 人工大理石（品質　図示）
奥行き（mm）　○ 約450　○ 約600　○ _____

23流し台ユニット

種　　類	部品寸法（mm）	規　格	仕　様
○ 流し台		○ 優良住宅部品	トラップ付き
○ コンロ台		○ 優良住宅部品	バックガード有り
○ 吊戸棚		○ 優良住宅部品	高さ 約500 mm
○ 水切り棚		○ 優良住宅部品	ステンレス製 1 段式
○			

24非常用救助袋等

垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとす。
形式　○ 傾斜式　○ 垂直式
品質・規格_____

25鍵箱

市販品　形式　約下式　○ 差込式
（　○ 30　○ 60　○ 120　○ _____）　組用（ _____）　個

26車止め

形　　式	材　　質	柱径・肉厚（mm）	高さ（mm）
○ 上下式鎖内蔵型	○ ステンレス製（SUS304）	○ φ76.3 t=2.0	○ GL+700
（　○ スプリング付き　）	○	○ φ114.3 t=2.5	○ GL+850

基礎　無筋コンクリート造　3 5 0 × 3 5 0　H 2 5 0 程度

27フェンス

表　面　仕　上　等	種	類	門扉の仕様
○ 亜鉛めっき	○ 樹脂塗装	○ メッキフェンス	○ イヤンフェンス
○ ビニル被覆	○	○ ネットフェンス	○

28防煙垂れ壁

○ 固定式

材　　質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備　考
網入り磨き板ガラス	6.8	500	アルミ製枠付き
網入り磨き板ガラス	○	○	

○ 可動式

種　　類	材　　質	高さ（mm）	備　考
垂直降下式 （巻取り型）	不燃布 （不燃認定品）	○ 800 ○	ガイドレール 固定式（壁押込型） ○ 可動式（天井収納型）
回転降下式	鋼板制又はアルミ製	○ 800 ○	表面仕上げ 天井材張り ○

降下機構
煙感知器運動及び手動開放装置（埋込型）

10

排水工事

材料　(21.2.1)

本章の項目及び特記事項の(　)内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。

材　種　（表21.2.1）	管　の　種　類	呼び径	基床の厚さ
○ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（ 1 種 ）		
● 硬質ポリ塩化ビニル管	● V P　○ V U ○ R S - V U	100A	
○ 硬質ポリ塩化ビニル管継手	○ D V　○ V U継手		

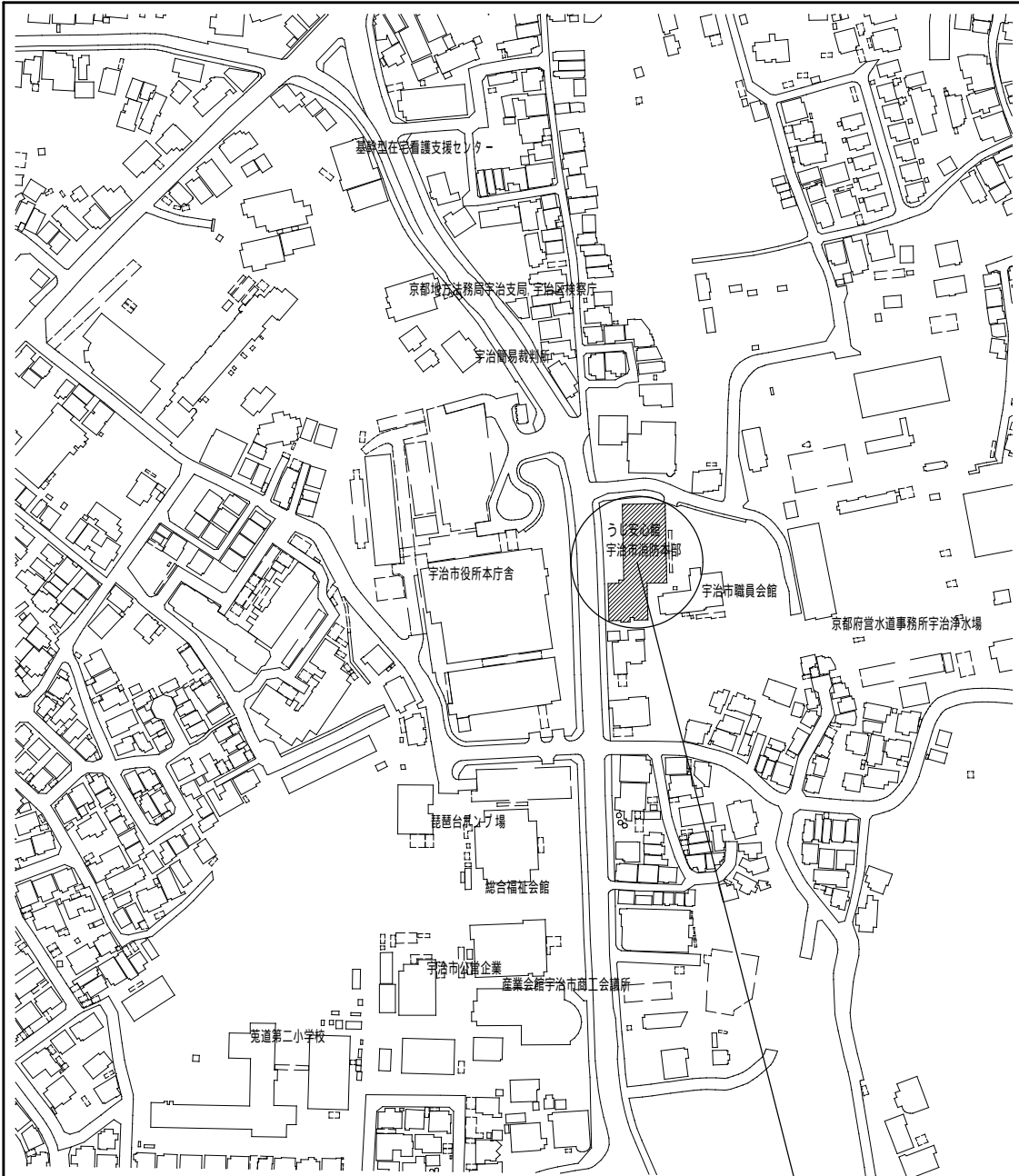
○ 凍上抑制層に用いる材料　○ 砂（　○ 砂の粒度試験　）○ _____

側溝、排水枘及び
ふた　(21.2.1)

● 側溝の形状および寸法　図示による　○ _____
● 排水枘の種類　図示による　○ _____

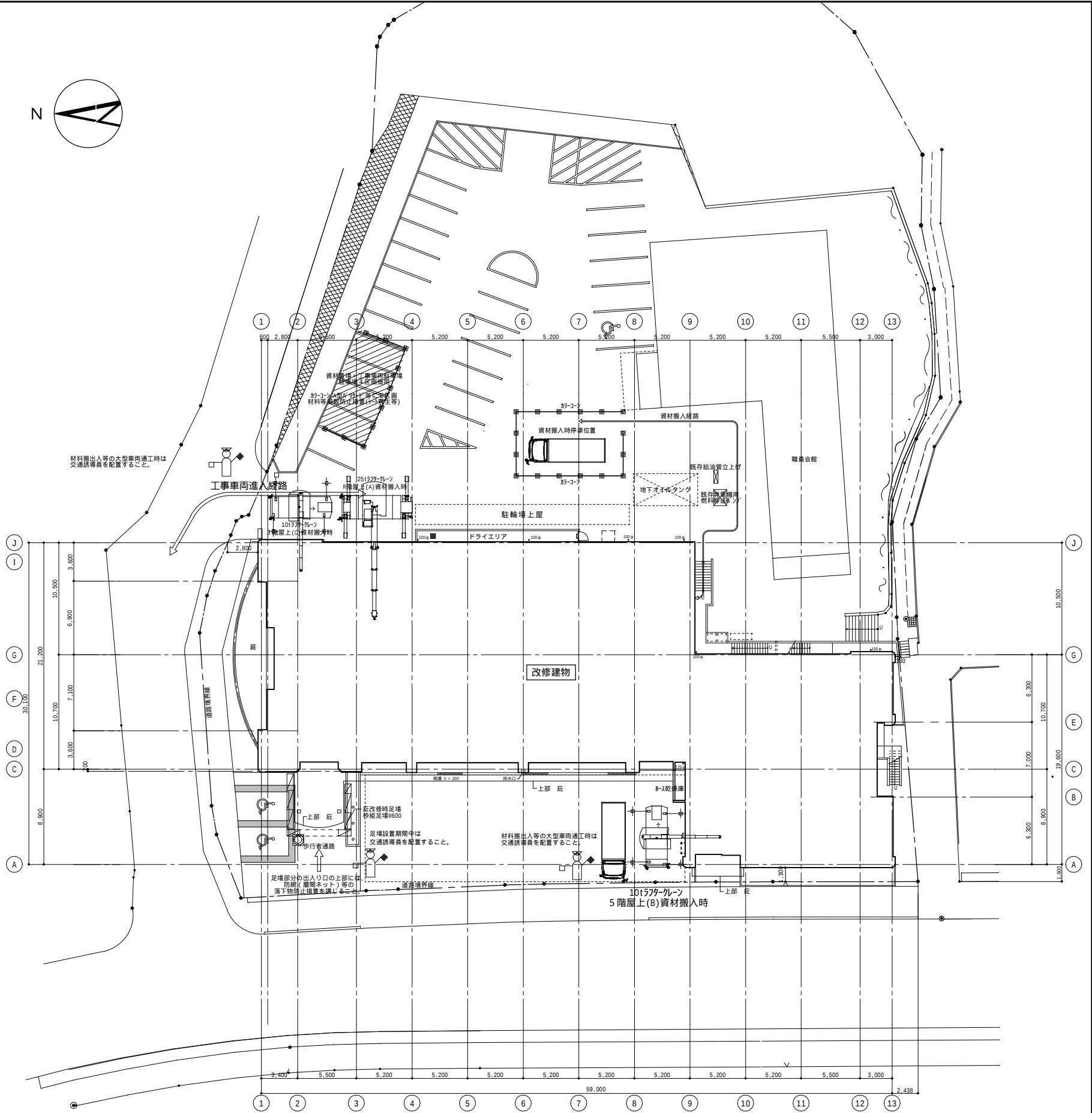
○ 鋼鉄製マンホールふたの種類

種　　類	適　用　荷　重　（安全荷重）
○ 水封形　○ 密閉形（T-1、T-2、T-3、T-4、T-5、T-6、T-7、T-8、T-9、T-10、T-11、T-12、T-13、T-14、T-15、T-16、T-17、T-18、T-19、T-20、T-21、T-22、T-23、T-24、T-25、T-26、T-27、T-28、T-29、T-30、T-31、T-32、T-33、T-34、T-35、T-36、T-37、T-38、T-39、T-40、T-41、T-42、T-43、T-44、T-45、T-46、T-47、T-48、T-49、T-50、T-51、T-52、T-53、T-54、T-55、T-56、T-57、T-58、T-59、T-60、T-61、T-62、T-63、T-64、T-65、T-66、T-67、T-68、T-69、T-70、T-71、T-72、T-73、T-74、T-75、T-76、T-77、T-78、T-79、T-80、T-81、T-82、T-83、T-84、T-85、T-86、T-87、T-88、T-89、T-90、T-91、T-92、T-93、T-94、T-95、T-96、T-97、T-98、T-99、T-100、T-101、T-102、T-103、T-104、T-105、T-106、T-107、T-108、T-109、T-110、T-111、T-112、T-113、T-114、T-115、T-116、T-117、T-118、T-119、T-120、T-121、T-122、T-123、T-124、T-125、T-126、T-127、T-128、T-129、T-130、T-131、T-132、T-133、T-134、T-135、T-136、T-137、T-138、T-139、T-140、T-141、T-142、T-143、T-144、T-145、T-146、T-147、T-148、T-149、T-150、T-151、T-152、T-153、T-154、T-155、T-156、T-157、T-158、T-159、T-160、T-161、T-162、T-163、T-164、T-165、T-166、T-167、T-168、T-169、T-170、T-171、T-172、T-173、T-174、T-175、T-176、T-177、T-178、T-179、T-180、T-181、T-182、T-183、T-184、T-185、T-186、T-187、T-188、T-189、T-190、T-191、T-192、T-193、T-194、T-195、T-196、T-197、T-198、T-199、T-200、T-201、T-202、T-203、T-204、T-205、T-206、T-207、T-208、T-209、T-210、T-211、T-212、T-213、T-214、T-215、T-216、T-217、T-218、T-219、T-220、T-221、T-222、T-223、T-224、T-225、T-226、T-227、T-228、T-229、T-230、T-231、T-232、T-233、T-234、T-235、T-236、T-237、T-238、T-239、T-240、T-241、T-242、T-243、T-244、T-245、T-246、T-247、T-248、T-249、T-250、T-251、T-252、T-253、T-254、T-255、T-256、T-257、T-258、T-259、T-260、T-261、T-262、T-263、T-264、T-265、T-266、T-267、T-268、T-269、T-270、T-271、T-272、T-273、T-274、T-275、T-276、T-277、T-278、T-279、T-280、T-281、T-282、T-283、T-284、T-285、T-286、T-287、T-288、T-289、T-290、T-291、T-292、T-293、T-294、T-295、T-296、T-297、T-298、T-299、T-300、T-301、T-302、T-303、T-304、T-305、T-306、T-307、T-308、T-309、T-310、T-311、T-312、T-313、T-314、T-315、T-316、T-317、T-318、T-319、T-320、T-321、T-322、T-323、T-324、T-325、T-326、T-327、T-328、T-329、T-330、T-331、T-332、T-333、T-334、T-335、T-336、T-337、T-338、T-339、T-340、T-341、T-342、T-343、T-344、T-345、T-346、T-347、T-348、T-349、T-350、T-351、T-352、T-353、T-354、T-355、T-356、T-357、T-358、T-359、T-360、T-361、T-362、T-363、T-364、T-365、T-366、T-367、T-368、T-369、T-370、T-371、T-372、T-373、T-374、T-375、T-376、T-377、T-378、T-379、T-380、T-381、T-382、T-383、T-384、T-385、T-386、T-387、T-388、T-389、T-390、T-391、T-392、T-393、T-394、T-395、T-396、T-397、T-398、T-399、T-400、T-401、T-402、T-403、T-404、T-405、T-406、T-407、T-408、T-409、T-410、T-411、T-412、T-413、T-414、T-415、T-416、T-417、T-418、T-419、T-420、T-421、T-422、T-423、T-424、T-425、T-426、T-427、T-428、T-429、T-430、T-431、T-432、T-433、T-434、T-435、T-436、T-437、T-438、T-439、T-440、T-441、T-442、T-443、T-444、T-445、T-446、T-447、T-448、T-449、T-450、T-451、T-452、T-453、T-454、T-455、T-456、T-457、T-458、T-459、T-460、T-461、T-462、T-463、T-464、T-465、T-466、T-467、T-468、T-469、T-470、T-471、T-472、T-473、T-474、T-475、T-476、T-477、T-478、T-479、T-480、T-481、T-482、T-483、T-484、T-485、T-486、T-487、T-488、T-489、T-490、T-491、T-492、T-493、T-494、T-495、T-496、T-497、T-498、T-499、T-500、T-501、T-502、T-503、T-504、T-505、T-506、T-507、T-508、T-509、T-510、T-511、T-512、T-513、T-514、T-515、T-516、T-517、T-518、T-519、T-520、T-521、T-522、T-523、T-524、T-525、T-526、T-527、T-528、T-529、T-530、T-531、T-532、T-533、T-534、T-535、T-536、T-537、T-538、T-539、T-540、T-541、T-542、T-543、T-544、T-545、T-546、T-547、T-548、T-549、T-550、T-551、T-552、T-553、T-554、T-555、T-556、T-557、T-558、T-559、T-560、T-561、T-562、T-563、T-564、T-565、T-566、T-567、T-568、T-569、T-570、T-571、T-572、T-573、T-574、T-575、T-576、T-577、T-578、T-579、T-580、T-581、T-582、T-583、T-584、T-585、T-586、T-587、T-588、T-589、T-590、T-591、T-592、T-593、T-594、T-595、T-596、T-597、T-598、T-599、T-600、T-601、T-602、T-603、T-604、T-605、T-606、T-607、T-608、T-609、T-610、T-611、T-612、T-613、T-614、T-615、T-616、T-617、T-618、T-619、T-620、T-621、T-622、T-623、T-624、T-625、T-626、T-627、T-628、T-629、T-630、T-631、T-632、T-633、T-634、T-635、T-636、T-637、T-638、T-639、T-640、T-641、T-642、T-643、T-644、T-645、T-646、T-647、T-648、T-649、T-650、T-651、T-652、T-653、T-654、T-655、T-656、T-657、T-658、T-659、T-660、T-661、T-662、T-663、T-664、T-665、T-666、T-667、T-668、T-669、T-670、T-671、T-672、T-673、T-674、T-675、T-676、T-677、T-678、T-679、T-680、T-681、T-682、T-683、T-684、T-685、T-686、T-687、T-688、T-689、T-690、T-691、T-692、T-693、T-694、T-695、T-696、T-697、T-698、T-699、T-700、T-701、T-702、T-703、T-704、T-705、T-706、T-707、T-708、T-709、T-710、T-711、T-712、T-713、T-714、T-715、T-716、T-717、T-718、T-719、T-720、T-721、T-722、T-723、T-724、T-725、T-726、T-727、T-728、T-729、T-730、T-731、T-732、T-733、T-734、T-735、T-736、T-737、T-738、T-739、T-740、T-741、T-742、T-743、T-744、T-745、T-746、T-747、T-748、T-749、T-750、T-751、T-752、T-753、T-754、T-755、T-756、T-757、T-758、T-759、T-760、T-761、T-762、T-763、T-764、T-765、T-766、T-767、T-768、T-769、T-770、T-771、T-772、T-773、T-774、T-775、T-776、T-777、T-778、T-779、T-780、T-781、T-782、T-783、T-784、T-785、T-786、T-787、T-788、T-789、T-790、T-791、T-792、T-793、T-794、T-795、T-796、T-797、T-798、T-799、T-800、T-801、T-802、T-803、T-804、T-805、T-806、T-807、T-808、T-809、T-810、T-811、T-812、T-813、T-814、T-815、T-816、T-817、T-818、T-819、T-820、T-821、T-822、T-823、T-824、T-825、T-826、T-827、T-828、T-829、T-830、T-831、T-832、T-833、T-834、T-835、T-836、T-837、T-838、T-839、T-840、T-841、T-842、T-843、T-844、T-845、T-846、T-847、T-848、T-849、T-850、T-851、T-852、T-853、T-854、T-855、T-856、T-857、T-858、T-859、T-860、T-861、T-862、T-863、T-864、T-865、T-866、T-867、T-868、T-869、T-870、T-871、T-872、T-873、T-874、T-875、T-876、T-877、T-878、T-879、T-880、T-881、T-882、T-883、T-884、T-885、T-886、T-887、T-888、T-889、T-890、T-891、T-892、T-893、T-894、T-895、T-896、T-897、T-898、T-899、T-900、T-901、T-902、T-903、T-904、T-905、T-906、T-907、T-908、T-909、T-910、T-911、T-912、T-913、T-914、T-915、T-916、T-917、T-918、T-919、T-920、T-921、T-922、T-923、T-924、T-925、T-926、T-927、T-928、T-929、T-930、T-931、T-932、T-933、T-934、T-935、T-936、T-937、T-938、T-939、T-940、T-941、T-942、T-943、T-944、T-945、T-946、T-947、T-948、T-949、T-950、T-951、T-952、T-953、T-954、T-955、T-956、T-957、T-958、T-959、T-960、T-961、T-962、T-963、T-964、T-965、T-966、T-967、T-968、T-969、T-970、T-971、T-972、T-973、T-974、T-975、T-976、T-977、T-978、T-979、T-980、T-981、T-982、T-983、T-984、T-985、T-986、T-987、T-988、T-989、T-990、T-991、T-992、T-993、T-994、T-995、T-996、T-997、T-998、T-999、T-1000、T-1001、T-1002、T-1003、T-1004、T-1005、T-1006、T-1007、T-1008、T-1009、T-1010、T-1011、T-1012、T-1013、T-1014、T-1015、T-1016、T-1017、T-1018、T-1019、T-1020、T-1021、T-1022、T-1023、T-1024、T-1025、T-1026、T-1027、T-1028、T-1029、T-1030、T-1031、T-1032、T-1033、T-1034、T-1035、T-1036、T-1037、T-1038、T-1039、T-1040、T-1041、T-1042、T-1043、T-1044、T-1045、T-1046、T-1047、T-1048、T-1049、T-1050、T-1051、T-1052、T-1053、T-1054、T-1055、T-1056、T-1057、T-1058、T-1059、T-1060、T-1061、T-1062、T-1063、T-1064、T-1065、T-1066、T-1067、T-1068、T-1069、T-1070、T-1071、T-1072、T-1073、T-1074、T-1075、T-1076、T-1077、T-1078、T-1079、T-1080、T-1081、T-1082、T-1083、T-1084、T-1085、T-1086、T-1087、T-1088、T-1089、T-1090、T-1091、T-1092、T-1093、T-1094、T-1095、T-1096、T-1097、T-1098、T-1099、T-1100、T-1101、T-1102、T-1103、T-1104、T-1105、T-1106、T-1107、T-1108、T-1109、T-1110、T-1111、T-1112、T-1113、T-1114、T-1115、T-1116、T-1117、T-1118、T-1119、T-1120、T-1121、T-1122、T-1123、T-1124、T-1125、T-1126、T-1127、T-1128、T-1129、T-1130、T-1131、T-1132、T-1133、T-1134、T-1135、T-1136、T-1137、T-1138、T-1139、T-1140、T-1141、T-1142、T-1143、T-1144、T-1145、T-1146、T-1147、T-1148、T-1149、T-1150、T-1151、T-1152、T-1153、T-1154、T-1155、T-1156、T-1157、T-1158、T-1159、T-1160、T-1161、T-1162、T-1163、T-1164、T-1165、T-1166、T-1167、T-1168、T-1169、T-1170、T-1171、T-1172、T-1173、T-1174、T-1175、T-1176、T-1177、T-1178、T-1179、T-1180、T-1181、T-1182、T-1183、T-1184、T-1185、T-1186、T-1187、T-1188、T-1189、T-1190、T-1191、T-1192、T-1193、T-1194、T-1195、T-1196、T-1197、T-1198、T-1199、T-1200、T-1201、T-1202、T-1203、T-1204、T-1205、T-1206、T-1207、T-1208、T-1209、T-1210、T-1211、T-1212、T-1213、T-1214、T-1215、T-1216、T-1217、T-1218、T-1219、T-1220、T-1221、T-1222、T-1223、T-1224、T-1225、T-1226、T-1227、T-1228、T-1229、T-1230、T-1231、T-1232、T-1233、T-1234、T-1235、T-1236、T-1237、T-1238、T-1239、T-1240、T-1241、T-1242、T-1243、T-1244、T-1245、T-1246、T-1247、T-1248、T-1249、T-1250、T-1251、T-1252、T-1253、T-1254、T-1255、T-1256、T-1257、T-1258、T-1259、T-1260、T-1261、T-1262、T-1263、T-1264、T-1265、T-1266、T-1267、T-1268、T-1269、T-1270、T-1271、T-1272、T-1273、T-1274、T-1275、T-1276、T-1277、T-1278、T-1279、T-1280、T-1281、T-1282、T-1283、T-1284、T-1285、T-1286、T-1287、T-1288、T-1289、T-1290、T-1291、T-1292、T-1293、T-1294、T-1295、T-1296、T-1297、T-1298、T-1299、T-1300、T-1301、T-1302、T-1303、T-1304、T-1305、T-1306、T-1307、T-1308、T-1309、T-1310、T-1311、T-1312、T-1313、T-1314、T-1315、T-1316、T-1317、T-1318、T-1319、T-1320、T-1321、T-1322、T-1323、T-1324、T-1325、T-1326、T-1327、T-1328、T-1329、T-1330、T-1331、T-1332、T-1333、T-1334、T-1335、T-1336、T-1337、T-1338、T-1339、T-1340、T-1341、T-1342、T-1343、T-1344、T-1345、T-1346、T-1347、T-1348、T-1349、T-1350、T-1351、T-1352、T-1353、T-1354、T-1355、T-1356、T-1357、T-1358、T-1359、T-1360、T-1361、T-136	



場所：宇治市宇治下居13-2

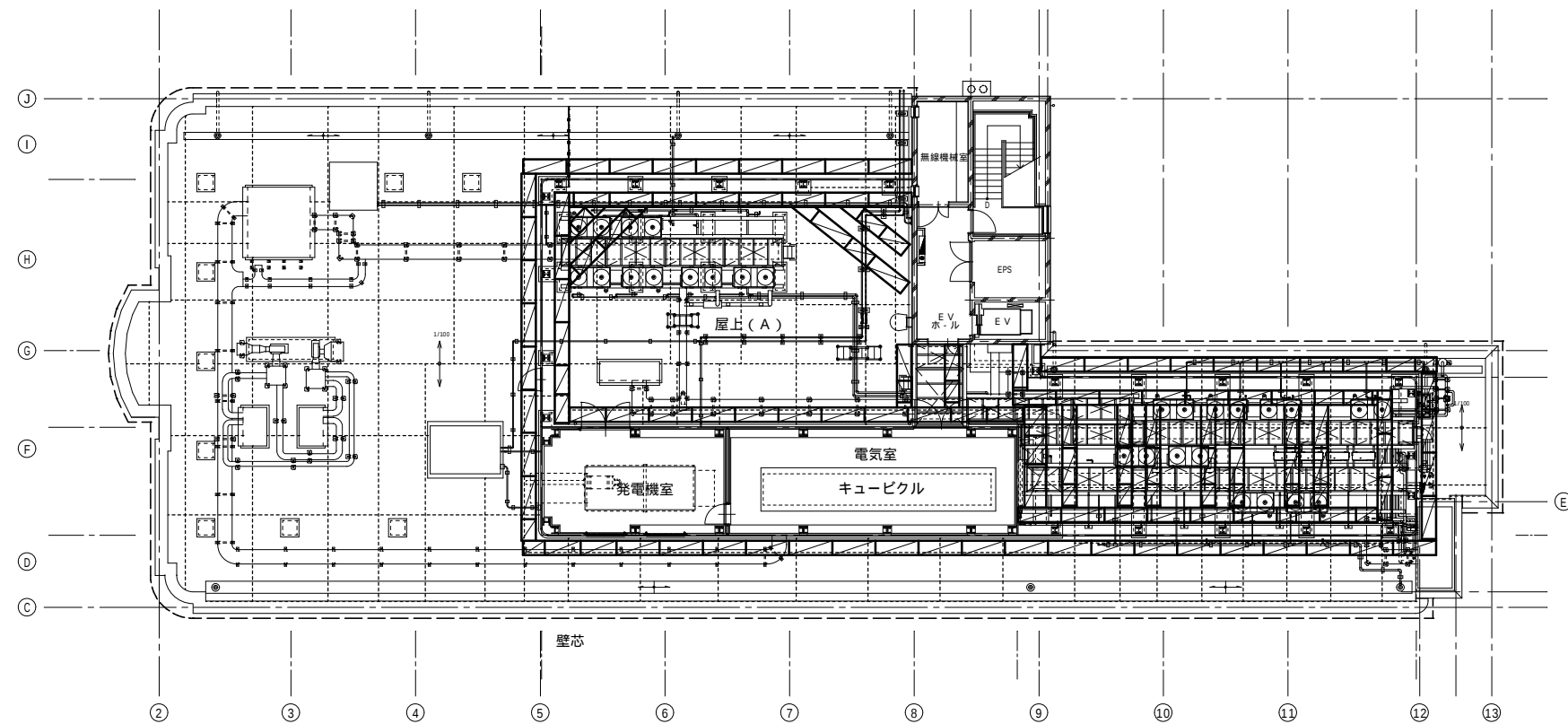
付近見取図 1/2,500



配置図・仮設計画図 1/300

仮設計画図は参考図とする

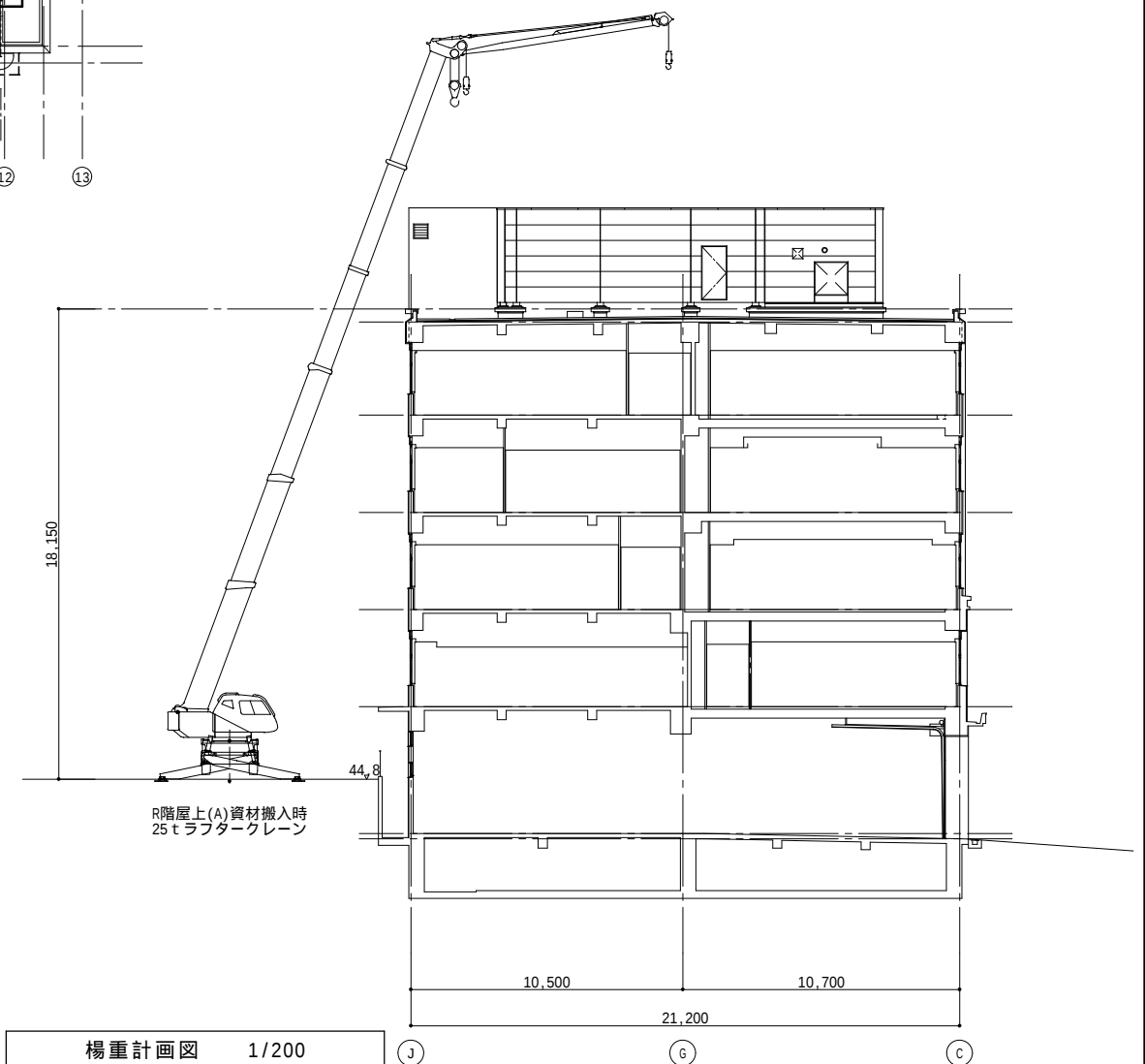
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 11
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 付近見取図、配置図、仮設計画図	縮尺 A2: 1/2,500・1/300 A3: -



R 階 改修平面図 1/200

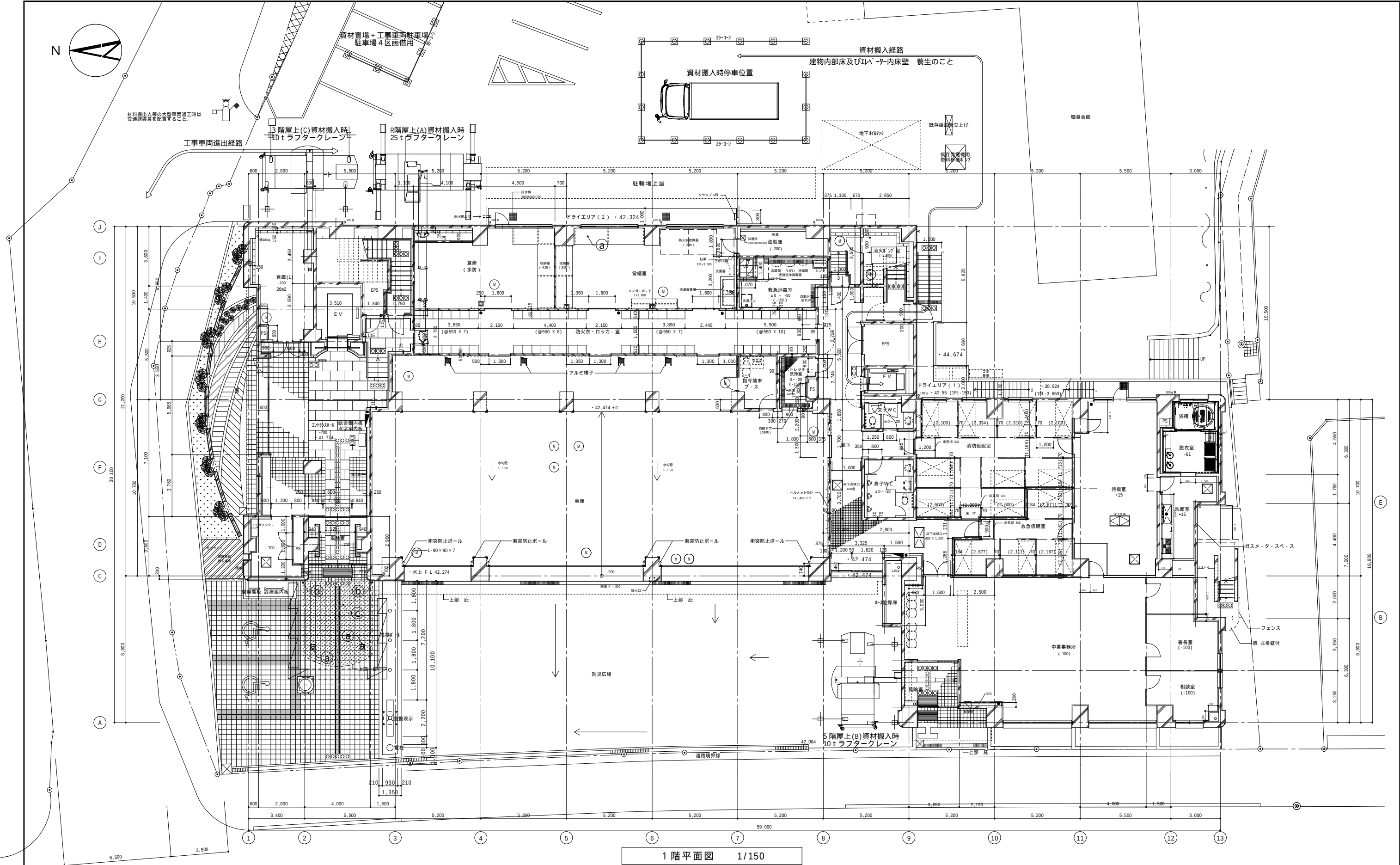
仮設工事 凡例

- ▨ 枠組足場W600を示す 外周部 メッシュシート/養生シート(防災1類)張り
----- 屋上部分落下防止措置(スタンション+親綱)を示す

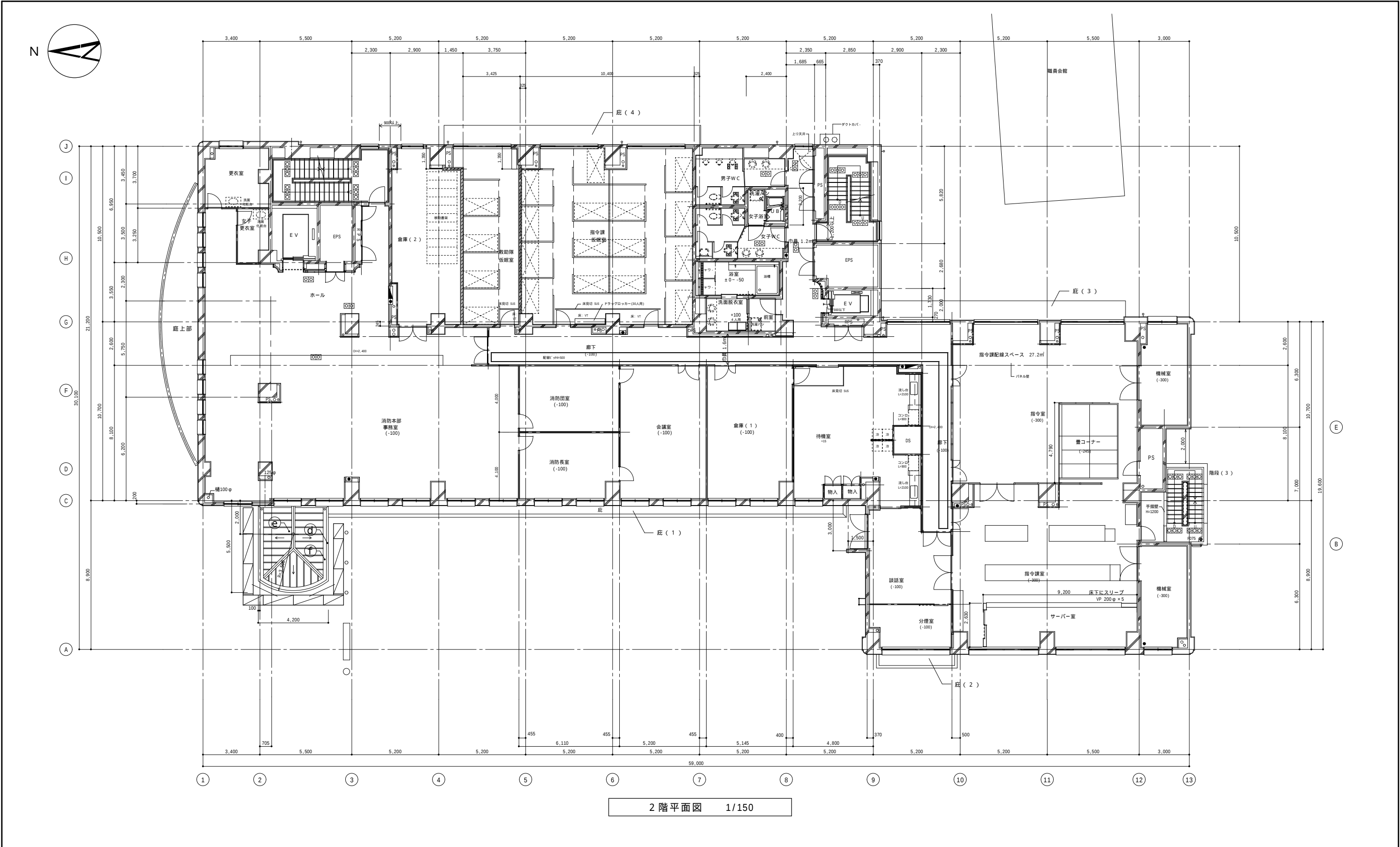


揚重計画図 1/200

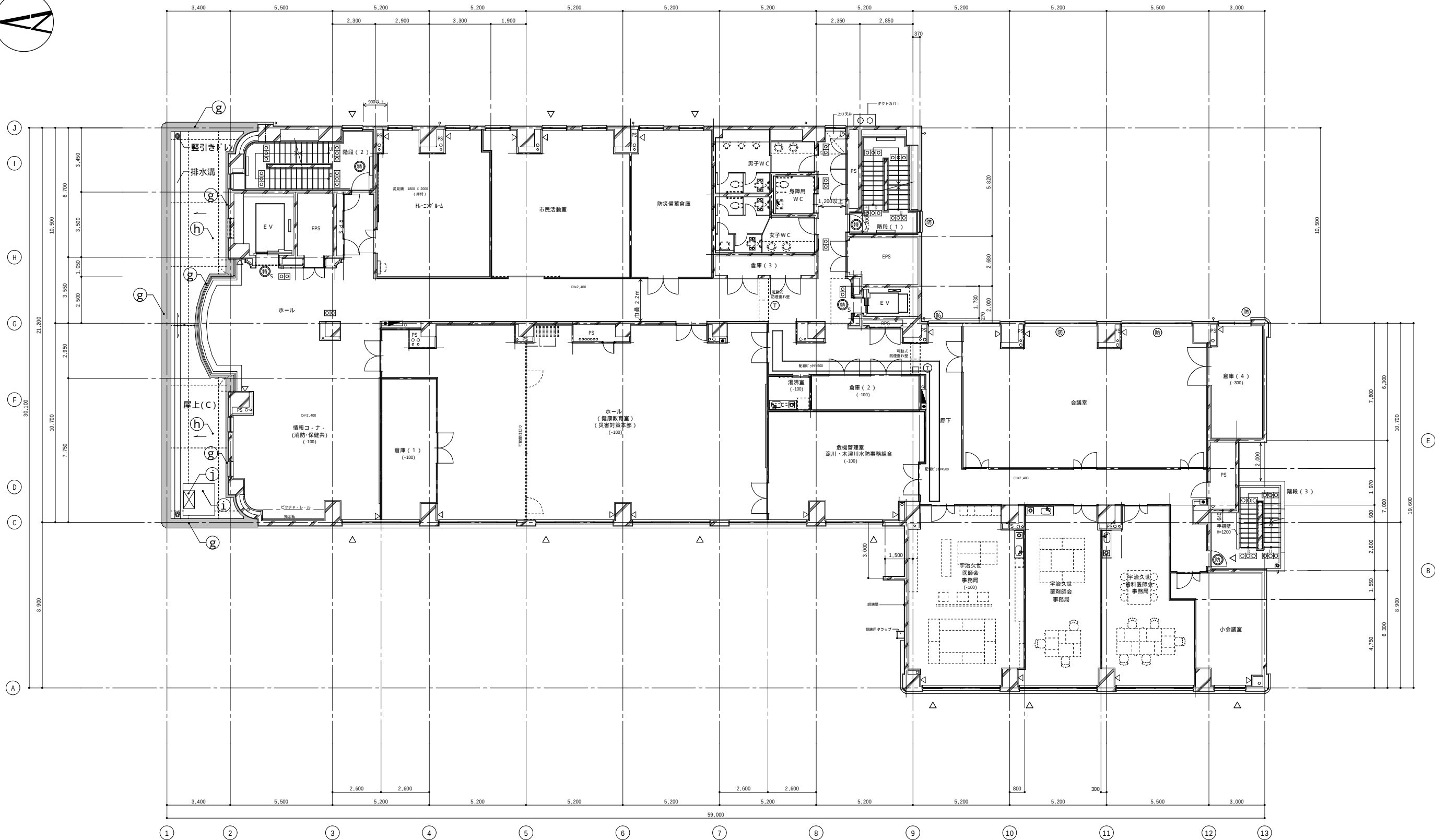
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 12
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 R 階 仮設計画図 揚重計画図 (参考図)	縮尺 A2: 1/200 A3: -



仕上凡例	アプローチ庇 柱型	(a)	既存：アルミ2.0加工バ 補珪烷焼付塗装 目地シーリング（MS-2） 改修：下地調整RB種 珪系プライマー処理の上 フッ素樹脂塗装 目地・取合シーリング 打替	アプローチ庇 軒裏	(c)	既存：アルミサッシ 珪タイプ 電解二次着色 改修：下地調整RB種 錆止め塗装の上 DP（1級）塗				
	アプローチ庇 壁樋	(b)	既存：ステンレス製φ80 HL 改修：既存のまま							
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号				板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 13	
						構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	図名 1階平面図	縮尺 A2: 1/150 A3: -



仕 上 凡 例	アプローチ底 柱型	(a)	既存：アルミ2.0加工バネ 珪藻土焼付塗装 目地シーリング (MS-2) 改修：下地調整RB種 珪系プライマー処理の上 フッ素樹脂塗装 目地・取合シーリング 打替	アプローチ底 幕板	(d)	既存：アルミ2.0加工バネ 珪藻土焼付塗装 目地シーリング (MS-2) 改修：下地調整RB種 珪系プライマー処理の上 フッ素樹脂塗装 目地・取合シーリング 打替				
	アプローチ底 壁樋	(b)	既存：ステンレス製φ80 HL 改修：既存のまま	アプローチ底 屋根	(e)	既存：フッ素樹脂鋼板t0.5瓦棒葺き 棟押え・水切屋根同材 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、洗浄清掃、専用プライマー塗布、Rt部・水切取合部補強テープ張の上 アクリル系屋根用塗膜防水(遮熱仕様)				
	アプローチ底 軒裏	(c)	既存：アルミパントリー リンタイプ 電解二次着色 改修：下地調整RB種 錆止め塗装の上 DP(1級)塗	アプローチ底 内樋	(f)	既存：耐酸被覆鋼板 t0.4 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、洗浄清掃、専用プライマー塗布、水切取合部補強テープ張の上 アクリル系屋根用塗膜防水(遮熱仕様) 既存ドレン 洗浄				
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号				板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣()		名称	うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No.	A - 14
					構造設計/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣()		図名	2階平面図	縮尺 A2: 1/150 A3: -	

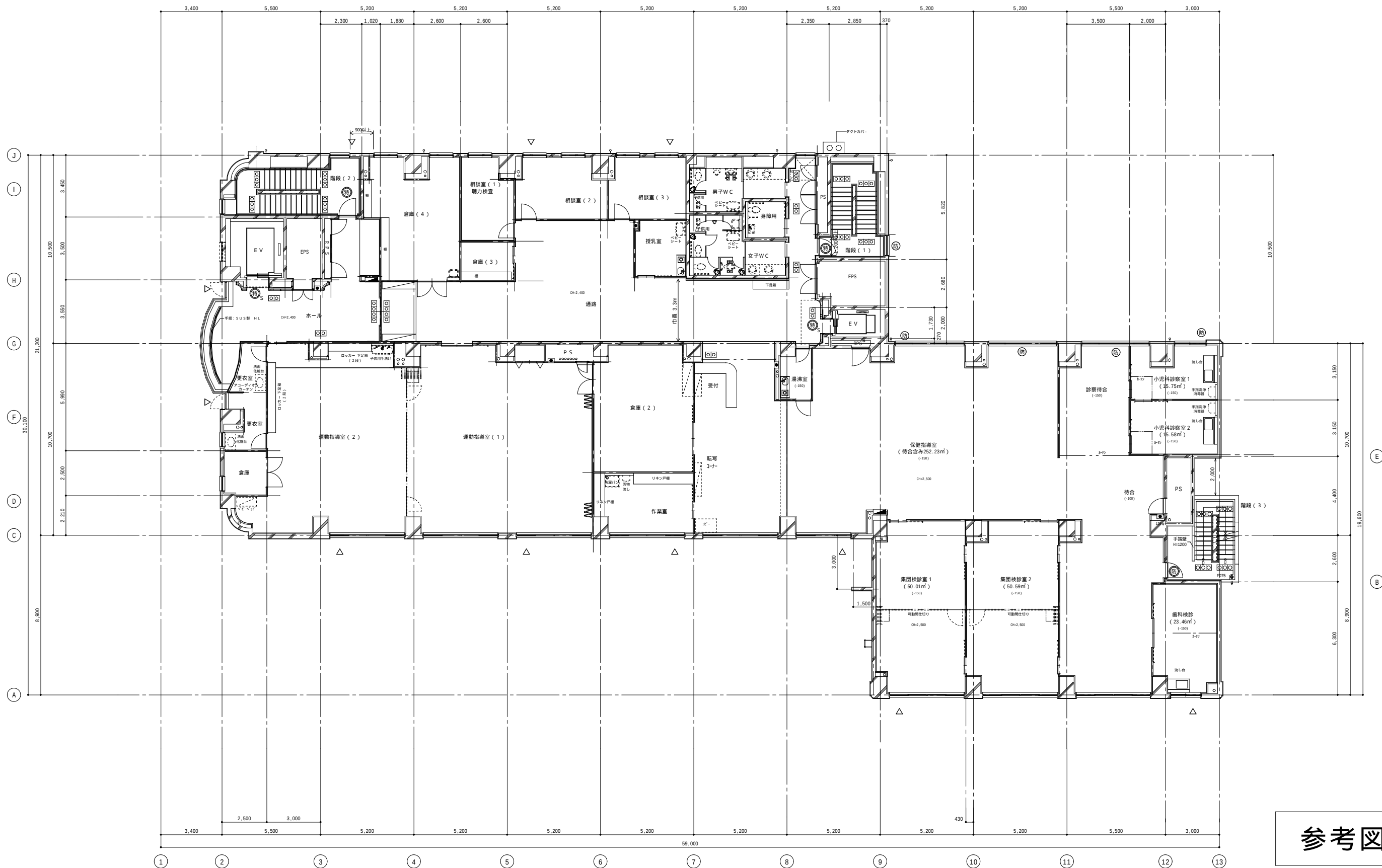


3 階平面図 1/150

----- 既存成型伸縮目地材W25を示す

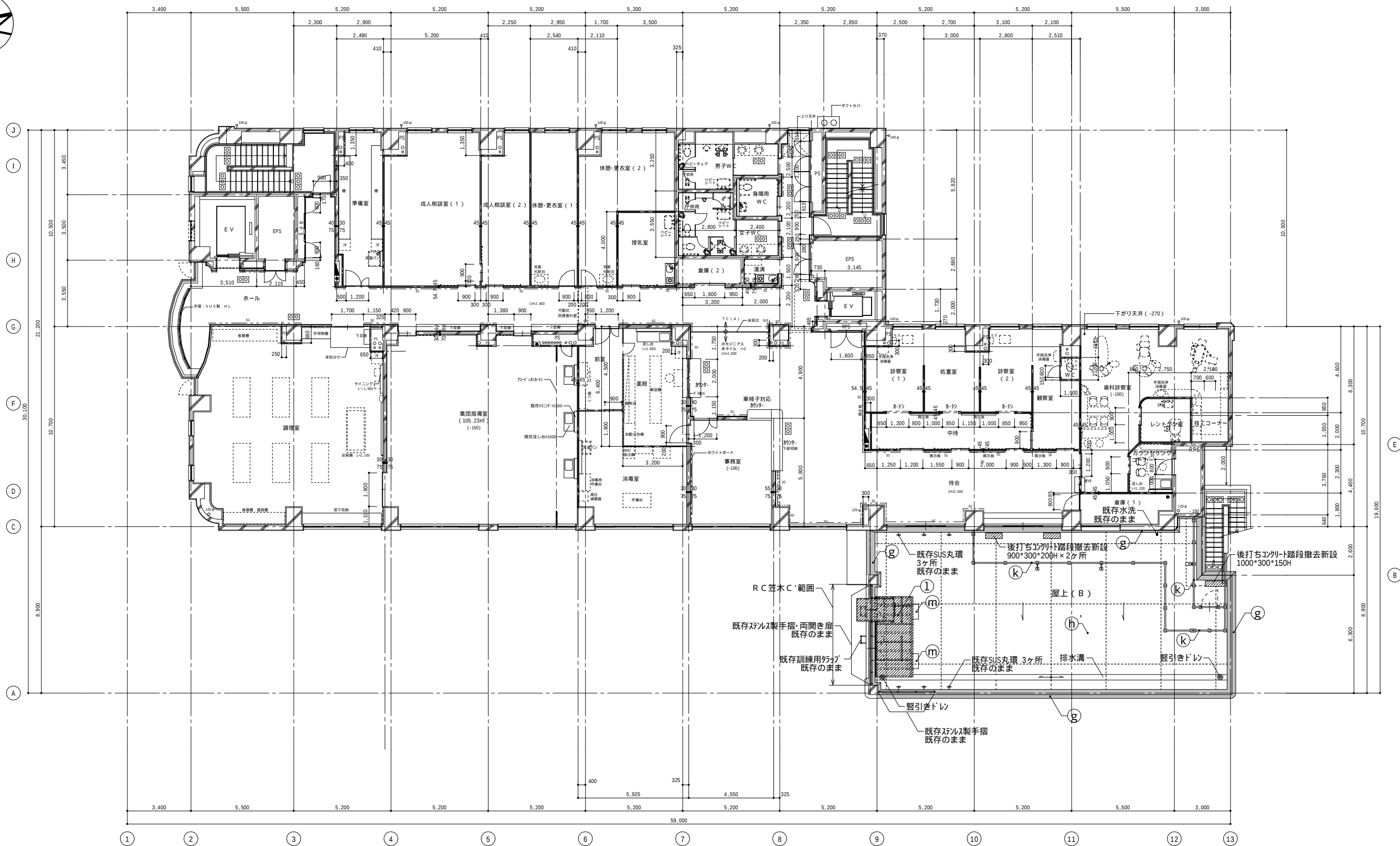
仕 上 凡 例	R C 笠木 (C) 建物側 防水ア	g	既存：天端・ア 立上り 外タ塗膜防水、バ ラ 立上り アスファルト防水立上げ 乾式保護材(押出成形セメント板 t15) 改修：天端・ア 立上り 高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、下地調整(バ リアセメントペ ースト)の上 クタゴ ム系塗膜防水(X-2) 乾式保護材取付レール共撤去、アスファルト防水押え金物共撤去、クン清掃、下地調整(バ リアセメントペ ースト)の上 クタゴ ム系塗膜防水(X-2)	避難器具 (垂直式救助袋)	j	既存：垂直式救助袋 H=10.472.3(L=10.250)、スチール製収納キャビネット(950×600×970H) 改修：既存撤去、更新(消防認定品、消防届出共)
	屋上防水 平場 (屋上(C))	h	既存：アスファルト外断熱防水 押えコンクリート直押え 成型伸縮目地材W25 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、既存成型伸縮目地材 上部樹脂キャップ 部分撤去 シーリング (PS-2) 充填、排水溝外浮き部 撤去補修の上 クタゴ ム系塗膜防水(X-1)、スチール製脱気筒 1ヶ所 / 50㎡、既存ドレントレーナー撤去の上改修用縦型ドレン新設			
	設備基礎 (A)	i	既存：基礎コンクリート直押え (避難設備基礎 1700×1700×350H) 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、下地調整(バ リアセメントペ ースト)の上 クタゴ ム系塗膜防水(X-2)			

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 15
		構造/設備関係規定 への法適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	図名 3 階平面図	縮尺 A2: 1/150 A3: -



4 階平面図	1/150	改修範囲なし
--------	-------	--------

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第39号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 大臣 ()	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 16
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 4階平面図	縮尺 A2: 1/150 A3: -

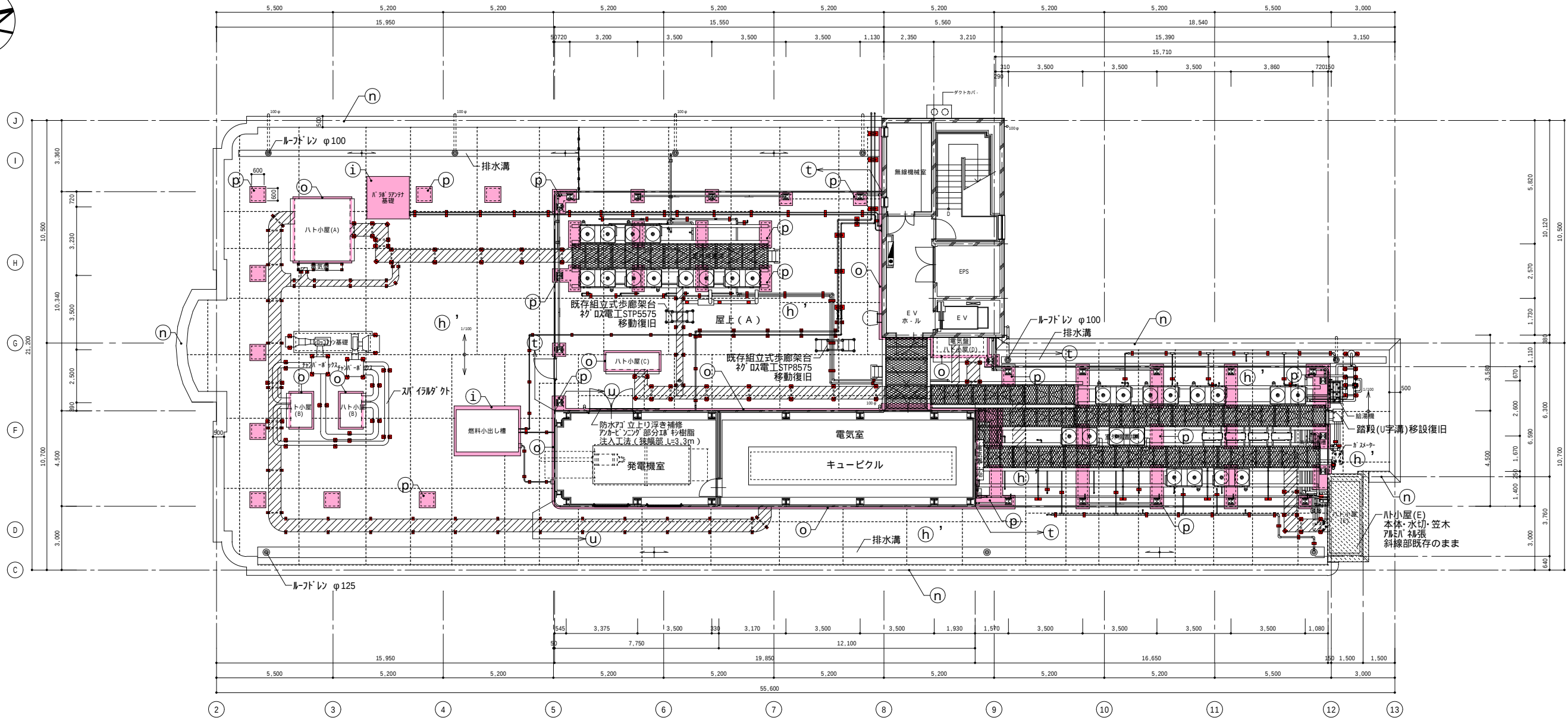


5 階平面図 1/150

----- 既存成型伸縮目地材W25を示す

仕 上 凡 例	R C 笠木 (C、C') 建物側 防水ア	g	既存：天端・ア 立上り アル塗膜防水、バ ット立上り アスファル防水立上げ 乾式保護材(押出成形セメント板 t15) 改修：天端・ア 立上り 高圧洗浄(10～15Mpa)、ケソ清掃、下地調整(※ リセメント-スト)の上 アルタム系塗膜防水(X-2) 乾式保護材取付レール共撤去、アスファル防水押え金物共撤去、ケソ清掃、下地調整(※ リセメント-スト)の上 アルタム系塗膜防水(X-2)	訓練用ステージ 4,300W×2,000D 跳出し部 1,220W×2,000D	1	既存：鉄骨床組 H-150*150*7*10 / [-150*75*9*12.5 (接合部がセメントR9 / 中板 M2-M16 樹脂製が M16) 取付) の上鋼鋼板 t=4.5 張 跳出し部 アル L-50*50*5 の上鋼鋼板 t=4.5 張 床組取付部 アンクル L-50*50*5 鉄部溶融亜鉛メッキ仕上 アンカボルト 9通り側バ ットア 立上部 M12*9ヶ所 取合部硬質コンクリート t20 敷 RC基礎部 4-M12×2ヶ所 樹脂製が M16) 取付 バ-アンカ SGP50A (φ60.5*3.8) □ -1300W*275H×2ヶ所 コーナ部:90° ロング ILB 全周溶接 溶融亜鉛メッキ仕上 改修：既存撤去 新設 既存基礎、アンカボルト流用(レベル調整以外) 撤去新設、アンカボルト径は撤去時確認の事)
	屋上防水 平場 (屋上(B))	h	既存：アスファル外断熱防水 押えコンクリート直押え 成型伸縮目地材W25 排水溝 外側直押え 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、ケソ清掃、既存成型伸縮目地材 上部樹脂キャップ 部分撤去 シーリング (PS-2) 充填、排水溝内外浮き部 撤去補修の上 アルタム系塗膜防水(X-1)、ステンレス製脱気筒 1ヶ所 / 50mm、既存ドレンストレーナー撤去の上改修用縦型ドレン新設	ステージ基礎	m	既存：基礎コンクリート直押え (800×600×350H)、立上り アスファル防水立上げの上押えコンクリート 改修：天端・立上り共 高圧洗浄(10～15Mpa)、ケソ清掃、下地調整(※ リセメント-スト)の上 アルタム系塗膜防水(X-2)
	アルミ製手摺	k	既存：アルミ製手摺 二段タイプ 縦格子 一部控え付 片開扉一箇所 手摺基礎 樹脂製型枠 (ポリマーブロック) 化粧 内部コンクリート充填 177*177*150H / 327*177*150H 改修：アルミ手摺 既存のまま 基礎 高圧洗浄(10～15Mpa)、樹脂部分目荒しサディングの上 アルタム系塗膜防水(X-2)			

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第39号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 17
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	図名 5 階平面図	縮尺 A2: 1/150 A3: -

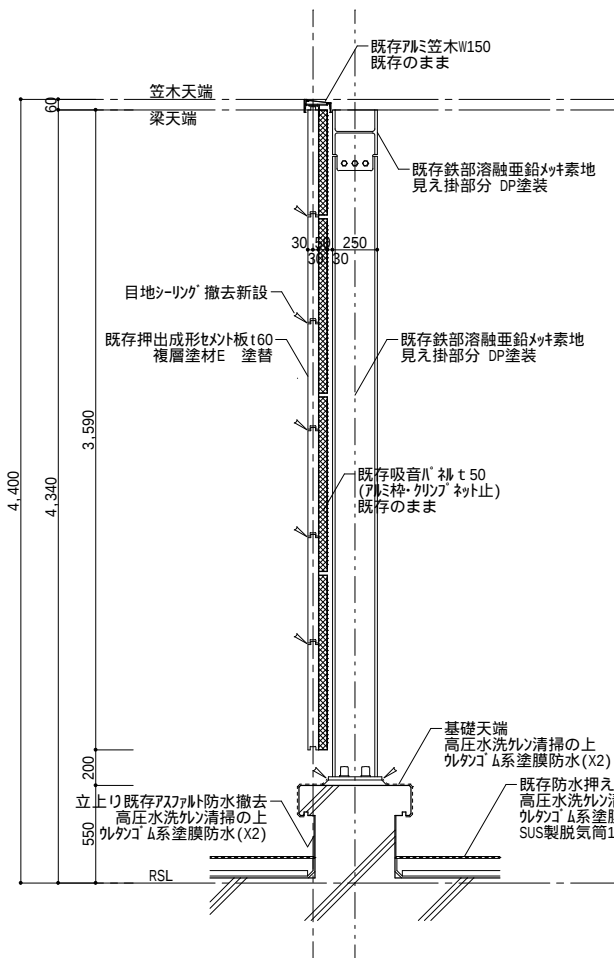


R 階 平面図 1/150

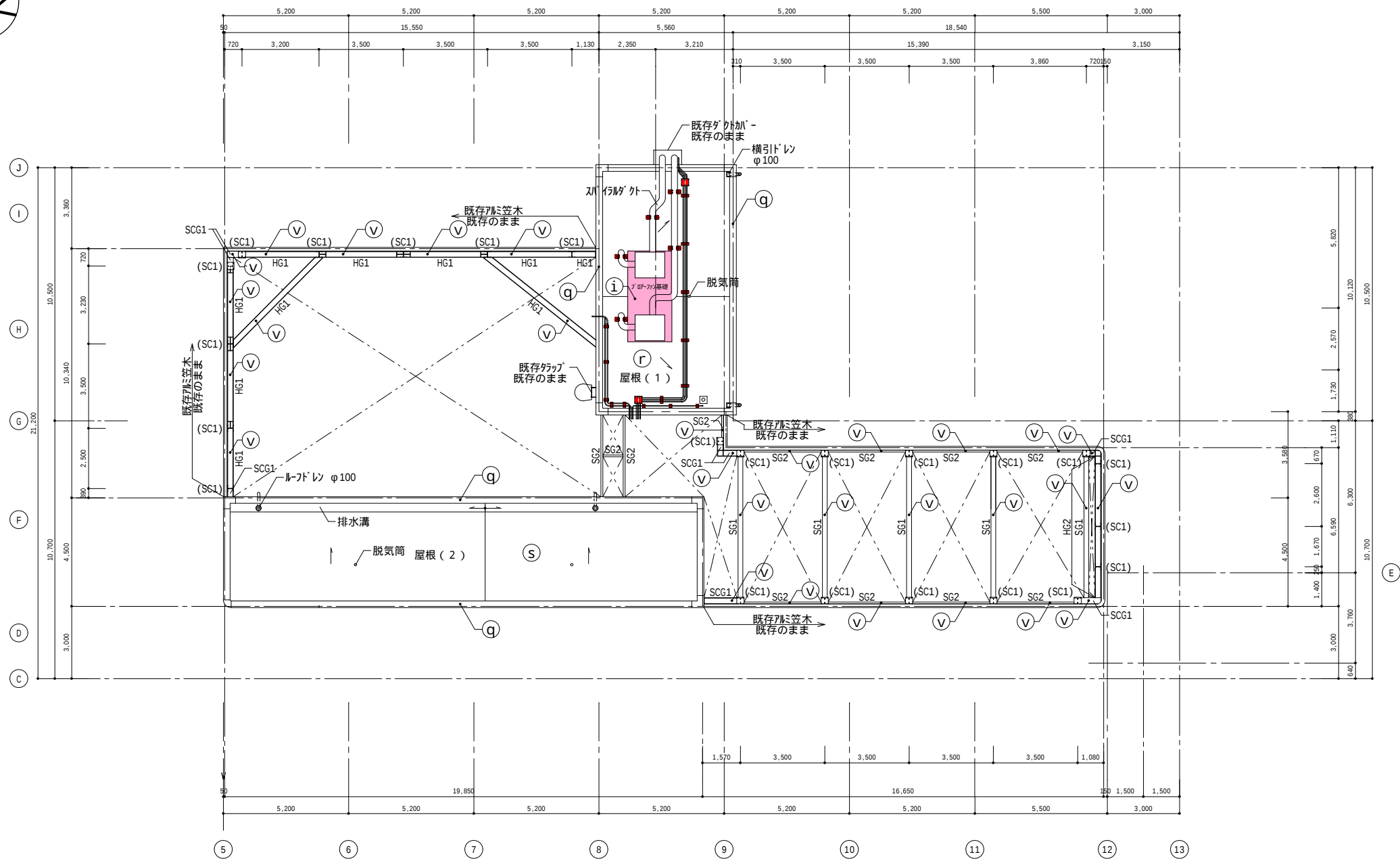
凡 例

- 既存成型伸縮目地材W25を示す
- 空調機メンテナンス用キャットウォーク フレーム:FB-4*50 1tスパン 2x4m XG11張りバネ 設備架台ブラケットにSUS六角鋼M10止 取外し再取付
キャットウォーク架台 / 設備架台 H-194*150*6*9、緊ぎ・中継 L-50*50*4、ブレース φ12 ケンバ ックル止め 既存のまま
- 既存配線ラック加へを示す 設備配管用基礎ブロック110*150(一部リサイクリング) 150*120、スリムブロック他) @ 2000 防水施工時ノックアップ
- 設備基礎、防音壁柱基礎、設備架台基礎、建物・ハト小屋防水部分を示す
- 設備配管(ガス管 / 電気配管 / ドレン管 / ラッキング 巻冷媒配管 / スライダグ等)、設備配管用礎ブロックを示す 防水施工時ノックアップ

仕上凡例	アルミ笠木 (A-1a)	(n)	既存: 天端 既存アルミ笠木 (W500、被雷導体仕様、シルバー色)、バレーット立上り アスファルト防水立上げ (露出) 改修: 天端 既存アルミ笠木撤去、既存アルミ笠木 (W500、被雷導体仕様、シルバー色) 新設 バレーット立上り アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 ウルトラゴム系塗膜防水(X-2)	屋上防水 平場・立上り (屋根(1))	(r)	既存: 露出アスファルト防水 SUS製脱気筒1ヶ所、バレーット立上り アスファルト防水立上げ (横引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去) 改修: 立上り 既存防水撤去、高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用横引ドレン新設
	建物・ハト小屋 防水部分	(o)	既存: 天端・アゴ 立上り ウルトラ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ (露出) 改修: 天端・アゴ 立上り 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 ウルトラゴム系塗膜防水(X-2) 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 ウルトラゴム系塗膜防水(X-2)	屋上防水 平場・立上り (屋根(2))	(s)	既存: 改質アスファルト防水 SUS製脱気筒2ヶ所、バレーット立上り 改質アスファルト防水立上げ (縦引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去) 改修: 立上り 既存防水撤去、高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用縦引ドレン新設
	屋上防水 平場 (屋上(A))	(h)	既存: アスファルト外断熱防水 押えコンクリート直押え 成型伸縮目地材W25 改修: 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、既存成型伸縮目地材 上部樹脂キャップ 部分撤去 シーリング (PS-2) 充填、排水溝内外浮き部 撤去補修の上 ウルトラゴム系塗膜防水(X-1)、ステンレス製脱気筒 1ヶ所 / 50m ² 、既存ドレンスレーナ撤去の上改修用縦型ドレン新設	防音壁 複層塗材塗替 (外側のみ)	(t)	既存: 押出成形セメント板 t60 横張 複層塗材E 改修: 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃の上 複層塗材E (ローラ塗) 縦目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎 (A)	(i)	既存: 基礎コンクリート直押え 改修: 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 ウルトラゴム系塗膜防水(X-2)	電気室・発電機室外壁 複層塗材塗替	(u)	既存: 押出成形セメント板 t60 横張 複層塗材E 改修: 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃の上 複層塗材E (ローラ塗) 縦目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎 (B) 防音壁柱基礎	(p)	既存: 天端・アゴ 立上り ウルトラ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ (露出) 改修: 天端・アゴ 立上り 高圧洗浄(10~15Mpa)、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 ウルトラゴム系塗膜防水(X-2) 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整(ボリマセメントペ-スト)の上 ウルトラゴム系塗膜防水(X-2)	防音壁柱・梁・ブレース 塗装改修	(v)	既存: 溶融亜鉛メッキ 柱 SC1:H-250*250*9*14、SP-1:[-150*75*9*12.5、SP-2:[-100*50*5*7.5 梁 SG-1:H-400*200*8*13、SG-2:[-150*75*9*12.5、HG-1/SCG-1:H-250*250*9*14(横使い)、HG-2:250*175*7*11(横使い) V1:ブレース L-65*65*6(X配置) 改修: 見え掛部分 下地調整RB種の上 DP塗装(1級) 特記あるECP通しアンクル、開口補強、取付金物を含む
	アルミ笠木 (C)	(q)	既存: 既存アルミ笠木 (W275、被雷導体仕様、シルバー色) 改修: 既存アルミ笠木撤去、既存アルミ笠木 (W275、被雷導体仕様、シルバー色) 新設			



防音壁 断面詳細図 1/30



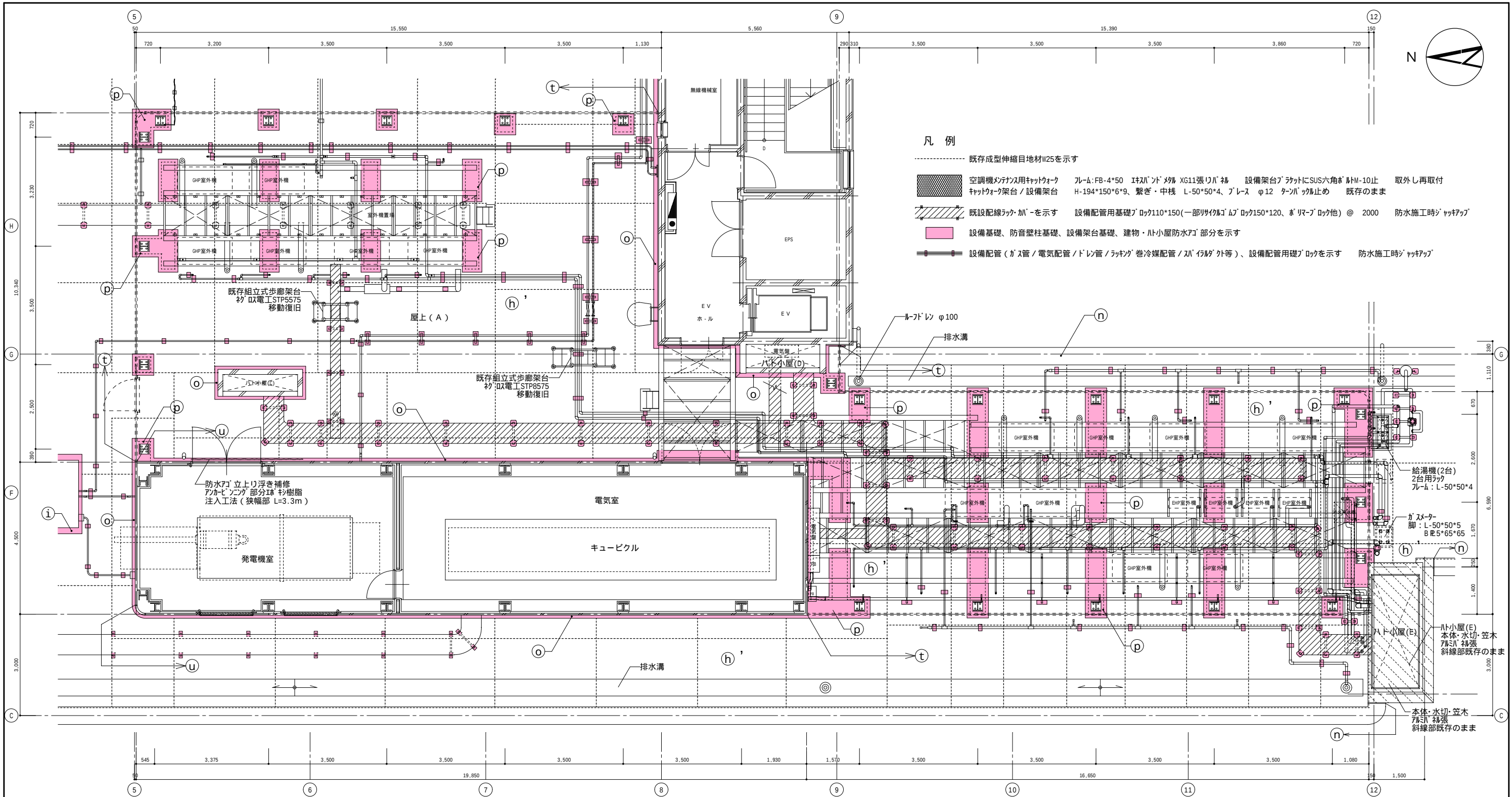
P H R 階 平面図 1/150

凡 例

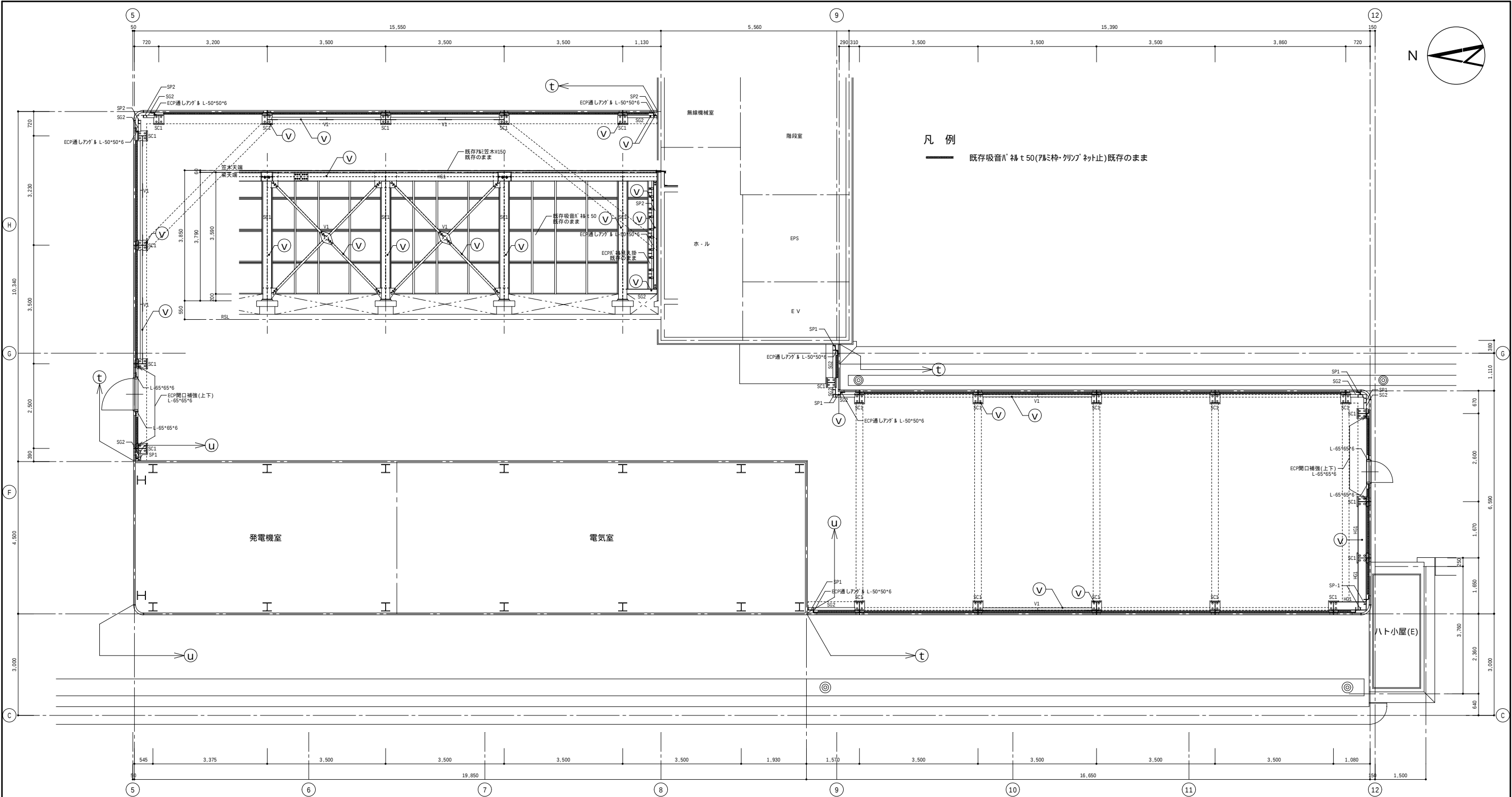
- 設備基礎、防音壁柱基礎、設備架台基礎、建物・小部屋防水部分を示す
- 設備配管（ガス管／電気配管／ドレン管／ラッキング 巻冷媒配管／スプリンクラー等）、設備配管用礎ブロックを示す 防水施工時バックアップ

仕 上 凡 例	アルミ笠木（A-1a）	n	既存：天端 既存ALC笠木（W500、被雷導体仕様、シルバー色）、バツ立上り アスファルト防水立上げ（露出） 改修：天端 既存ALC笠木撤去、既存ALC笠木（W500、被雷導体仕様、シルバー色）新設 バツ立上り アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 アルカゴム系塗膜防水（X-2）	屋上防水 平場・立上り（屋根（1））	r	既存：露出アスファルト防水 SUS製脱気筒1ヶ所、バツ立上り アスファルト防水立上げ（横引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去） 改修：立上り 既存防水撤去、高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用横引ドレン新設
	建物・小部屋 防水部分	o	既存：天端・バツ立上り アルカ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ（露出） 改修：天端・バツ立上り 高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 アルカゴム系塗膜防水（X-2） 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 アルカゴム系塗膜防水（X-2）	屋上防水 平場・立上り（屋根（2））	s	既存：改質アスファルト防水 SUS製脱気筒2ヶ所、バツ立上り 改質アスファルト防水立上げ（縦引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去） 改修：立上り 既存防水撤去、高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用縦引ドレン新設
	屋上防水 平場（屋上（A））	h	既存：アスファルト外断熱防水 押えコンクリート直押え 成型伸縮目地材W25 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、既存成型伸縮目地材 上部樹脂キャップ部分撤去 シーリング（PS-2）充填、排水溝外浮き部 撤去補修の上 アルカゴム系塗膜防水（X-1）、スチルス製脱気筒 1ヶ所 / 50㎡、既存ドレンストレーナ撤去の上改修用縦型ドレン新設	防音壁 複層塗材塗替（外側のみ）	t	既存：押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃の上 複層塗材E（ローラ塗） 縦目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎（A）	i	既存：基礎コンクリート直押え 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 アルカゴム系塗膜防水（X-2）	電気室・発電機室外壁 複層塗材塗替	u	既存：押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃の上 複層塗材E（ローラ塗） 縦目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎（B） 防音壁柱基礎	p	既存：天端・バツ立上り アルカ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ（露出） 改修：天端・バツ立上り 高圧洗浄（10～15Mpa）、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 アルカゴム系塗膜防水（X-2） 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、洗浄清掃、下地調整（ボリアセメントベスト）の上 アルカゴム系塗膜防水（X-2）	防音壁柱・梁・ブレース 塗装改修	v	既存：溶融亜鉛メッキ 柱 SC1:H-250*250*9*14、SP1:[-150*75*9*12.5、SP2:[-100*50*5*7.5 梁 SG1:H-400*200*8*13、SG2:[-150*75*9*12.5、HG1 / SCG1:H-250*250*9*14(横使い)、HG2:250*175*7*11(横使い) V1:ブレース L-65*65*6(X配置) 改修：見え掛部分 下地調整RB種の上 DP塗装（1級） 特記あるECP通しアンクル、開口補強、取付金物を含む
	アルミ笠木（C）	q	既存：既存ALC笠木（W275、被雷導体仕様、シルバー色） 改修：既存ALC笠木撤去、既存ALC笠木（W275、被雷導体仕様、シルバー色）新設			

		株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）	一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計 一級建築士登録 交付番号（ ）		名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 19
						構造設計/設備設計 への法適合を確認した 大臣（ ）	一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号（ ）		図名 P H R 階 平面図	縮尺 A2: 1/150 A3: -

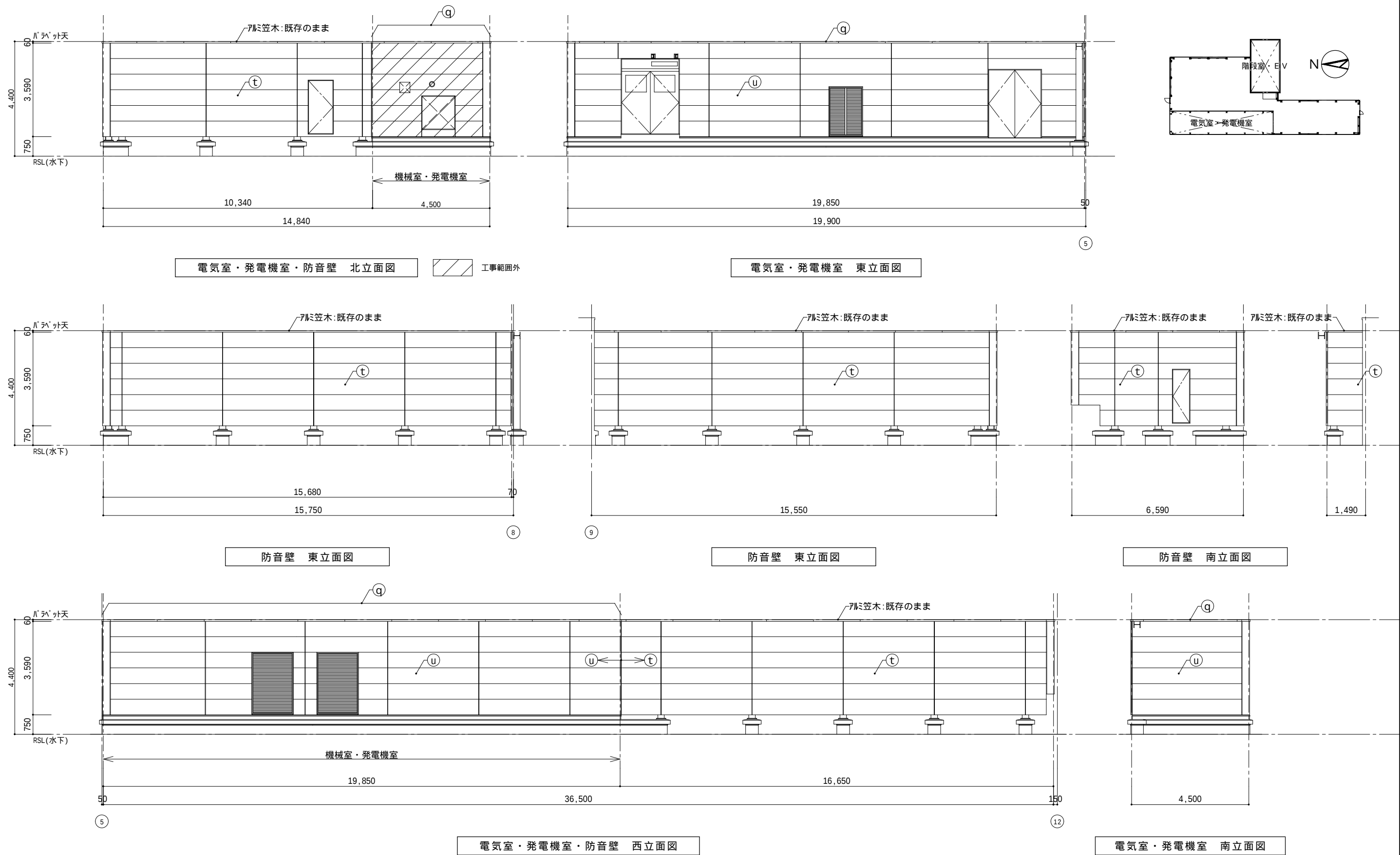


仕上凡例	アルミ笠木 (A-1a)	(n)	既存: 天端 既存アルミ笠木 (W500、被雷導体仕様、シルバー色)、バレーット立上り アスファルト防水立上げ (露出) 改修: 天端 既存アルミ笠木撤去、既存アルミ笠木 (W500、被雷導体仕様、シルバー色) 新設 バレーット立上り アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 ウルタゴム系塗膜防水 (X-2)	屋上防水 平場・立上り (屋根1)	(r)	既存: 露出アスファルト防水 SUS製脱気筒1ヶ所、バレーット立上り アスファルト防水立上げ (横引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去) 改修: 立上り 既存防水撤去、高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用横引ドレン新設
	建物・ハト小屋 防水ア	(o)	既存: 天端・ア 立上り ウルタ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ (露出) 改修: 天端・ア 立上り 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 ウルタゴム系塗膜防水 (X-2) 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 ウルタゴム系塗膜防水 (X-2)	屋上防水 平場・立上り (屋根2)	(s)	既存: 改質アスファルト防水 SUS製脱気筒2ヶ所、バレーット立上り 改質アスファルト防水立上げ (縦引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去) 改修: 立上り 既存防水撤去、高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用縦引ドレン新設
	屋上防水 平場 (屋上A)	(h)	既存: アスファルト外断熱防水 押えコンクリート直押え 成型伸縮目地材W25 改修: 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、既存成型伸縮目地材 上部樹脂キャップ 部分撤去 シーリング (PS-2) 充填、排水溝外浮き部 撤去補修の上 ウルタゴム系塗膜防水 (X-1)、スチルス製脱気筒 1ヶ所 / 50㎡、既存ドレンスレーナ撤去の上改修用縦型ドレン新設	防音壁 複層塗材塗替 (外側のみ)	(t)	既存: 押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修: 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃の上 複層塗材E (ローラ塗) 縦横目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎 (A)	(i)	既存: 基礎コンクリート直押え 改修: 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 ウルタゴム系塗膜防水 (X-2)	電気室・発電機室外壁 複層塗材塗替	(u)	既存: 押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修: 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃の上 複層塗材E (ローラ塗) 縦横目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎 (B) 防音壁柱基礎	(p)	既存: 天端・ア 立上り ウルタ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ (露出) 改修: 天端・ア 立上り 高圧洗浄 (10~15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 ウルタゴム系塗膜防水 (X-2) 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整 (ボリセメントベスト) の上 ウルタゴム系塗膜防水 (X-2)	防音壁柱・梁・ブレース 塗装改修	(v)	既存: 熔融亜鉛メッキ 柱 SC1:H-250*250*9*14、SP1:[-150*75*9*12.5、SP2:[-100*50*5*7.5 梁 SG1:H-400*200*8*13、SG2:[-150*75*9*12.5、HG1/SCG1:H-250*250*9*14(横使い)、HG2:250*175*7*11(横使い) V1:ブレース L-65*65*6(X配置) 改修: 見え掛部分 下地調整RB種の上 DP塗装 (1級) 特記あるECP通しアンクル、開口補強、取付金物を含む
	アルミ笠木 (C)	(q)	既存: 既存アルミ笠木 (W275、被雷導体仕様、シルバー色) 改修: 既存アルミ笠木撤去、既存アルミ笠木 (W275、被雷導体仕様、シルバー色) 新設			

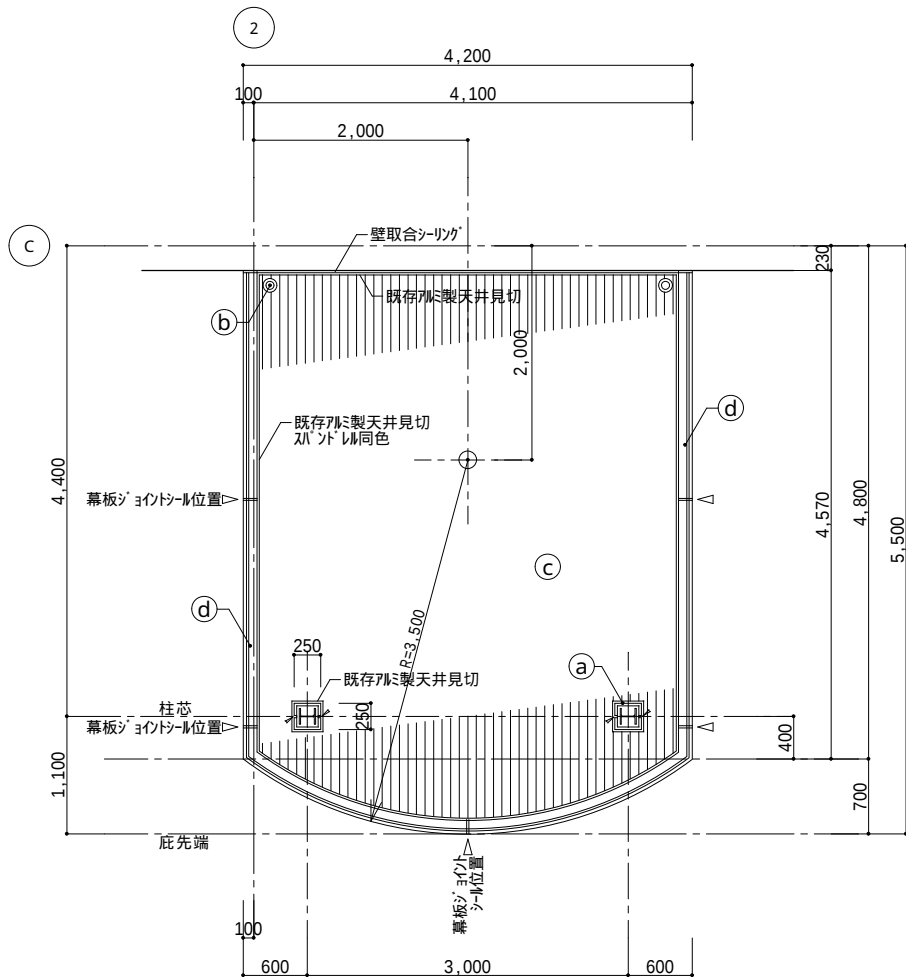


仕上凡例	アルミ笠木 (A-1a)	n	既存：天端 既存アルミ笠木 (W500、被雷導体仕様、シルバー色)、バレーット立上り アスファルト防水立上げ (露出) 改修：天端 既存アルミ笠木撤去、既存アルミ笠木 (W500、被雷導体仕様、シルバー色) 新設 バレーット立上り アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 クラタゴム系塗膜防水(X-2)	屋上防水 平場・立上り (屋根(1))	r	既存：露出アスファルト防水 SUS製脱気筒1ヶ所、バレーット立上り アスファルト防水立上げ (横引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去) 改修：立上り 既存防水撤去、高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用横引ドレン新設
	建物・ハト小屋 防水アゴ	o	既存：天端・アゴ 立上り クラタ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ (露出) 改修：天端・アゴ 立上り 高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 クラタゴム系塗膜防水(X-2) 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 クラタゴム系塗膜防水(X-2)	屋上防水 平場・立上り (屋根(2))	s	既存：改質アスファルトシート防水 SUS製脱気筒2ヶ所、バレーット立上り 改質アスファルトシート防水立上げ (縦引ドレン2ヶ所、スレーナ撤去) 改修：立上り 既存防水撤去、高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 塩ビシート防水 接着工法 平場 高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、ドレン廻り補修の上 塩ビシート防水 機械固定工法 SUS製脱気筒新設 改修用縦引ドレン新設
	屋上防水 平場 (屋上(A))	h	既存：アスファルト外断熱防水 押えコンクリート直押え 成型伸縮目地材W25 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、既存成型伸縮目地材 上部樹脂キャップ 部分撤去 シーリング (PS-2) 充填、排水溝内外浮き部 撤去補修の上 クラタゴム系塗膜防水(X-1)、スチルス製脱気筒 1ヶ所 / 50m、既存ドレンスレーナ撤去の上改修用縦型ドレン新設	防音壁 複層塗材塗替 (外側のみ)	t	既存：押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃の上 複層塗材E (ローラ塗) 縦横目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎 (A)	i	既存：基礎コンクリート直押え 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 クラタゴム系塗膜防水(X-2)	電気室・発電機室外壁 複層塗材塗替	u	既存：押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修：高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃の上 複層塗材E (ローラ塗) 縦横目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	設備基礎 (B) 防音壁柱基礎	p	既存：天端・アゴ 立上り クラタ塗膜防水、防水立上 アスファルト防水立上げ (露出) 改修：天端・アゴ 立上り 高圧洗浄(10～15Mpa)、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 クラタゴム系塗膜防水(X-2) 防水立上 アスファルト防水浮き部補修、押え金物共撤去、クン清掃、下地調整 (ボリアセメントペー-スト)の上 クラタゴム系塗膜防水(X-2)	防音壁柱・梁・ブレース 塗装改修	v	既存：溶融亜鉛メッキ 柱 SC1:H-250*250*9*14、SP1:[-150*75*9*12.5、SP2:[-100*50*5*7.5 梁 SG1:H-400*200*8*13、SG2:[-150*75*9*12.5、HG1/SCG1:H-250*250*9*14(横使い)、HG2:250*175*7*11(横使い) V1:ブレース L-65*65*6(X配置) 改修：見え掛部分 下地調整RB種の上 DP塗装 (1級) 特記あるECP通シアングル、開口補強、取付金物を含む
	アルミ笠木 (C)	q	既存：既存アルミ笠木 (W275、被雷導体仕様、シルバー色) 改修：既存アルミ笠木撤去、既存アルミ笠木 (W275、被雷導体仕様、シルバー色) 新設			

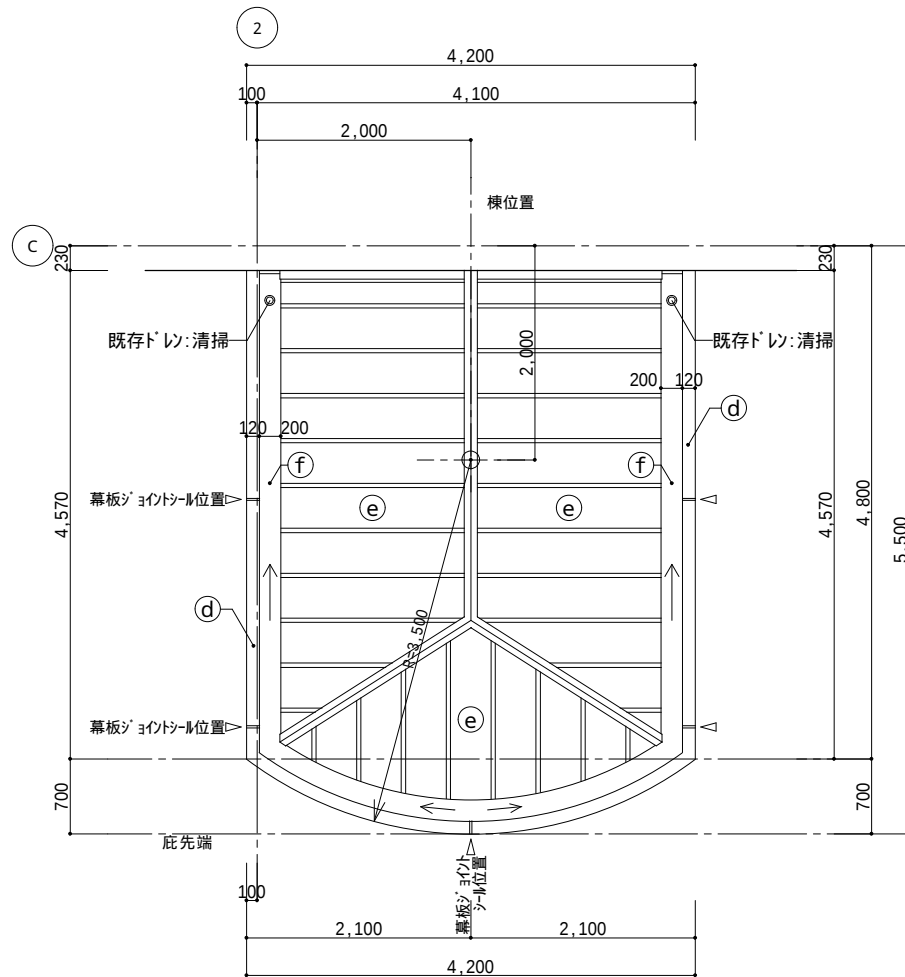
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 21
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	図名 R 階平面詳細図 2 (防音壁下部鉄骨)	



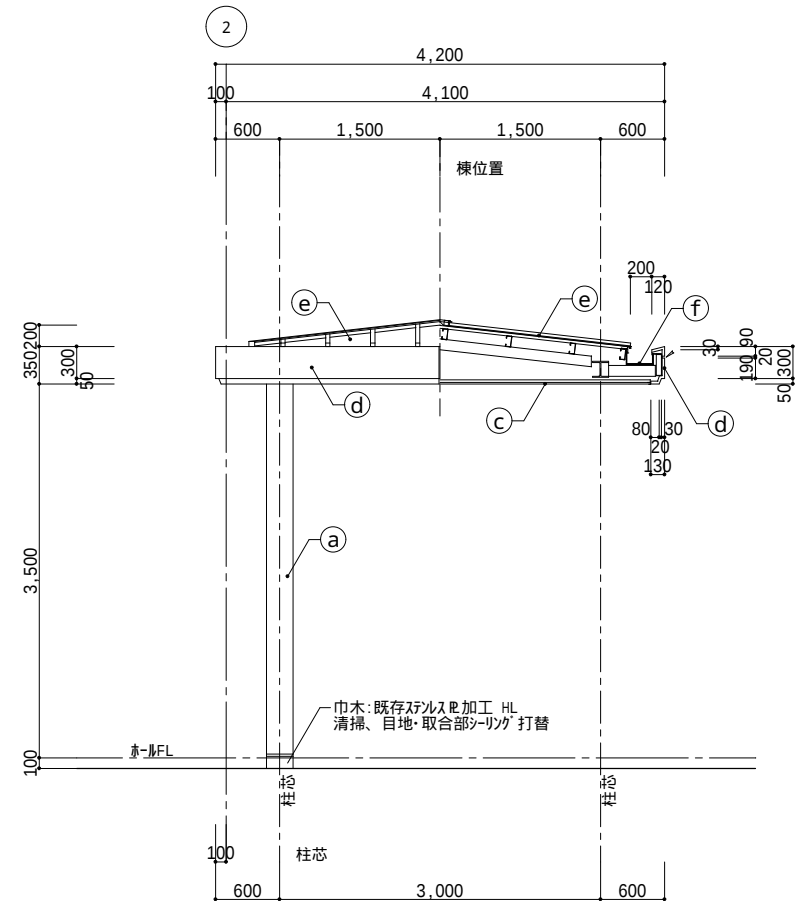
仕 上 凡 例	アルミ笠木（C）	q	既存：既存アルミ笠木（W275、被雷導体仕様、シルバー色） 改修：既存アルミ笠木撤去、既存アルミ笠木（W275、被雷導体仕様、シルバー色）新設	電気室・発電機室外壁 複層塗材塗替	u	既存：押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、高圧洗浄の上 複層塗材E（ローラー塗） 縦目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設
	防音壁 複層塗材塗替 （外側のみ）	t	既存：押出成形セメント板t60 横張 複層塗材E 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、高圧洗浄の上 複層塗材E（ローラー塗） 縦目地、建具取合目地 シーリング 撤去新設			
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号				板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）
						構造設計/設備関係規定 への法適合を確認した 一級建築士登録 大臣（ ）
						構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号（ ）
						名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事
						図名 電気室・発電機室・防音壁 立面図
						No. A - 22
						縮尺 A2: 1/100 A3: -



アプローチ底 天井伏図 1/50

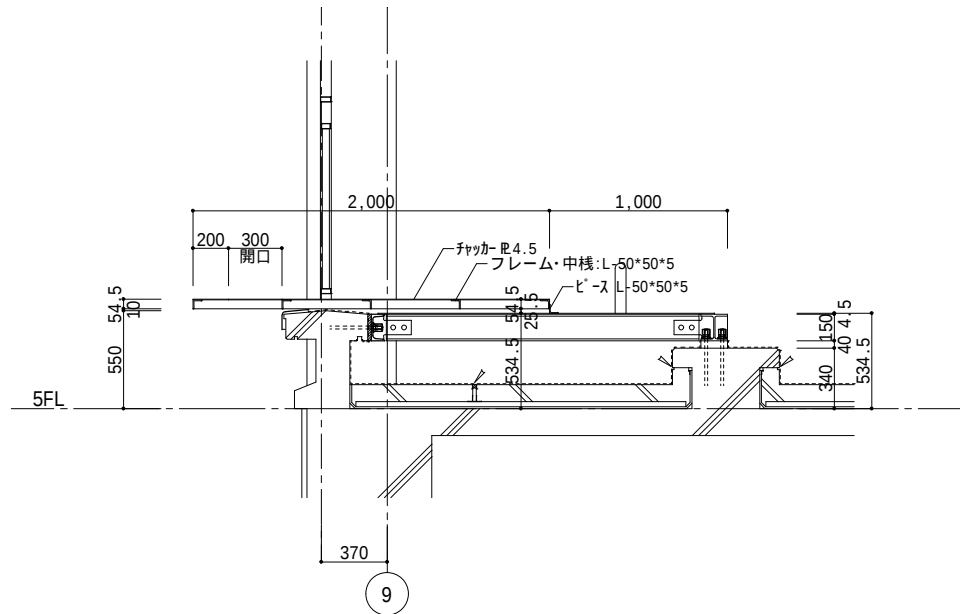


アプローチ底 屋根伏図 1/50

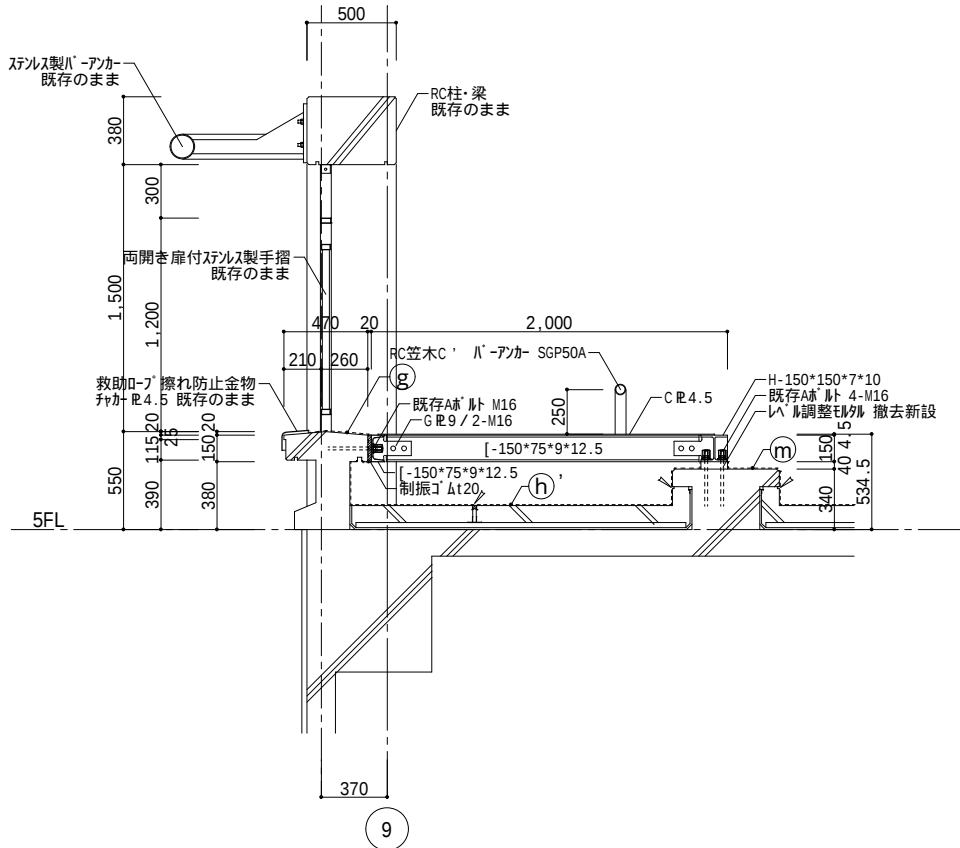


アプローチ底 立・断面図 1/50

仕 上 凡 例	アプローチ底 柱型	(a)	既存：アルミR2.0加工バネ 鋼板焼付塗装 巾木ステンレスR2.0加工バネHL 目地シーリング（MS-2） 改修：アルミバネ部分 下地調整RB種 100 杉系プライマー処理の上 フッ素樹脂塗装 目地・取合シーリング 打替 ステンレス巾木 清掃の上目地・取合シーリング 打替	アプローチ底 幕板	(d)	既存：アルミR2.0加工バネ 鋼板焼付塗装 目地シーリング（MS-2） 改修：下地調整RB種 100 杉系プライマー処理の上 フッ素樹脂塗装 目地・取合シーリング 打替				
	アプローチ底 壁樋	(b)	既存：ステンレス製φ80 HL 改修：清掃	アプローチ底 屋根	(e)	既存：フッ素樹脂鋼板t0.5瓦棒葺き 棟押え・水切屋根同材 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、鋼板清掃、専用プライマー塗布、HL部・水切取合部補強テープ張の上 アクリル系屋根用塗膜防水（遮熱仕様）				
	アプローチ底 軒裏	(c)	既存：アルミバネ付バネ リンタイプ、アルミ製天井見切り 電解二次着色 改修：下地調整RB種 錆止め塗装の上 フッ素樹脂塗装	アプローチ底 内樋	(f)	既存：耐酸被覆鋼板 t0.4 改修：高圧洗浄（10～15Mpa）、鋼板清掃、専用プライマー塗布、水切取合部補強テープ張の上 アクリル系屋根用塗膜防水（遮熱仕様） 既存バネ 清掃				
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号				板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 23
							構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣（ ）	図名 部分詳細図 1 アプローチ底	縮尺 A2: 1/50 A3: -

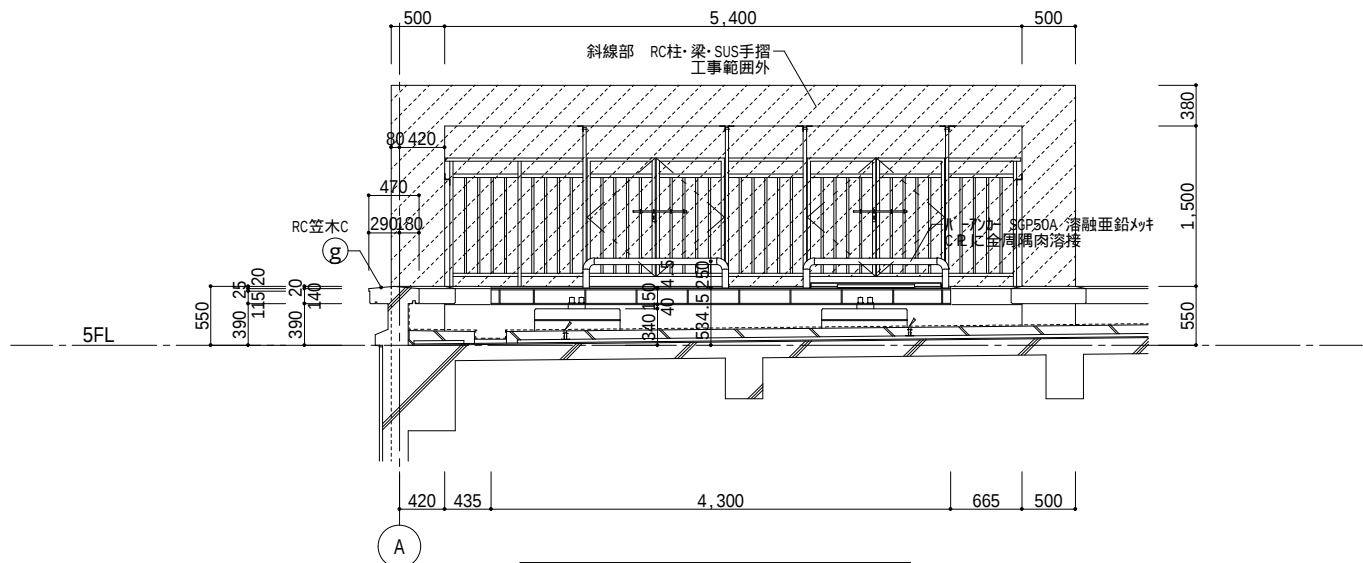


B - B 断面詳細図 1/30

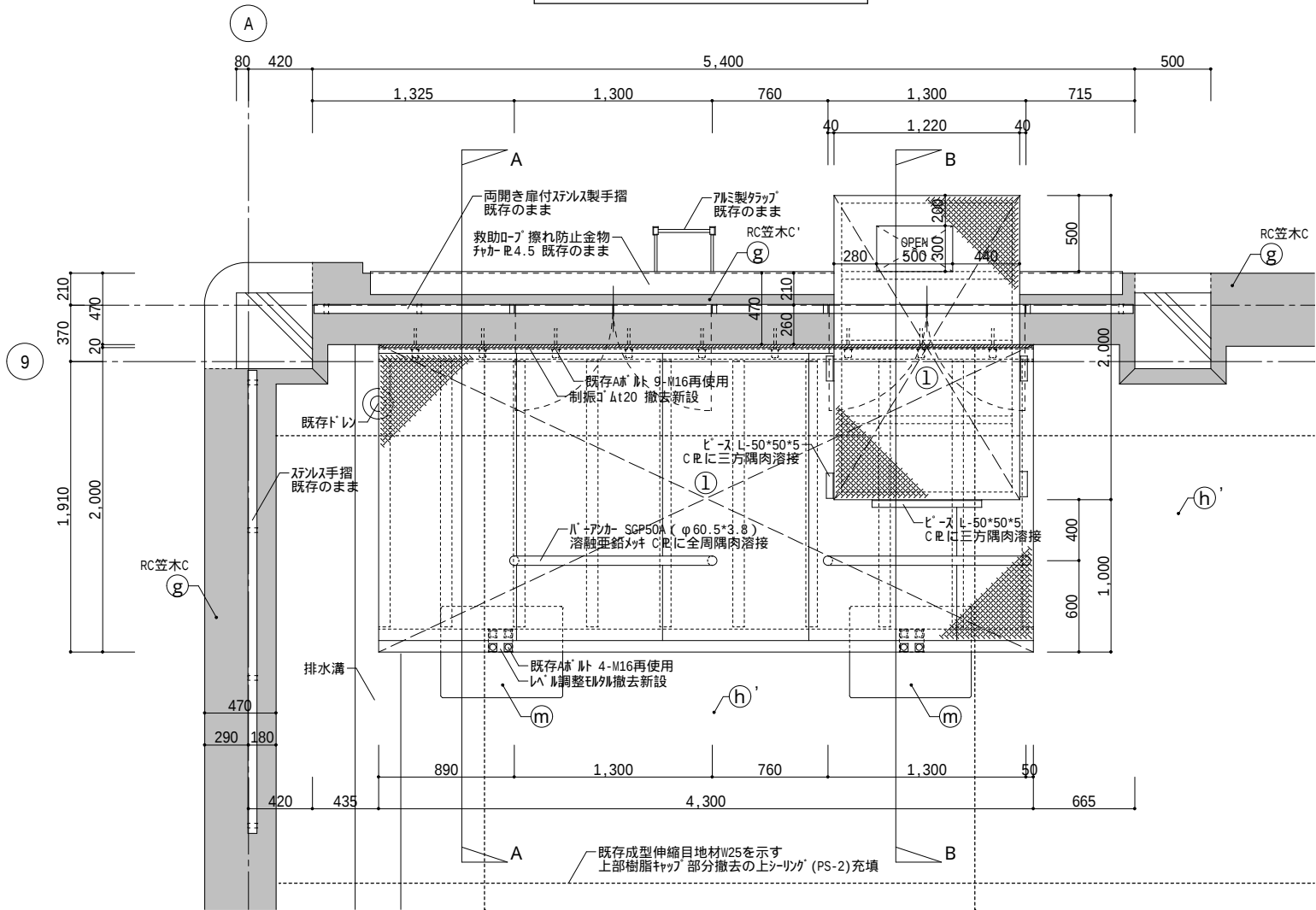


A - A 断面詳細図 1/30

新設鉄部全て溶融亜鉛メッキとする



ステージ立面図 1/50



平面詳細図 1/30

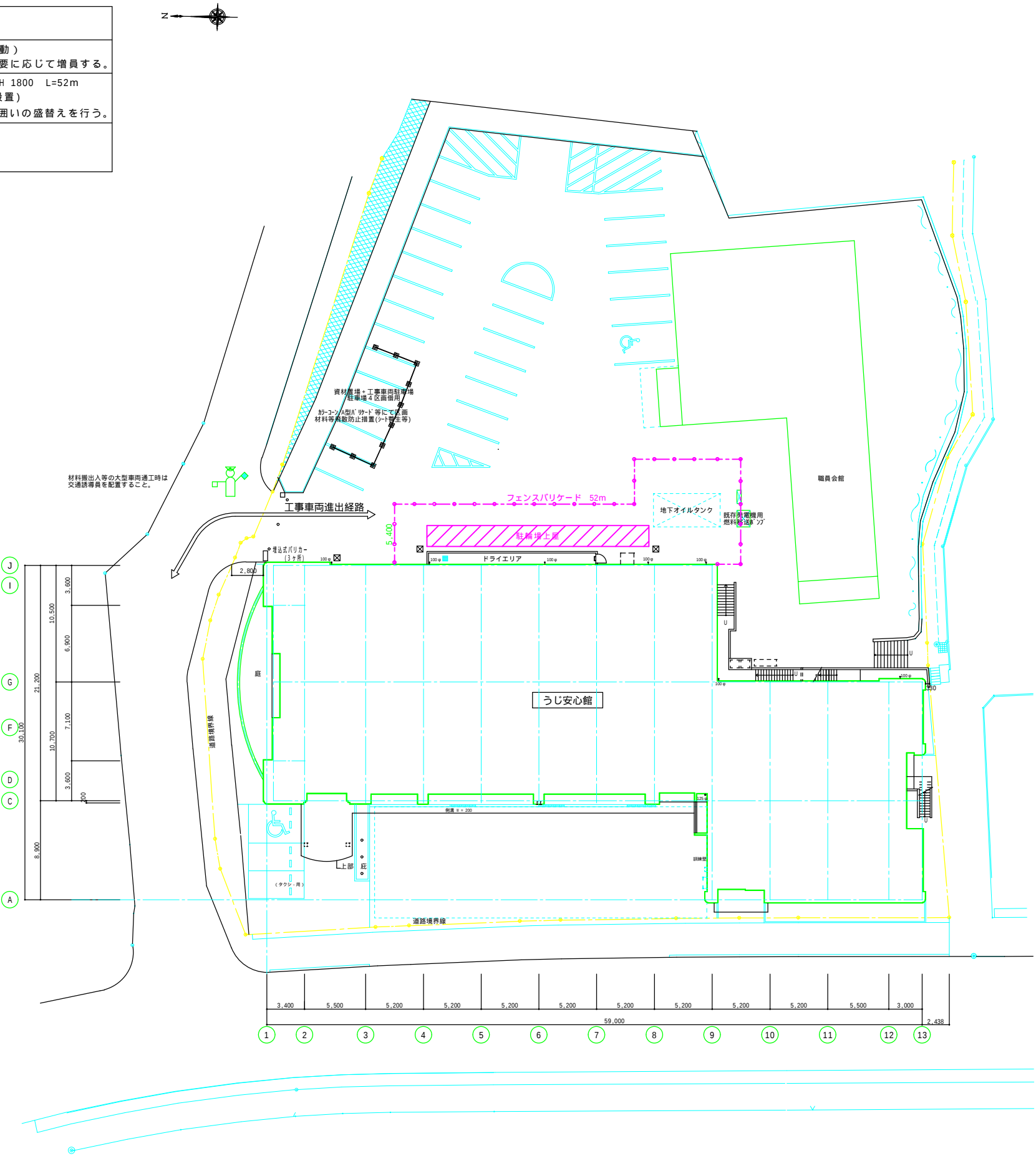
笠木ウレタンゴム系塗膜防水施工範囲を示す

仕 上 凡 例	R C 笠木 (C、 C') 建物側 防水ア	(g)	既存：天端・ア 立上り 外タ塗膜防水、バ ラ 立上り アスファルト防水立上げ 乾式保護材 (押出成形セメント板 t15) 改修：天端・ア 立上り 高圧洗浄 (10 ~ 15Mpa)、ケル清掃、下地調整 (バ リアセメントベ ースト) の上 ケルタゴ ム系塗膜防水 (X-2) 乾式保護材取付レベル共撤去、アスファルト防水押え金物共撤去、ケル清掃、下地調整 (バ リアセメントベ ースト) の上 ケルタゴ ム系塗膜防水 (X-2)	訓練用ステージ 4,300W × 2,000D 跳出し部 1,220W × 2,000D	①	既存：鉄骨床組 H-150*150*7*10 / [-150*75*9*12.5 (接合部がセメント 9 / 中板 M16 樹脂製が M16) 取付) の上チャッカー R4.5張 跳出し部 フレーム L-50*50*5 の上編鋼板 t=4.5張 床組取付部 アンカ M12 ース L-50*50*5 鉄部溶融亜鉛メッキ仕上 アンカ M12 9通り側バ ット 立上部 M12*9ヶ所 取合部硬質ゴ ムマット20敷 RC基礎部 4-M12 × 2ヶ所 樹脂製が M16) 取付 バ アンカー SGP50A (φ60.5*3.8) 1300W*275H × 2ヶ所 コーナ部:90° ロング ILB 全周溶接 溶融亜鉛メッキ仕上 改修：既存撤去 新設 既存基礎、アンカ M12 流用 (バ リア調整はバ リア撤去時確認の事)
	屋上防水 平場 (屋上(B))	(h)	既存：アスファルト外断熱防水 押えコンクリート直押え 成型伸縮目地材W25 排水溝 外側直押え 改修：高圧洗浄 (10 ~ 15Mpa)、ケル清掃、既存成型伸縮目地材 上部樹脂キャップ 部分撤去 シーリング (PS-2) 充填、排水溝外側浮き部 撤去補修の上 ケルタゴ ム系塗膜防水 (X-1)、ステンレス製脱気筒 1ヶ所 / 50mm、既存ドレンストレーナー撤去の上改修用縦型ドレン新設			
	アルミ製手摺	(k)	既存：アルミ製手摺 二段タイプ 縦格子 一部控え付 片開扉一箇所 手摺基礎 樹脂製型枠 (ポリマーブロック) 化粧 内部コンクリート充填 177*177*150H / 327*177*150H 改修：アルミ手摺 既存のまま 基礎 高圧洗浄 (10 ~ 15Mpa)、樹脂部分目荒しサンディング の上 ケルタゴ ム系塗膜防水 (X-2)	ステージ基礎	(m)	既存：基礎コンクリート直押え (800 × 600 × 350H)、立上り アスファルト防水立上げの上押えコンクリート 改修：天端・立上り共 高圧洗浄 (10 ~ 15Mpa)、ケル清掃、下地調整 (バ リアセメントベ ースト) の上 ケルタゴ ム系塗膜防水 (X-2)

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. A - 24
		構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 5 階 訓練用ステージ詳細図	縮尺 A2: 1/30、1/50 A3: -

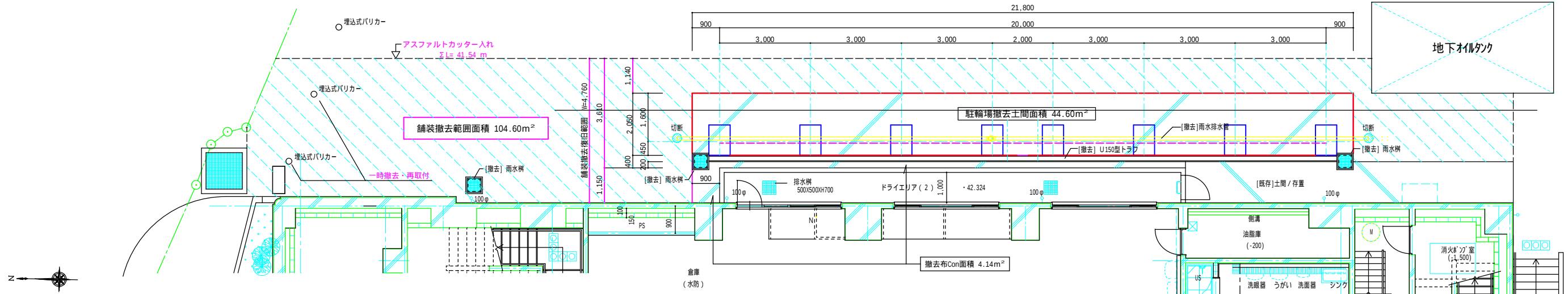
アルミ笠木 (A-1a)		1/20	R C 笠木 C、C' (C' : 5 F 屋上 (B) 訓練用ステージ部分)		1/20						
屋根 (1)		1/20	屋根 (2)		1/20						
屋根 (1) 設備基礎		1/20	設備基礎 (A)		1/20	設備基礎 (B) 防音壁柱基礎		1/20	5 F 屋上 (B) アルミ手摺基礎		1/20
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号			板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 () 構造設計/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 () 一級建築士登録 大臣 () 構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事 図名 部分詳細図 3 防水納まり詳細図	No. A - 25 縮尺 A2: 1/20 A3: -		

凡例・特記事項	
	交通誘導員の配備位置を示す。(作業中適宜移動) 大型重機による進入及び作業を行う場合は、必要に応じて増員する。
	仮囲い：フェンスバリケード＋養生シート張 H 1800 L=52m (下部幅木板設置) 機械設備改修工事について、必要に応じて仮囲いの盛替えを行う。
	既存建物（撤去建物）を示す。



配置図・仮設計画図 1/300 仮設計画図は参考図とする

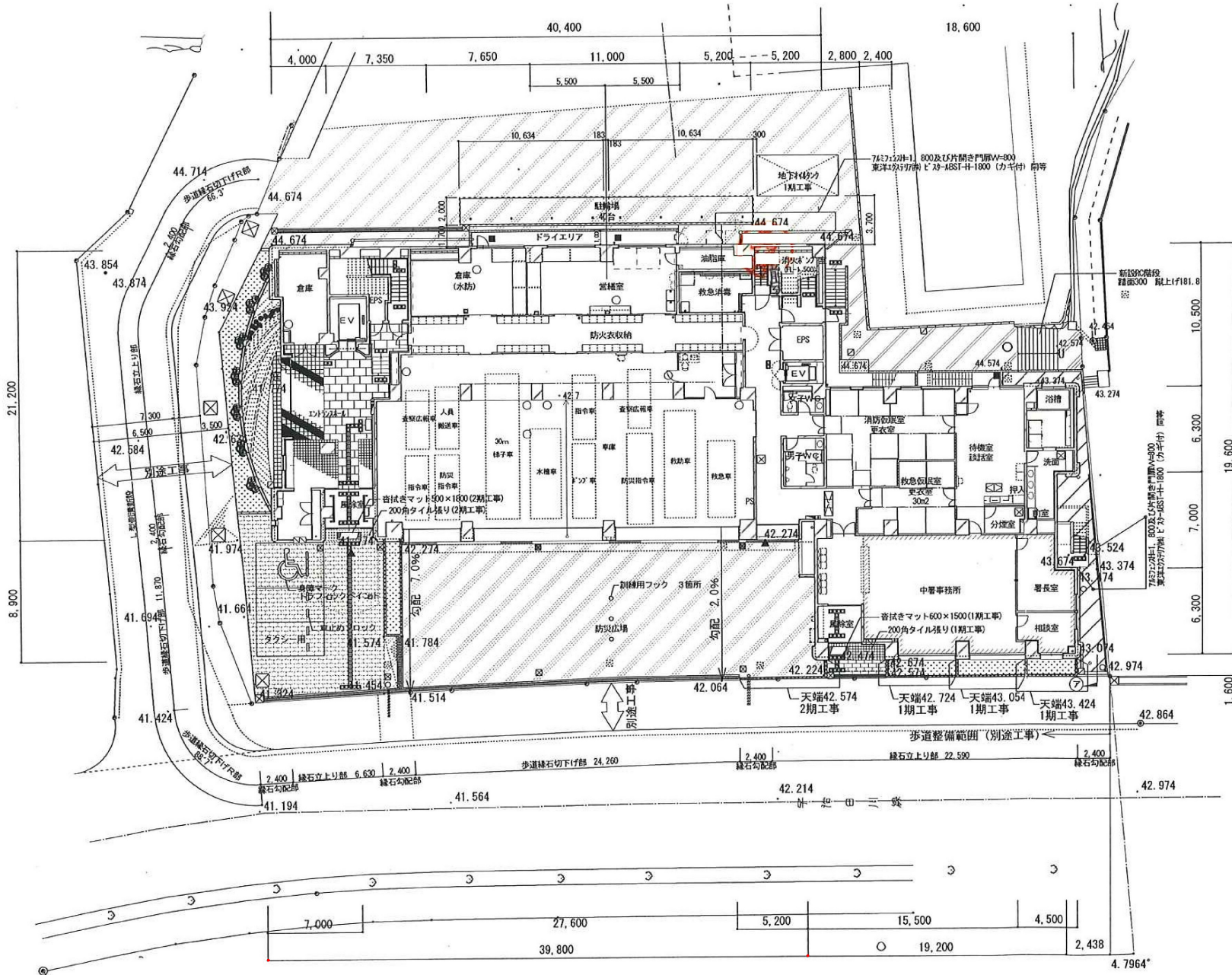
		足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040	所長	主任	担当	工 事 名	うじ安心館屋上防水ほか改修工事	縮尺 1/300	SHEET A-26	年 月 日
						図 面 名	駐輪場 配置図・仮設計画図			



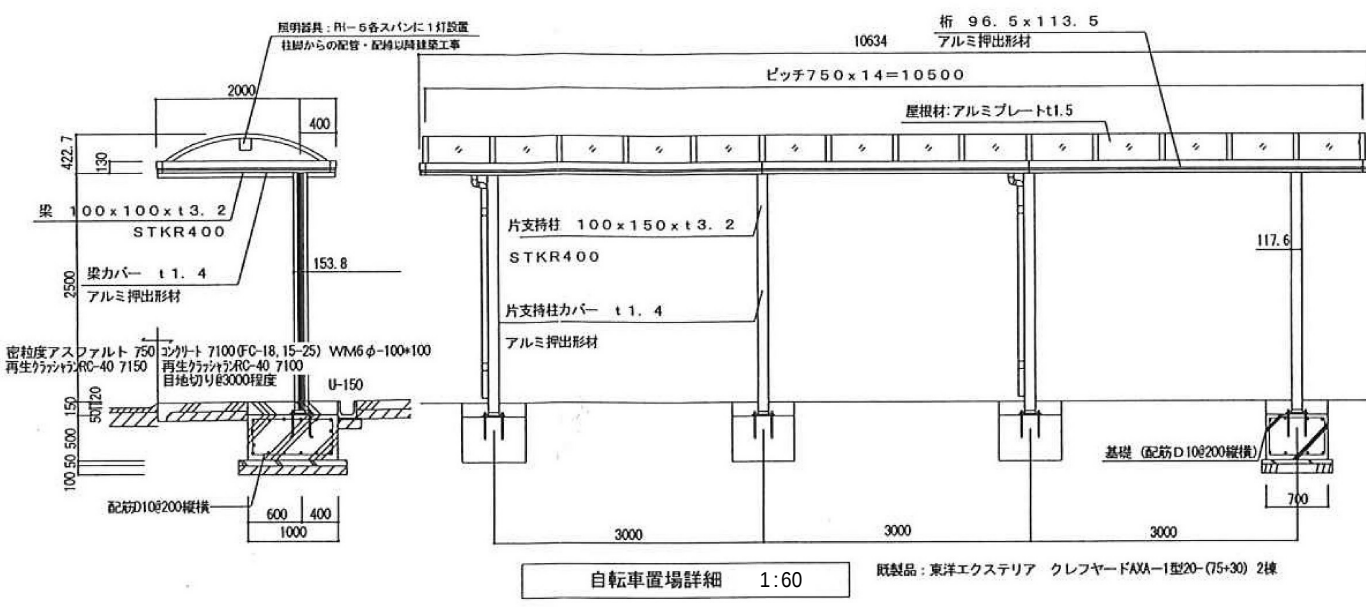
既存駐輪場現況図
1/100

撤去数量表

駐輪場上屋、基礎	2 棟
駐輪場土間 厚100	44.60 m ²
布Con土間 厚100	4.14 m ²
アスファルト舗装	104.60 m ²
U150型トラフ	20.70 m
雨水樹	3 ケ所



既存駐輪場現況配置図
1/300



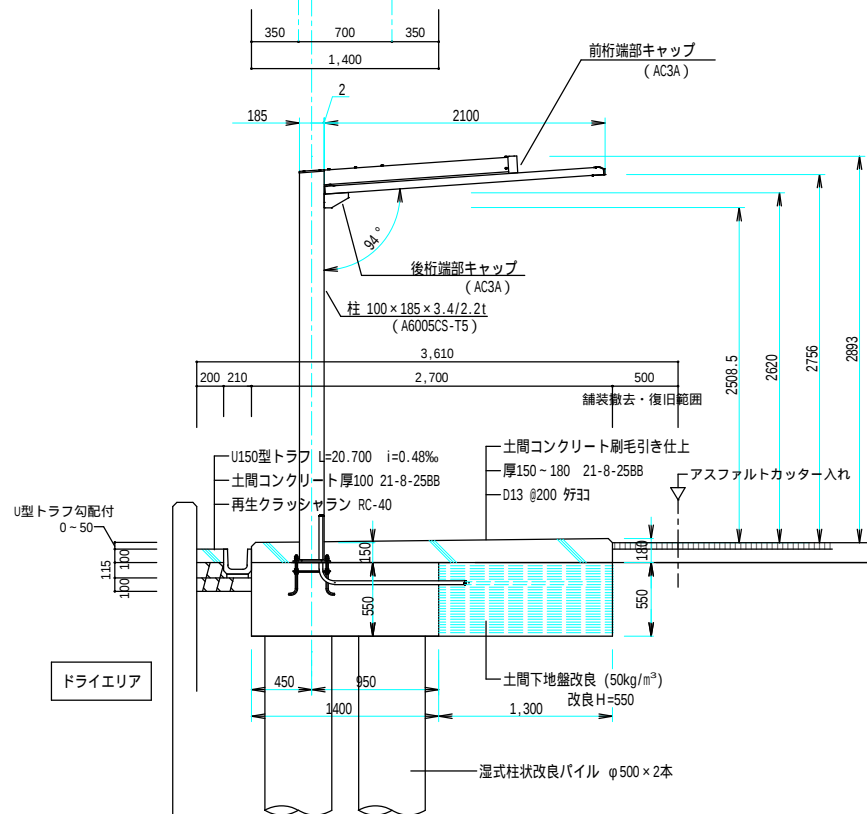
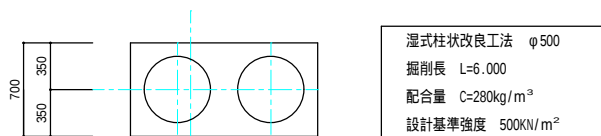
自転車置場詳細 1:60

既製品：東洋エクステリア クレファードAXA-1型20-(75×30) 2棟

- ・図中照明用電源配線立ち上げ位置は参考。

H	H1	H2	H3	D
2620	2756	2893	2508.5	2100

H	G1	G2	G3	Ga	Gb
2620	700	1400	550	450	950

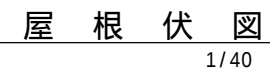


柱 + 柱カバ-	梁	前桁	後桁 + 後桁カバ- + パネル受け	前枠 + 枠カバ-	端部垂木 + 枠カバ-	中間垂木	垂木カバ-	後桁枠 + 後桁枠カバ-	縦樋 + 縦樋カバ- + 配線カバ-

部材名		規格・材質
柱・梁・前桁・後桁 中間垂木・端部垂木		JIS H 4100 A6005CS-T5
ベースプレート		JIS G3101 SS400
前枠・枠力バー 後枠力バー・後桁枠 後枠力カバー パネル受け 垂木力バー・壁樋 壁樋力バー・配線力バー		JIS H 4100 A6063S-T5
柱梁ブラケット		JIS G 3302 SGH400
コーナーキャップ 雨樋アタッチメント 雨樋アタッチメント孔塞ぎ 壁樋受けキャップ		ASA (樹脂)
前桁金具 中間垂木吊り金具 端部垂木吊り金具		SUS304
柱キャップ・壁樋キャップ		SUS430 (塗装)
後桁端部キャップ 前桁端部キャップ		AC3A (焼付塗装)
ボルト類		JIS B 1187/1174
ネジ類		JIS B 1111/1124
アンカーボルト		鋼製
屋根材 (選択部材)	t=3.0mm	ポリカーボネート 熱線吸収 ポリカーボネート
	t=2.0mm	アルミ樹脂複合板 (不燃材) シルバー色
	t=3.0mm	アルミ樹脂複合板 (不燃材) AB色

参考品番：(株)LIXIL HBR-HA-60

 足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040				所 長	主 任	担 当	工 事 名	うじ安心館屋上防水ほか改修工事	縮尺 1/40 1/5	SHEET A-28	年 月 日
							図 面 名	駐輪場 立面図、屋根伏図、部材表			



屋根伏図
1/40

建築・床面積 $(185/2 + 2 + 2,100 - 1,000) \times 9.000 = 10,750\text{m}^2$
(一棟当たり)

地下オイルタンク

舗装撤去復旧範囲を示す
A= 90.59m²

排水溝
500X500XH700

ドライエリア (2)

防火衣乾燥器 (2台)

油脂庫 (-200)

消火器室 (-1,500)

洗濯器 うがい 洗面器 シンク

布Con面積 4.14m²

U150型トラブ新設 L=20.700 i=0.5%

59,000

屋根 伏 図
1/100

機械設備工事特記仕様書 № 1

【工事概要】

1 工事場所うじ安心館屋上防水ほか改修工事

2 建物概要京都府宇治市宇治下屋13-2

建 物 名	構 造	階 数	延床面積 (㎡)	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備 考
					○甲 ○乙	工事区分を記載
					○甲 ○乙	例：新営
					○甲 ○乙	全館無人改修
					○甲 ○乙	執務並行改修

3 工事科目

●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目	建物名称	うじ安心館	備 考
空調設備		○	
換気設備		●	○ R階の換気設備の撤去・新設
排煙設備		○	
自動制御設備		○	
衛生器具設備		○	
給水設備		●	○
排水設備		●	○
給湯設備		○	○
消火設備		○	○
ガス設備		○	○
さく井設備		○	○
厨房機器設備		○	○
浄化槽設備		○	○
床暖房設備		○	○
撤去工事		●	○

- 【特記事項】
- 1 一般事項
- 1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和4年版（以下「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
- 2) 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び各工事の標準仕様書による。
- 2 特記事項
- 項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、○印を適用する。
○印と●印の付いた場合は、共に適用する。 ○印が抹消された場合は、●印のみ適用する。

章	項 目		特 記 事 項
	設備機材等		本工事に使用する設備機材等は、設計図面に規定するものまたは、これらと同等のものとす。ただし、これらと同等のものとす場合は、監督職員の承諾を受ける。
	機材の承諾		機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課営繕技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	機材の品質・性能証明		使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2（3）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	現場代理人		本工事の施工に当たっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
一	電気保安技術者		適用する。 ○適用しない
	技能士（一般）		配管（配管工事） ○建築板金（ダクト製作及び取付け） ○冷凍空調設備機器施工
	工事用電力・水その他		本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	官公署への手続き		官公署への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	工事用仮設物		構内につくることが できる ○できない
般	足場・作業構台		別契約の関係者・受注者が設置したものは、無償で使用できる。
	監督職員事務所		設置しない ○設置する（○本工事 ○別途）
	監督職員事務所に備え付ける図書		下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編） ・公共建築設備工事標準図（機械設備工事編） ・機械設備工事監理指針 ・機械設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針 ・工事写真撮影ガイドブック機械設備工事 ・公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）
	建設副産物の処理及び建設発生土の処理		●建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。 ○再生資源利用を図るもの【 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○臭化リチウム ○構外指定地に搬出処理 ○（一財）城陽山砂利採取地整備公社 ○構内指示場所に敷き均し
	建設発生土の処理		右記のほか、 現場説明書による 再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書による。
事	1) 「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。		
	2) 関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。		
	3) 冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く。）（補注： 本工事 ○別途、 処分費： 本工事 ○別途、 運搬費： 本工事 ○別途）		
	○アスベストの処理等		○アスベストの処理等 1) 次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○煙道の断熱材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○アスベスト成形板 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） アスベスト成形板の処理等 施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認 確認範囲 成形板の製造年等の確認 ○X線解析法
	2) アスベスト含有調査は以下のとおりとする。（ただし、調査費用は 本工事 ○別途 とする。） JIS A 1481-2「建材製品中のアスベスト含有率測定方法—第2部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又は「JIS A 1481-3「建材製品中のアスベスト含有方法—第3部：アスベスト含有率のX線回折定量分析方法」による。 3) アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。		
項	○アスベストの処理等		○アスベストの処理等 1) 次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○煙道の断熱材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○アスベスト成形板 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） アスベスト成形板の処理等 施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認 確認範囲 成形板の製造年等の確認 ○X線解析法
	2) アスベスト含有調査は以下のとおりとする。（ただし、調査費用は 本工事 ○別途 とする。） JIS A 1481-2「建材製品中のアスベスト含有率測定方法—第2部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又は「JIS A 1481-3「建材製品中のアスベスト含有方法—第3部：アスベスト含有率のX線回折定量分析方法」による。 3) アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。		
	○アスベストの処理等		○アスベストの処理等 1) 次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○煙道の断熱材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○アスベスト成形板 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） アスベスト成形板の処理等 施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認 確認範囲 成形板の製造年等の確認 ○X線解析法
	2) アスベスト含有調査は以下のとおりとする。（ただし、調査費用は 本工事 ○別途 とする。） JIS A 1481-2「建材製品中のアスベスト含有率測定方法—第2部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又は「JIS A 1481-3「建材製品中のアスベスト含有方法—第3部：アスベスト含有率のX線回折定量分析方法」による。 3) アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。		
	○アスベストの処理等		○アスベストの処理等 1) 次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○煙道の断熱材 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） ○アスベスト成形板 ○含有 ○不含 ○要調査（分析資料数： ） アスベスト成形板の処理等 施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認 確認範囲 成形板の製造年等の確認 ○X線解析法

章	項 目		特 記 事 項
	工事関係書類		営繕工事契約関係書類提出書類書式集 一覧表により提出。 宇治市ホームページ参照 <http://www.city.uji.kyoto.jp>
	履行報告		月報 2部 ○3部 毎月末にメ、翌月の5日までに提出する。
	工事写真		1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領（最新版）」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) 小黒板電子化については、現場説明書による。
	完成図書		名 称 内 容 大きさ 部 数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ●機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 ○諸官庁提出書類 副 本 1式 ●原因 完 成 図 1部 ●完成写真 アルバム綴り 2部 電子納品については、現場説明書による。
一	著作権等		当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限り使用権は、発注者に委譲するものとする。
	付属品及び予備品		標準仕様書によるほか、別表による。
	総合試運転調整（測定結果は報告書にて提出）		●風量調整（測定共） ●水量調整（測定共） ○室内外空気の温湿度測定 ○室内気流及びじんあいの測定 ●騒音の測定 ○飲料水の水質の測定（項目） ●雑用水の水質の測定（項目）
	●耐震施工		1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」により、計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 2) 下記の設計用水平震度（KH）により、機器製作固定を行う。 ●特定の施設 ○一般の施設 設 置 場 所 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上層階、屋上及び塔屋 2.0(2.0) 1.5(2.0) 1.5(2.0) 1.0(1.5) 中 間 階 1.5(1.5) 1.0(1.5) 1.0(1.5) 0.6(1.0) 1 階 及 び 地 下 階 1.0(1.0) 0.6(1.0) 0.6(1.0) 0.4(0.6) ●特定の施設 ○一般の施設 設 置 場 所 水 槽 水 槽 上層階、屋上及び塔屋 2.0 1.5 中 間 階 1.5 1.0 1 階 及 び 地 下 階 1.5 1.0 注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。屋上に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注2 () 内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。 注3 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注4 上層階の定義は、6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上階2階。 注5 重要機器（水槽類）は、下記に示すものとする。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） 【 注6 「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」による形鋼振れ止め支持を行う場合は、S ₁ 種とする。ただし、取付け金物については標準図に準ずる。 標準仕様書第2編2.2.1(ア)～(シ)によるほか、下記による。 1) 水道直結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。 2) 給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。 機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。 ○ペローズ形 ○スリーブ形 溶接部合 溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する（○放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査） ●地中埋設及び埋設表示用テープ 1) 給 水 管 地中埋設（●要 ○不要） 埋設表示用テープ（●要 ○不要） 2) 消 火 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 3) ガ ス 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 4) 油 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 5) プライン管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 用途表示のあるテープ（幅は150mm以上）で、2倍長以上重ね合わせて使用する。 ○防食処理 地中埋設の排水用塩ビラインング鋼管は、防食処理を行う。 ●保温 1) 保温材の仕様は、下記による。 給水管・排水管 ●ポリスチレンフォーム保温材 ○ 排煙ダクト・煙道、排気筒 ○ロックウール保温材 ○ その他 ○グラスウール保温材 ○ 2) 鋼板製タンクの保温 ○必要 ○不要 3) 保温を施す膨張タンク等の蓋の保温 ○必要 ○不要 4) エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜管までとする。 5) 露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内 ○合成樹脂カバー1 ○合成樹脂製カバー2 ○カラー亜鉛鉄板 ・屋外 ●ステンレス鋼板 6) 弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ 7) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 8) 合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの
共	○一般用弁		標準仕様書第2編2.2.1(ア)～(シ)によるほか、下記による。 1) 水道直結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。 2) 給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。
	○フレキシブルジョイント		機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。
	○鋼管用伸縮管継手		○ペローズ形 ○スリーブ形
	○溶接接合		溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する（○放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査）
	●地中埋設及び埋設表示用テープ		1) 給 水 管 地中埋設（●要 ○不要） 埋設表示用テープ（●要 ○不要） 2) 消 火 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 3) ガ ス 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 4) 油 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 5) プライン管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 用途表示のあるテープ（幅は150mm以上）で、2倍長以上重ね合わせて使用する。 ○防食処理 地中埋設の排水用塩ビラインング鋼管は、防食処理を行う。 ●保温 1) 保温材の仕様は、下記による。 給水管・排水管 ●ポリスチレンフォーム保温材 ○ 排煙ダクト・煙道、排気筒 ○ロックウール保温材 ○ その他 ○グラスウール保温材 ○ 2) 鋼板製タンクの保温 ○必要 ○不要 3) 保温を施す膨張タンク等の蓋の保温 ○必要 ○不要 4) エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜管までとする。 5) 露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内 ○合成樹脂カバー1 ○合成樹脂製カバー2 ○カラー亜鉛鉄板 ・屋外 ●ステンレス鋼板 6) 弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ 7) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 8) 合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの
通	○一般用弁		標準仕様書第2編2.2.1(ア)～(シ)によるほか、下記による。 1) 水道直結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。 2) 給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。
	○フレキシブルジョイント		機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。
	○鋼管用伸縮管継手		○ペローズ形 ○スリーブ形
	○溶接接合		溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する（○放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査）
	●地中埋設及び埋設表示用テープ		1) 給 水 管 地中埋設（●要 ○不要） 埋設表示用テープ（●要 ○不要） 2) 消 火 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 3) ガ ス 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 4) 油 管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 5) プライン管 地中埋設（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 用途表示のあるテープ（幅は150mm以上）で、2倍長以上重ね合わせて使用する。 ○防食処理 地中埋設の排水用塩ビラインング鋼管は、防食処理を行う。 ●保温 1) 保温材の仕様は、下記による。 給水管・排水管 ●ポリスチレンフォーム保温材 ○ 排煙ダクト・煙道、排気筒 ○ロックウール保温材 ○ その他 ○グラスウール保温材 ○ 2) 鋼板製タンクの保温 ○必要 ○不要 3) 保温を施す膨張タンク等の蓋の保温 ○必要 ○不要 4) エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜管までとする。 5) 露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内 ○合成樹脂カバー1 ○合成樹脂製カバー2 ○カラー亜鉛鉄板 ・屋外 ●ステンレス鋼板 6) 弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ 7) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 8) 合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの
事	●塗装（露出施工部）		標準仕様書によるほか、下記により塗装（指定色）を行う。ただし、保温を行うものは除く。 ●屋外（●ダクト・配管） ○屋内居室（○ダクト・配管） ○廊下（○ダクト・配管） ●屋内P.S.・E.P.S.（○ダクト・配管） ○屋内機械室・電気室（○ダクト・配管） ○吹出口及び吸込口ボックス ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は「JIS A 4009（空調用及び換気設備用ダクトの構成部材）」によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。 ○ステンレス製ダクトの板厚 JIS A 4009 2017による ○ボックス P.F.管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。 ●容量等の表示 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。 ○誘導電動機 電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、「JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッランナーモータ）」による。 ○開放形膨張タンク等 開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○鋼板製 ○ステンレス鋼板製 ●電線及び電線管 電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による
	●塗装（露出施工部）		標準仕様書によるほか、下記により塗装（指定色）を行う。ただし、保温を行うものは除く。 ●屋外（●ダクト・配管） ○屋内居室（○ダクト・配管） ○廊下（○ダクト・配管） ●屋内P.S.・E.P.S.（○ダクト・配管） ○屋内機械室・電気室（○ダクト・配管） ○吹出口及び吸込口ボックス ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は「JIS A 4009（空調用及び換気設備用ダクトの構成部材）」によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。 ○ステンレス製ダクトの板厚 JIS A 4009 2017による ○ボックス P.F.管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。 ●容量等の表示 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。 ○誘導電動機 電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、「JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッランナーモータ）」による。 ○開放形膨張タンク等 開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○鋼板製 ○ステンレス鋼板製 ●電線及び電線管 電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による
	●塗装（露出施工部）		標準仕様書によるほか、下記により塗装（指定色）を行う。ただし、保温を行うものは除く。 ●屋外（●ダクト・配管） ○屋内居室（○ダクト・配管） ○廊下（○ダクト・配管） ●屋内P.S.・E.P.S.（○ダクト・配管） ○屋内機械室・電気室（○ダクト・配管） ○吹出口及び吸込口ボックス ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は「JIS A 4009（空調用及び換気設備用ダクトの構成部材）」によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。 ○ステンレス製ダクトの板厚 JIS A 4009 2017による ○ボックス P.F.管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。 ●容量等の表示 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。 ○誘導電動機 電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、「JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッランナーモータ）」による。 ○開放形膨張タンク等 開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○鋼板製 ○ステンレス鋼板製 ●電線及び電線管 電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による
	●塗装（露出施工部）		標準仕様書によるほか、下記により塗装（指定色）を行う。ただし、保温を行うものは除く。 ●屋外（●ダクト・配管） ○屋内居室（○ダクト・配管） ○廊下（○ダクト・配管） ●屋内P.S.・E.P.S.（○ダクト・配管） ○屋内機械室・電気室（○ダクト・配管） ○吹出口及び吸込口ボックス ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は「JIS A 4009（空調用及び換気設備用ダクトの構成部材）」によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。 ○ステンレス製ダクトの板厚 JIS A 4009 2017による ○ボックス P.F.管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。 ●容量等の表示 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。 ○誘導電動機 電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、「JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッランナーモータ）」による。 ○開放形膨張タンク等 開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○鋼板製 ○ステンレス鋼板製 ●電線及び電線管 電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による
	●塗装（露出施工部）		標準仕様書によるほか、下記により塗装（指定色）を行う。ただし、保温を行うものは除く。 ●屋外（●ダクト・配管） ○屋内居室（○ダクト・配管） ○廊下（○ダクト・配管） ●屋内P.S.・E.P.S.（○ダクト・配管） ○屋内機械室・電気室（○ダクト・配管） ○吹出口及び吸込口ボックス ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は「JIS A 4009（空調用及び換気設備用ダクトの構成部材）」によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。 ○ステンレス製ダクトの板厚 JIS A 4009 2017による ○ボックス P.F.管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。 ●容量等の表示 機器類

機械設備工事特記仕様書 No. 2

項目	特記事項										
空気調和設備	○鋼板製煙道（ボイラー） 厚さ ○ 3 . 2 mm ○ 4 . 5 mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ ばいじん量測定口 ○伸縮盤手 ○ 掃除口 ○ばい煙濃度計（ボイラー） 送風機付き ○ 送風機なし（電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む） ○瞬間流量計 ○固定形 個 ○着脱可能形（測定用タッピング 個 本体 個） 1）冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 ○ 不要 ○ 必要 露出部 ○ 保温化粧ケース（塩化ビニル樹脂製） ○ ・屋外 ○ ステンレス鋼板 ○ 保温化粧ケース（樹脂製 ○ アルミ合金製 ○ ステンレス鋼板製 ○ 溶融亜鉛めっき鋼板製） ・保温化粧ケースの下部カバー ○ 必要 ○ 不要 2）ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3）加温用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4）トラフ内の油管はプラスチックテープ 1 / 2 重ね 1 回巻きとする。										
換気設備	●ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○ 共板フランジ工法 ○ スライドオンフランジ工法） ●スパイラルダクト ○アルミフレキシブルダクト ○ダクトの分岐方法 給気ダクト ○ 割込み方式 ○ 直付け方式 排気ダクト ○ 割込み方式 ○ 直付け方式 ○厨房排気ダクトの板厚 厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ダクトの長辺</th><th>板厚</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>450mm以下</td><td>0.6mm</td></tr> <tr> <td>450mmを超え1200mm以下</td><td>0.8mm</td></tr> <tr> <td>1200mmを超え1800mm以下</td><td>1.0mm</td></tr> <tr> <td>1800mmを超えるもの</td><td>1.2mm</td></tr> </tbody> </table> ○排気フード 1）排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ステンレス鋼板（補強共） 2）排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○ 本工事 ○ 別途工事 3）グリッドフィルターの予備 ○ 不要 ○ 必要 ○保温 浴室・厨房（多湿箇所）の外気取入ダクトの保温 ○ 不要 ○ 必要 外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について） ○ 不要 ○ 必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について） ○ 不要 ○ 必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について） ○ 不要 ○ 必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。	ダクトの長辺	板厚	450mm以下	0.6mm	450mmを超え1200mm以下	0.8mm	1200mmを超え1800mm以下	1.0mm	1800mmを超えるもの	1.2mm
ダクトの長辺	板厚										
450mm以下	0.6mm										
450mmを超え1200mm以下	0.8mm										
1200mmを超え1800mm以下	1.0mm										
1800mmを超えるもの	1.2mm										
排煙設備	○排煙対象部分 ○廊下 ○ 事務室 ○ 図示 ○ 最大面積 m² ○ダクトの種別 ○高圧1ダクト ○ 高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○ダクトの材料 ○亜鉛鉄板製 ○ 鋼板製（1.5mm以上） ○排煙口 1）形状 ○ スリットフェース形 ○ パネル形 ○ ダンパー形 2）排煙口の開放 ○ 手動（○ 機械式 ○ 電気式） ○ 煙感知器連動 3）復旧装置 ○ 手元復帰式（○ 手動式 ○ 電気式） ○ 遠方復帰式 4）ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。 ○保温 床下及び暗渠内の保温 不要 ○ 必要（図示） 図面による。										
衛生器具設備	○小便器用節水装置 電気供給方式 ○ A C 電源 ○ 乾電池 ○ 自己発電 ○自動水栓 電気供給方式 ○ A C 電源 ○ 乾電池 ○ 自己発電 手動スイッチ ○ 無し ○ 有り ○大便器用洗浄弁 操作方式 ○ 手動式 ○ 電気開閉式（○ センサー式 ○ タッチスイッチ式） ○水石けん入れ ○手洗器一体型 ○ 手洗器分離型 ○車椅子使用者用器具 1）大便器洗浄弁 ○ センサー式 ○ タッチスイッチ式 ○ レバー式 2）洗面器の水栓は自動水栓とする。										
給水設備	●給水方式 ○水道直結方式 ○ 高圧タンク方式 ○ 水道直結増圧方式（水道用直結加圧形ポンプユニット） ●ポンプ直送方式（小型給水ポンプユニット） ●配管材料（図面特記部分は除く） 屋内配管 ○一般配管用ステンレス鋼管（SUS304）（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP） ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管（SGP-PA、SGP-FPA） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VA、SGP-FVA） ○ 地中配管【屋内】 ○一般配管用ステンレス鋼管（SUS316）（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（50A以下）（1種 ○ 2種）（接合方法 メカニカル ○ 電気融着） ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP） ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管（SGP-PD、SGP-FPD） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VD、SGP-FVD） ○ 地中配管【屋外】 ○一般配管用ステンレス鋼管（SUS316）（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（50A以下）（1種 ○ 2種）（接合方法 メカニカル ○ 電気融着） ●水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP） ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管（SGP-PD、SGP-FPD） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VD、SGP-FVD） ○緊急遮断弁装置 ○ 必要 ○ 不要 駆動方式 ○ 電気式 ○ 機械式 ○量水器 ○現地表示式（直読式） ○遠隔表示式（パルス式）										

項 目		特 記 事 項	
給 水 設 備	●水栓柱	●合成樹脂製（70×70×1300H） ○ステンレス製（ ） ○不凍水栓柱（ ） 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。	
	●管の埋設深さ	1）一般敷地 ●300mm ○ 2）構内車両通路 ●600mm ○ 3）寒冷地では凍結深度以上とする。	
	○埋戻し及び盛土	○良質土 ○再生コンクリート砂 ○山砂	
	○加入金・負担金	○不要 ○必要（○別途 ○本工事）	
排 水 設 備	○本管引込工事	○本工事（○舗装本復旧まで ○舗装仮復旧まで） ○別途工事	
	●排水方式	汚水と雑排水 [屋内] 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ポンプアップ排水	
	●放流式	汚水 雑排水 雨水ポンプアップ排水 湧水ポンプアップ排水	
	●配管材料 （図面特記部分は除く）	屋内雑排水管 屋内汚水管 通気管 地中配管 [屋内] 地中配管 [屋外]	
	○負担金	○不要 ○必要（○別途 ○本工事）	
	○本管接続工事	○本工事（○舗装本復旧まで ○舗装仮復旧まで） ○別途工事	
	○給湯方式	○中央式 ○局部式	
	○配管材料	○水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-HVA） ○一般配管用ステンレス鋼管 ○鋼管（壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。） ○被覆鋼管	
	○保温	ガス沸湯器の排気筒の隠蔽面所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2.3.5による。	
	消 火 設 備	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火（ ） ○連結送水管 ○
○配管材料 （図面特記部分は除く）		屋内配管 地中配管 [屋内] [屋外]	
○保温		消火用圧水タンクの保温を 消火用圧水タンクの保温を 屋外露出管の保温を 屋内露出管の保温を トレンチ内の保温を	
○ガスの種類		○都市ガス（発熱量 ○45,000kJ/Nm ³ ○ kJ/Nm ³ ） ○液化石油ガス（○50kg 本立 ○20kg 本立）	
○ガスメーター		親メーター 子メーター	
○配管材料 （図面特記部分は除く）		屋内配管 地中配管 [屋内] [屋外]	
○地中配管の接合方法		○SGM工法 ○ネジ工法 ○PE管工法	
○ビット内施工法		○滑接工法	
○負担金		○不要 ○必要（○別途 ○本工事）	
○本管接続工事		○本工事（○舗装本復旧まで ○舗装仮復旧まで） ○別途工事	
設 け 備 井	排水井設備	○掘削工法 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマ式 ○回転振動式 ○孔口保護管 深度（ ）m ○ケーシング材質 配管用炭素鋼鋼管（黒） ○配管用ステンレス鋼鋼管 ○地中熱交換井設備 ○掘削工法	
	○回転振動式	○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマ式	
	○ロータリー	○ロータリーパーカッション式	
	○ロータリーパーカッション式	図面による。	

章	項 目	特 記 事 項
浄化槽設備	○形式 ○処理方法	○ユニット形 ○現場施工形 ○小規模合併処理（図面による） ○合併処理（図面による）
設 床 備 暖 房		

その他	○コア抜き (ﾀﾞｲﾄﾞﾙ穴明け) ○校正記録 ●交通誘導員 ●保安器材 ○鉄板敷き	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー 日本無機機 ハンディサーチＲＣレーダー N J J - 8 5 型同等品 試験機器類の校正記録を提出する。 機器類搬入時、撤去片搬出時、外部掘削時に配置する。 カラーコーン、コンウエイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。 1, 5 2 4 × 6, 0 9 6 × 厚 2 2 mm

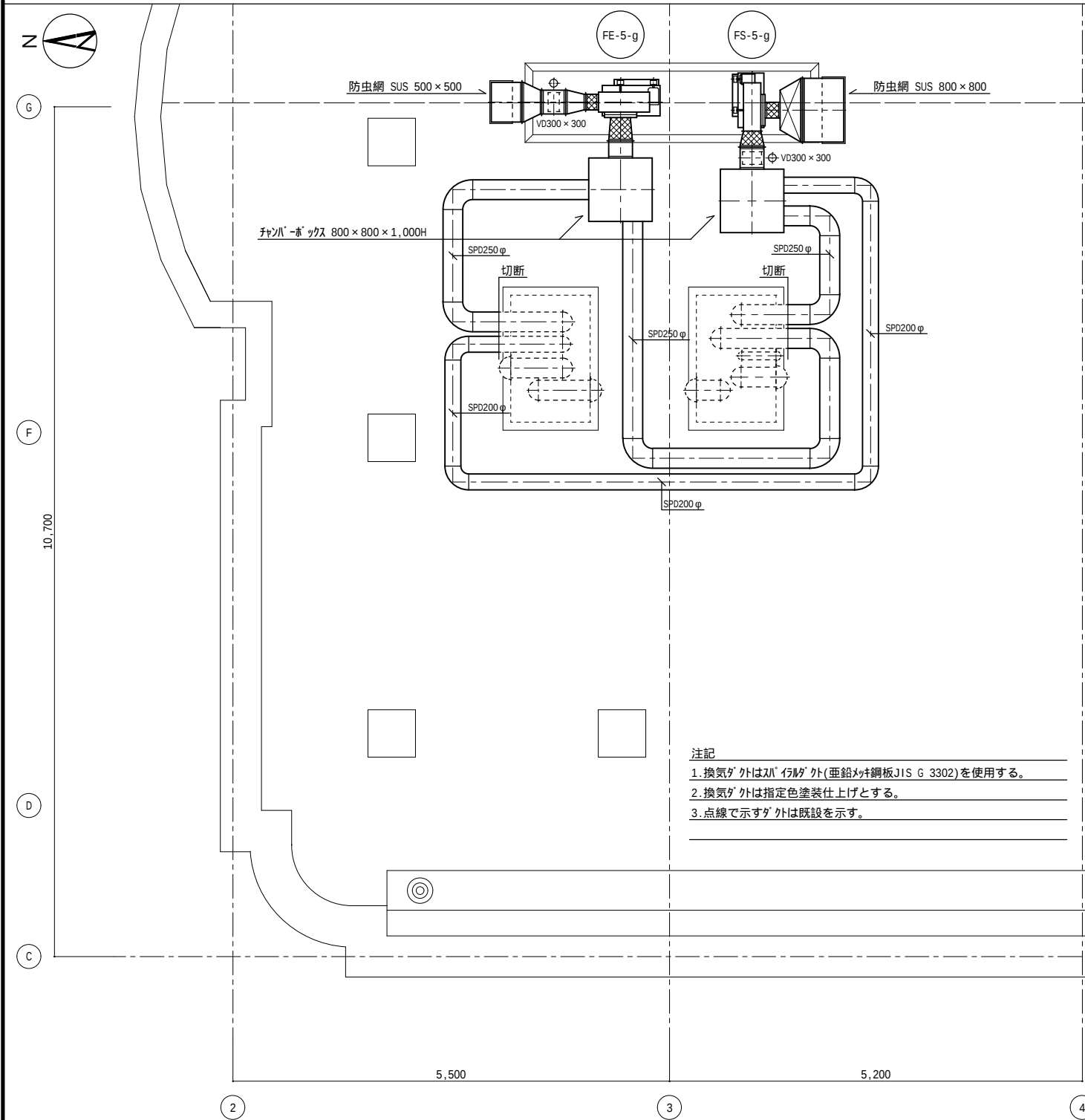
別表 付属品・予備品

○ 工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパンナー、ハンマー）
 ○ マンホールフック ○ バイブレンチ ○ ポンプブライヤー ○ ラバーカップ（大、小）
 ○ イーザーキャビネット 箱 ○ キーボックス
 ○ 盤類予備品（ランプ及びヒューズの１００％）

試験・検査

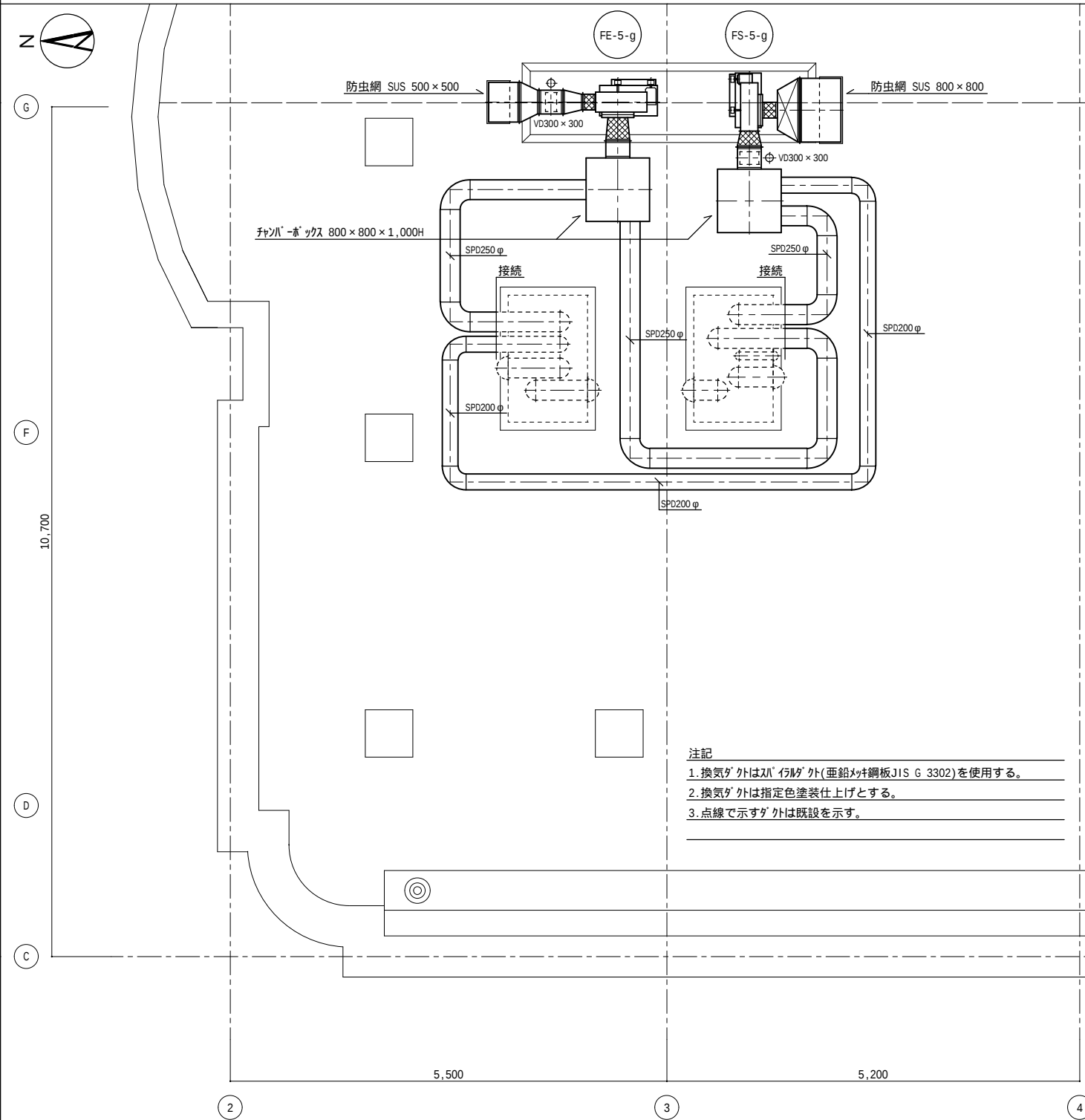
● 水压試験	○ 排水満水試験	● 排水通水試験	● 風量測定	○ 吹出口温度測定
○ 気密試験	○ 点火試験	● 機器類動作試験		
○ 騒音測定	○ 振動測定	● 絶縁試験		
○ 消防設備試験	○ 水質検査	○ 水槽水張り試験	○ アンカー引張試験	

Ver. R04 (R05_02)	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()		名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. M - 0 2
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()		図名 機械設備工事特記仕様書 № 2	縮尺 A2: - A3: -



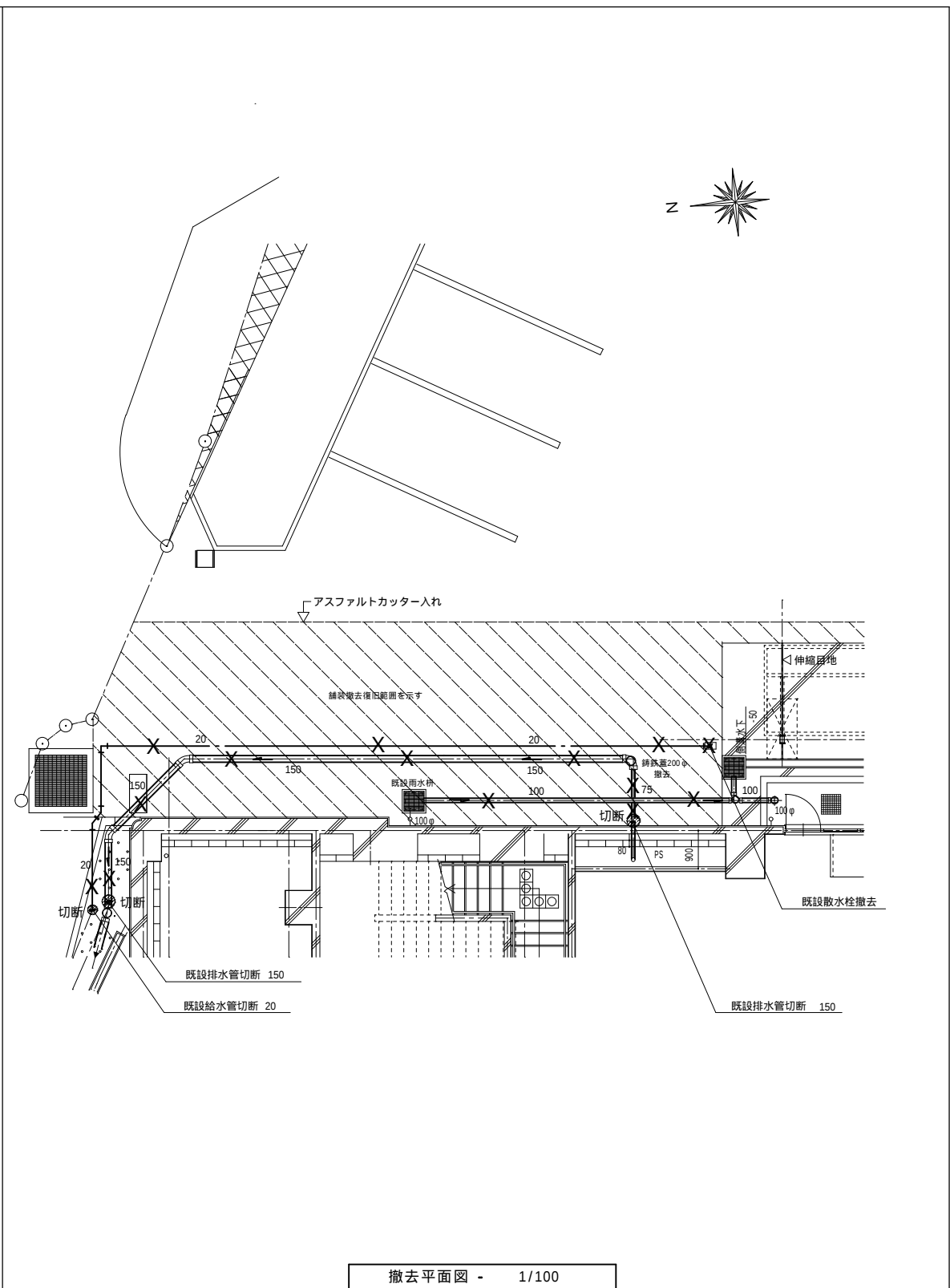
注記
1.換気ダクトはスリイダクト(亜鉛メッキ鋼板JIS G 3302)を使用する。
2.換気ダクトは指定色塗装仕上げとする。
3.点線で示すダクトは既設を示す。

撤去 換気機器リスト					
記号	名称	型 式	仕様及び付属品	数量	備考
FS-5-g	給気ファン	型 式	片吸込型ファン 屋外設置形 調理室系統	1	排気ファン(FE-5-g)と連動
		能 力	#1-1/2 × 1,250m3/h × 300Pa × 0.4kw(3 φ 200V)		
		付 属 品	防振架台、その他標準付属品共		
FE-5-g	排気ファン	型 式	片吸込型ファン 屋外設置形ステンレス製 調理室系統	1	
		能 力	#1-1/2 × 1,250m3/h × 300Pa × 0.4kw(3 φ 200V)		
		付 属 品	防振架台、その他標準付属品共		



注記
1.換気ダクトはスリイダクト(亜鉛メッキ鋼板JIS G 3302)を使用する。
2.換気ダクトは指定色塗装仕上げとする。
3.点線で示すダクトは既設を示す。

新設 換気機器リスト						
記号	名称	仕様及び付属品		参考品番	数量	備考
FS-5-g	給気ファン	型 式	片吸込型ファン 屋外設置形 調理室系統	テラル株式会社	1	排気ファン(FE-5-g)と連動
		能 力	#1-1/2 × 1,250m3/h × 300Pa × 0.4kw(3φ 200V)	CLF6-N0.1.25-TH-R-RS-SP		
		付 属 品	防振架台、その他標準付属品共	同等		
FE-5-g	排気ファン	型 式	片吸込型ファン 屋外設置形ステンレス製 調理室系統	テラル株式会社	1	
		能 力	#1-1/2 × 1,250m3/h × 300Pa × 0.4kw(3φ 200V)	CLF2-N0.1.25-TH-R-OB-B		
		付 属 品	防振架台、その他標準付属品共	同等		



防臭柵 施工要領図

塩ビ製小口径 施工要領図

ドロップ柵 施工要領図

管渠布設 施工要領図

アスファルト舗装

ドロップ柵 施工要領図

土留工 参考構造図

断面図

平面図

矢板長 m	掘削深 m	矢板厚 mm	支保工段数	最大腹起し間隔			腹起し部材		掘削幅 B m	摘 要
				H 1 m	H 2 m	H 3 m	c m	φ < 200		
1.50	H 1.3	40	1	0.50	—	0.80	7.5	0.80		
2.00	1.3 < H 1.8			0.50	—	1.30				
2.50	1.8 < H 2.0			0.70	—	1.30				
2.50	2.0 < H 2.3		0.50	0.80	1.00					
3.00	2.3 < H 2.8		0.80	1.00	1.00					
3.50	2.8 < H 3.3		0.85	1.20	1.25					
4.00	3.3 < H 3.5		2	0.85	1.30	1.35	12			

汚水管の内径及び勾配 (参考)

内径 (mm)	勾配	
75以上	100分の 3以上	100分の 12未満
100以上	100分の 2以上	100分の 10未満
125以上	100分の 1.7以上	100分の 8未満
150以上	100分の 1.5以上	100分の 6.5未満
200以上	100分の 1.2以上	100分の 4.5未満
250以上	100分の 1以上	100分の 3.4未満

マンホール蓋

300φ以上のマンホール蓋には、名称 (バルブ、止水弁等) 入れる
なお仕切弁柵の中には行先表示札を入れる

うじ安心館屋上防水ほか改修工事

施工標準図 (参考図)

図面番号

M - 05

電気設備工事特記仕様書-2

項 目		特 記 事 項			
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付			
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、90Vとする。			
	○交流無停電電源装置（UPS）	用途（ ） 方式 ○一般形 ○簡易形			
発電設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付			
	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル			
	○連続運転可能時間	○10時間（乙） ○72時間（甲） ○			
	○発電機	電気方式 三相3線式 電 圧 ○210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8			
	○原動機	種 別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 kW（PS）以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水槽循環式 現地負荷試験 ○行う ○行わない			
	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス（ ） ○燃料小出槽 ○主燃料槽			
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視			
	設備	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 kW以上 設置可能建築面積 m2以下（長辺 m×短辺 m） 系統連系 ○受動 ○能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆潮流 ○有 無 交流出力電圧 ○100V ○200V 出力電気方式 ○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式		
		○外部移報	○有 ○無		
		通信網設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
○施工方法			○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線		
構内交換設備		○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付		
		○保安器用接地	○本工事 ○別途工事		
○形式		○電子交換機 ○ボタン電話装置			
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備			
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付			
	○親時計及び付属装置	○CR-P M ○CW-P M ○プログラムタイマ（○カード式 ○キー式 ○ ）			
	○子時計	特記なきものは ○SWA33-GPB2 ○			
映像音響設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付			
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線			
拡声設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付			
	○増幅器	用途 ○全館放送用（○一般放送 ○非常放送） ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。			
	○スピーカ	特記なきものは ○SCHi-1V3-M ○			
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付			
	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式 （○磁気式 ○無線式 ○画像認識） ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○トイレ等呼出し装置 ○1室 ○3室 ○5室 ○ 			

項目		特記事項	
監視カメラ設備	工事範囲	配管 配線 機器取付	
	画像	カラー 白黒	
	伝送方式	ネットワーク伝送方式 デジタル同軸伝送方式 ○	
管制設備 駐車場	工事範囲	配管 配線 機器取付	
	車両検出方式	ループコイル方式 光線方式	
管理設備 防犯・入退室	工事範囲	配管 配線 機器取付	
	工事種類	機械警備用配管 防犯装置 入退室管理制御装置	
火災報知設備	自動火災報知装置	工事範囲 配管 配線 機器取付	
		受信機	形 級 回線 壁掛形 自立形 単独形 複合形 副受信機 窓 盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。
		光警報装置	
		消火ポンプ始動	消火栓箱内押ボタン 発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。）
		機器収容箱	消火栓一体形 単独形
	自動閉鎖装置	工事範囲	配管 配線 機器取付
		運動制御器	回線 【予備電源（蓄電池）内蔵】 単独 自火報受信機と一体
	自動閉鎖装置	防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構（電動式）DC24V 0.7A以下】 防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】	
	非常警報装置	工事範囲	配管 配線 機器取付
		電気方式	DC24V
		電源装置	非常電源（蓄電池） 自動火災報知設備と兼用
	ガス漏れ火災警報装置	工事範囲	配管 配線 機器取付
	受信機	単独形 自火報受信機と一体	
	ガスの種類	都市ガス（13A） 液化石油ガス	
	諸警報表示	受信機に諸警報表示窓（窓）を設ける。	
制御設備 中央監視	工事範囲	配管 配線 機器取付	
	監視方式	警報盤 監視制御装置	
医療関係設備	工事範囲	配管 配線 機器取付	
	非接地電源用分電盤	キャビネット	鋼製 ステンレス製
	ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出押ボタン	有線式 無線式 防滴 防湿
	その他	オプション等の試験は、監督職員の指示による。	
構内配線	工事範囲	配管 配線 機器取付	
	電気方式	高圧 低圧	三相3線式 6kV 三相3線式 200V 単相3線式 100/200V 単2線式 (100V 200V)
	ふ設方式	地中線	管路式 波付硬質合成樹脂管（FEP） ポリエチレン被覆管（PLP） 埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装下面）から300mm以上とする。
		架空線	電柱 遠心力プレストレストコンクリートボール
	区分開閉器	高圧負荷開閉器 7.2kV 30A	用途 架空引込用 地中引込用 構造 耐中塩じん用 耐重塩じん用 形式 引外し装置付き（SOG形） 引外し装置なし 避雷器内蔵 制御電源用変圧器内蔵
	マンホール及びハンドホール	構造・寸法 標準図による 図示による。 蓋の文字 蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合は、接地を省略してもよい。	
	高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはEM-高圧架橋ポリエチレンケーブルは、「JCS 4395「6.00V 架橋ポリエチレンケーブル（3層押出型）」に（よる（よらない）	
	余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。	
	磚子、高圧ケーブル端末処理	一般用 耐塩用 重耐塩用	
	避雷器	屋外形 耐塩形	
	装柱材	一般用 耐塩形	
	外灯	基礎 〇本工事 〇別途工事 外灯ボールの材質が鋼製（SPC）の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。	
構内通信線路	工事範囲	配管 配線 機器取付	
	ふ設方式	地中線	管路式 波付硬質合成樹脂管（FEP） ポリエチレン被覆管（PLP） 埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装（表面）下面）から300mm以上とする。
		架空線	電柱 遠心力プレストレストコンクリートボール
	マンホール及びハンドホール	構造・寸法 標準図による 図示による。 蓋の文字 蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合は、接地を省略してもよい。	

章	項 目	特 記 事 項
調査 電波障害	調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	測定時期	○工事前 工事中 完成後
	測定箇所	箇所
	測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表 付属品・予備品

○イージーキャビネット ○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組立パナー、ハンマー）	- 箱 ○キーボックス ○テスター ○マンホールフック
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、２０％とする。

試験・検査一覧

工事完成に際しては、各種試験、検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
● 受変電機器・動力盤及び電灯盤・耐圧試験● 絶縁抵抗測定● 接地抵抗測定● 機器機能試験● その他監督職員の指示するもの ● 工事着手に際し、事前に必要な機器（照明機器、空調機器、放送設備等）の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。 ● 工事着工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。（照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。） ● 着工前・工事完成後、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。 ● 着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。 ● 後施工アンカ - の施工確認試験（引張試験機による引張試験）は、1 日の施工本数の 3 % 以上かつ 3 本以上とする。
例 盤・ケ - ブルック・ケ - ブルダクト等

その他

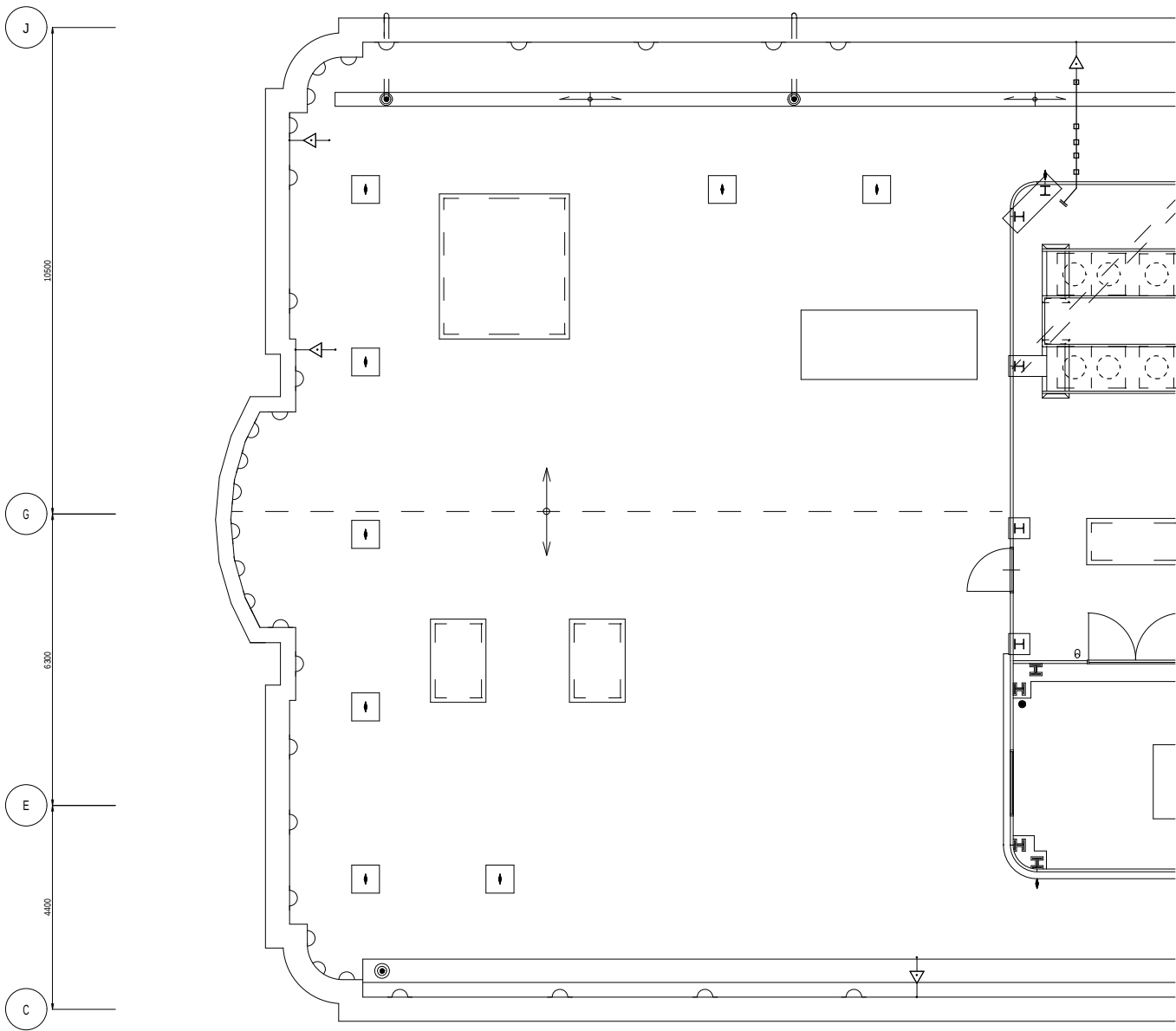
●試験機器類の校正記録を提出する。
○停電工事の必要な時は、当該高圧受電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
○工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、高圧電気設備検査等の竣工に必要な費用は本工事に含む。
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針（令和4年度版）の資料5（P1119）に基づき施工する。
○鉄筋コンクリートをダイヤドリル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
●整備不良の電動工具等持ち込まない。
○構外搬出適切産廃処分とする（電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する）。
○交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を2名以上配置する。
○カラーコーン、コンウエイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。

機器取付高さ (参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。)

	名称	測点	取付高 (mm)		名称	測点	取付高 (mm)	
電力共通	取引用計器	地上～上端	2,000	電	端子盤	床上～上端	1,900	
	引込開閉器	〃	1,800		保安器函	天井下～上端	200	
					壁付位置ボックス	床上～中心	300	
動力	壁掛型制御盤	床上～上端	1,900		話	〃 (和室)	〃	150
	手元開閉器	床上～中心	1,500					
	操作スイッチ	〃	1,300					
電灯	分電盤	床上～上端	1,900	拡声、時計	壁掛型スピーカー	天井下～上端	200	
	スイッチ (一般)	床上～中心	1,300		アッテネーター	床上～中心	1,300	
	〃 (身障者便所)	〃	900		壁掛型親時計	床上～上端	1,900	
	コンセント (一般)	〃	300		子時計	天井下～上端	200	
	〃 (和室)	〃	150					
	〃 (台上)	台上～中心	300	インターホン	壁掛インターホン	床上～中心	1,500	
	〃 (土間)	床上～中心	1,300		〃 (身障者)	〃	1,100	
	ブラケット (一般)	〃	2,100		壁付位置ボックス	〃	300	
	〃 (踊場)	〃	2,500		〃 (和室)	〃	150	
	〃 (鏡上)	鏡上端～中心	150					
				テレビ共聴	機器収納函	天井下～上端	200	
					直列ユニット	床上～中心	300	
					〃 (和室)	〃	150	

	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	構造設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. E - 0 2
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 () 交付番号 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	図名 電気設備工事特記仕様書ー 2	縮尺 A2: 1/100 A3: -

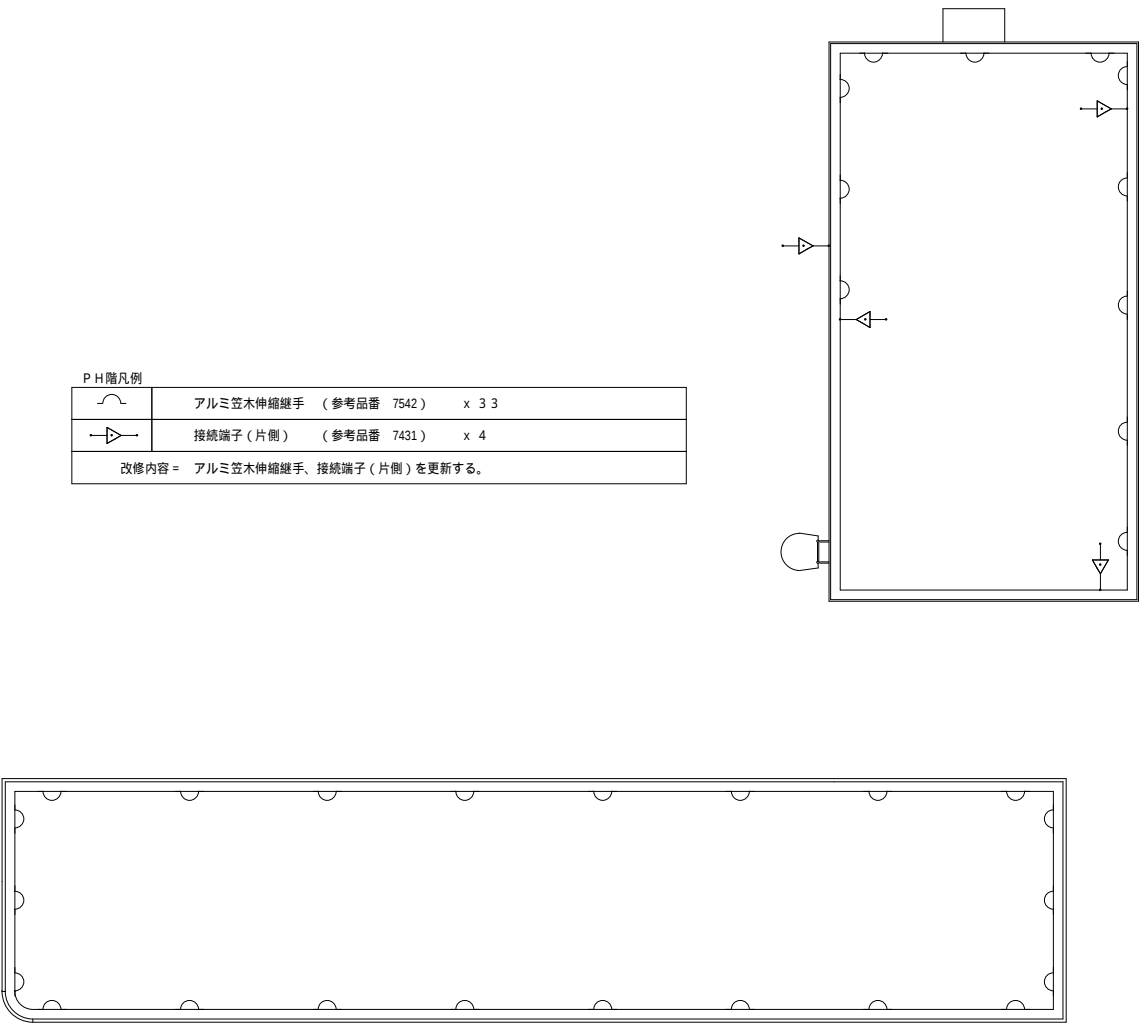
R 階 避雷針部材更新



R 階凡例			
	アルミ笠木伸縮継手	(参考品番 7542)	x 3 1
	接続端子 (片側)	(参考品番 7431)	x 4
	アルミ取付金物	(参考品番 7466)	x 5
改修内容 = アルミ笠木伸縮継手、接続端子 (片側) を更新する。			

P H 階 避雷針部材更新

P H 階凡例			
	アルミ笠木伸縮継手	(参考品番 7542)	x 3 3
	接続端子 (片側)	(参考品番 7431)	x 4
改修内容 = アルミ笠木伸縮継手、接続端子 (片側) を更新する。			



株式会社 丸山建築事務所
一級建築士事務所登録第139号

板橋 晶一
一級建築士登録 第213806号

構造設計
一級建築士登録
大臣 ()

構造設計
一級建築士登録
交付番号 ()

名称
うじ安心館屋上防水ほか改修工事

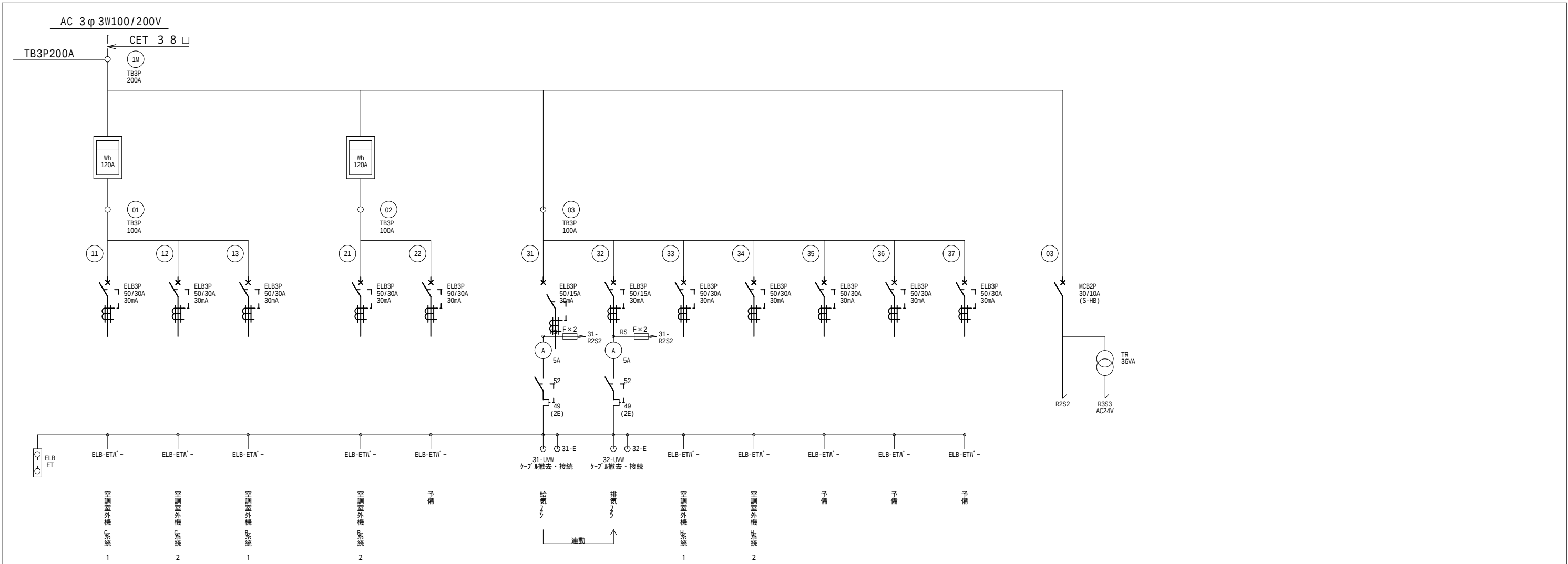
N o .
E - 0 3

構造/設備関係規定
への法適合を確認した
大臣 ()

構造設計/設備設計
一級建築士登録
交付番号 ()

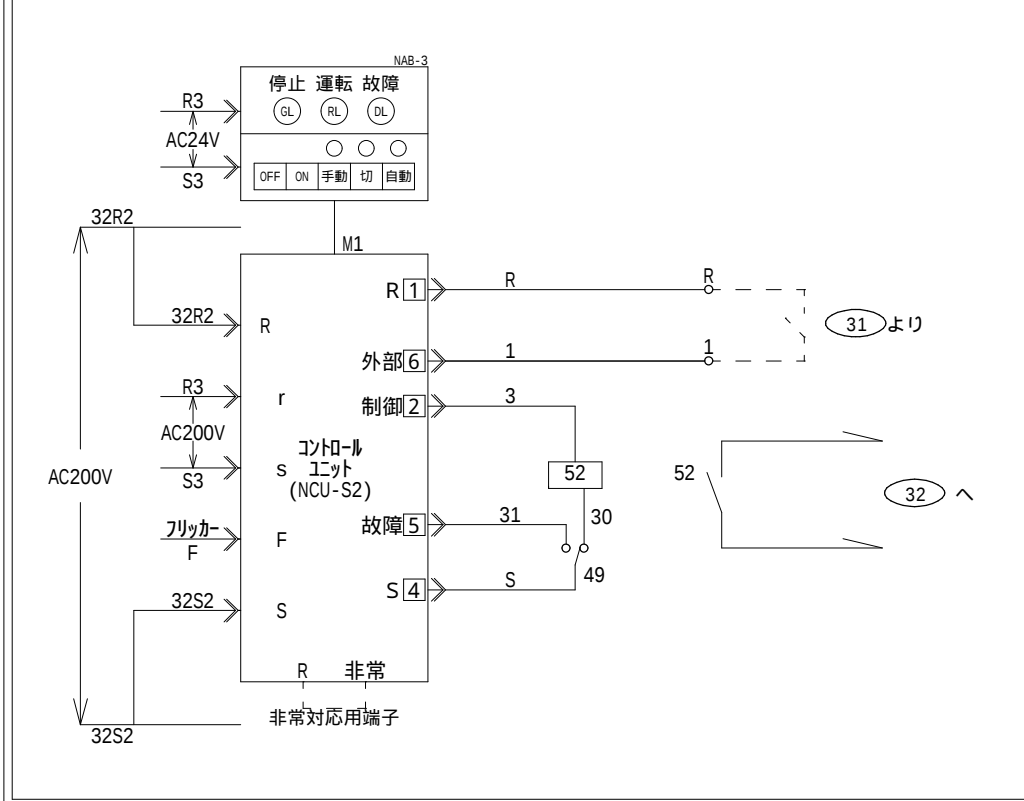
図名
R 階、P H 階 避雷針部材更新

縮尺
A2: 1/100
A3: -

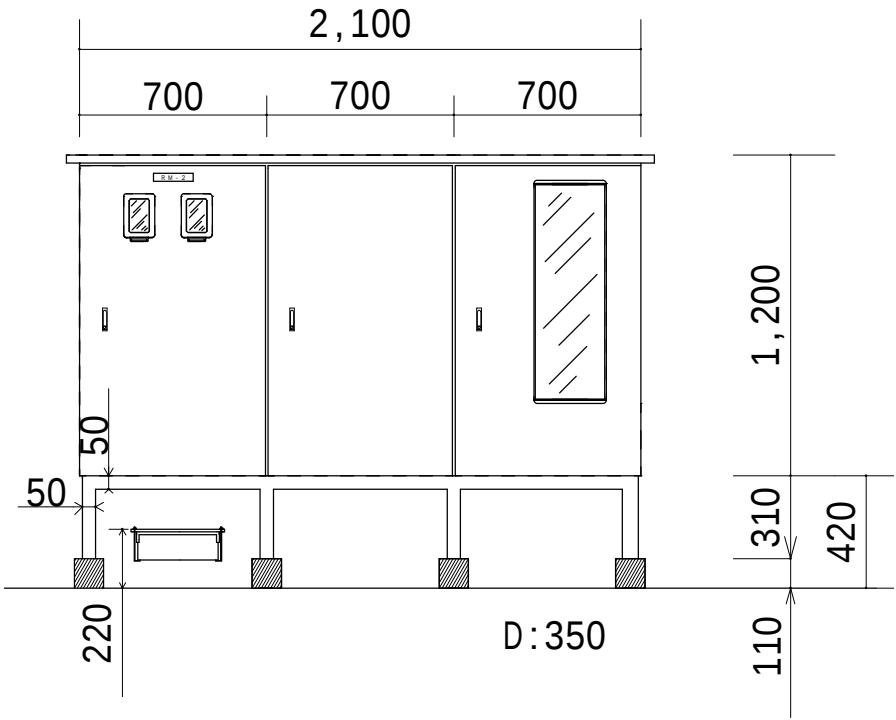
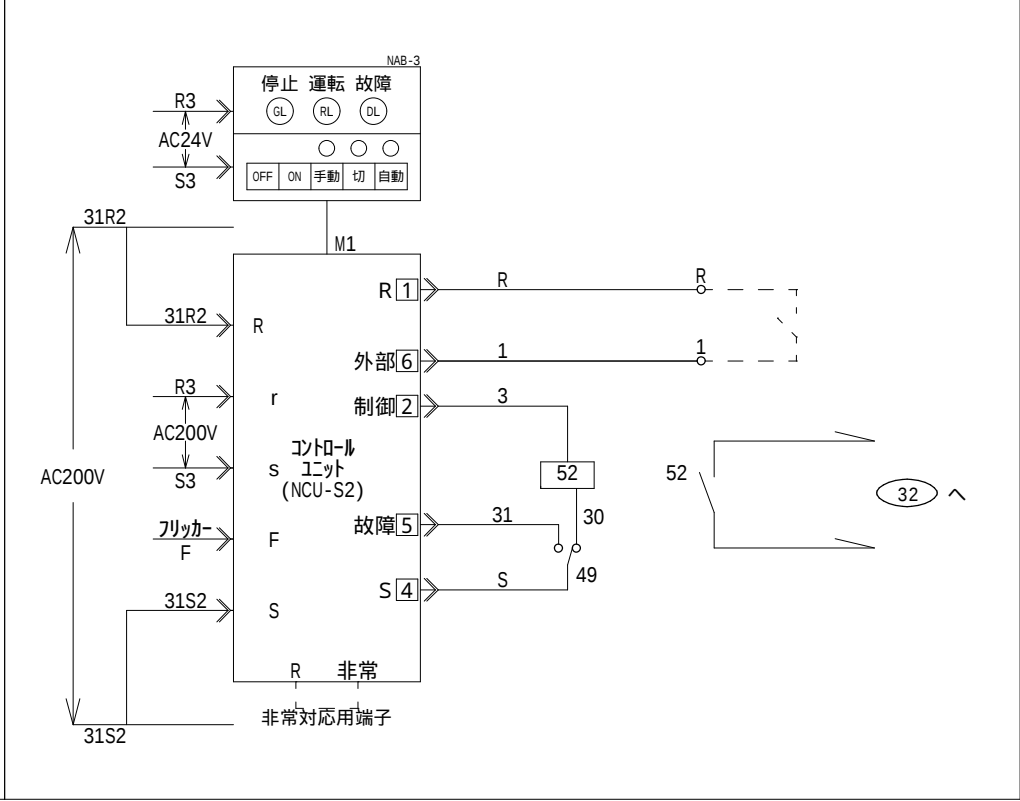


RM- 2

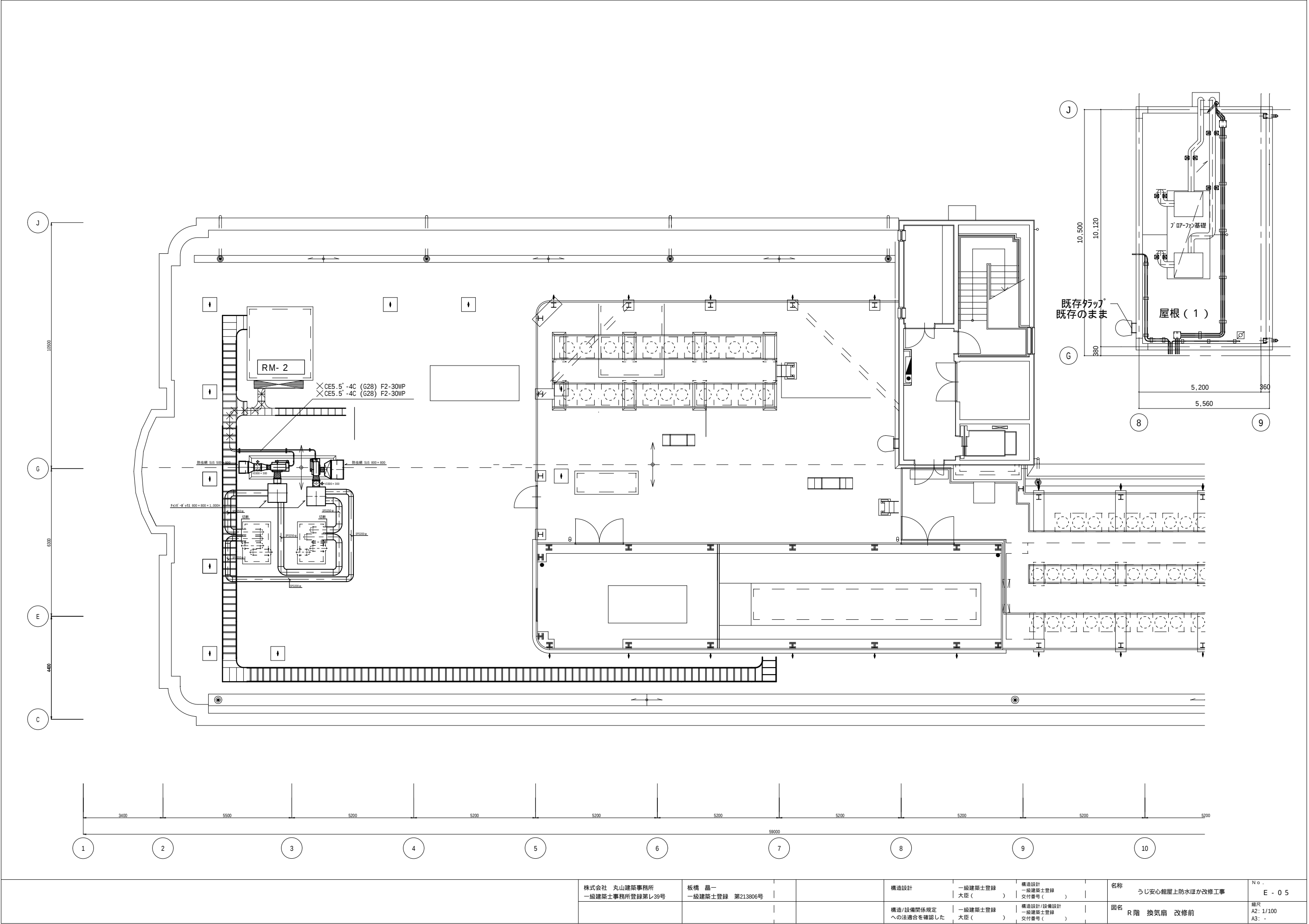
FS-1-g(排気ファン)



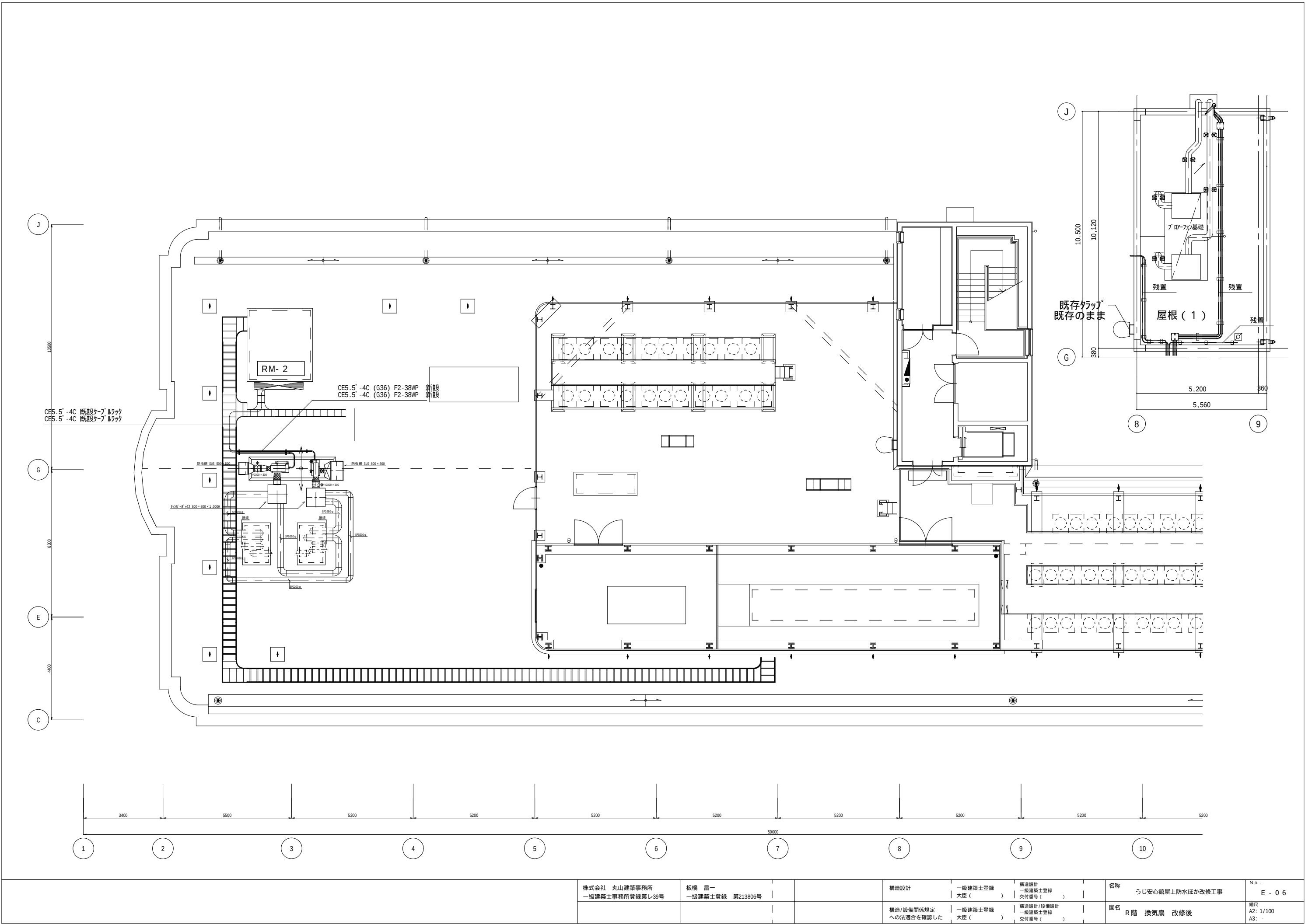
FS-1-e(給気ファン)



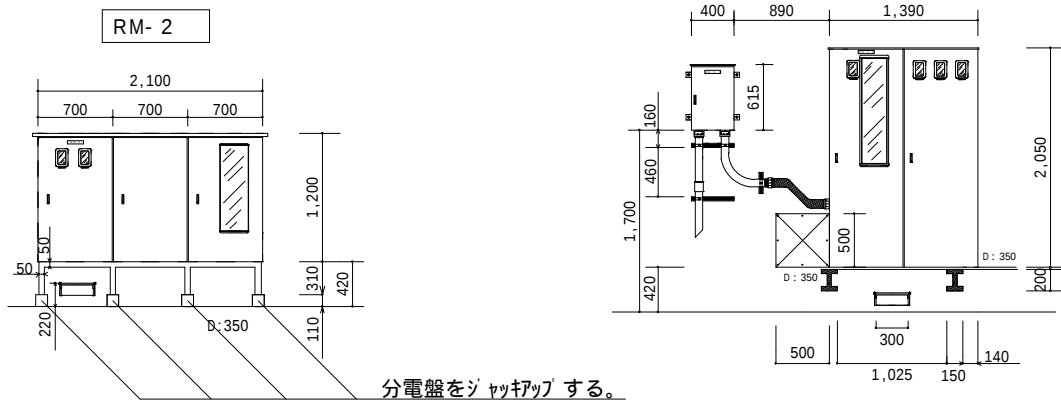
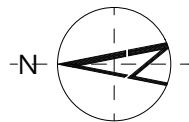
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称	うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No.	E - 0 4
				構造/設備関係規定 への適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名	分電盤結線図	縮尺 A2: 1/ 20 A3: -	



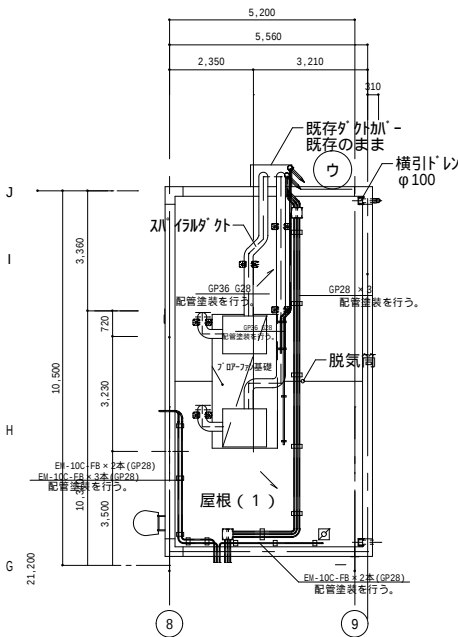
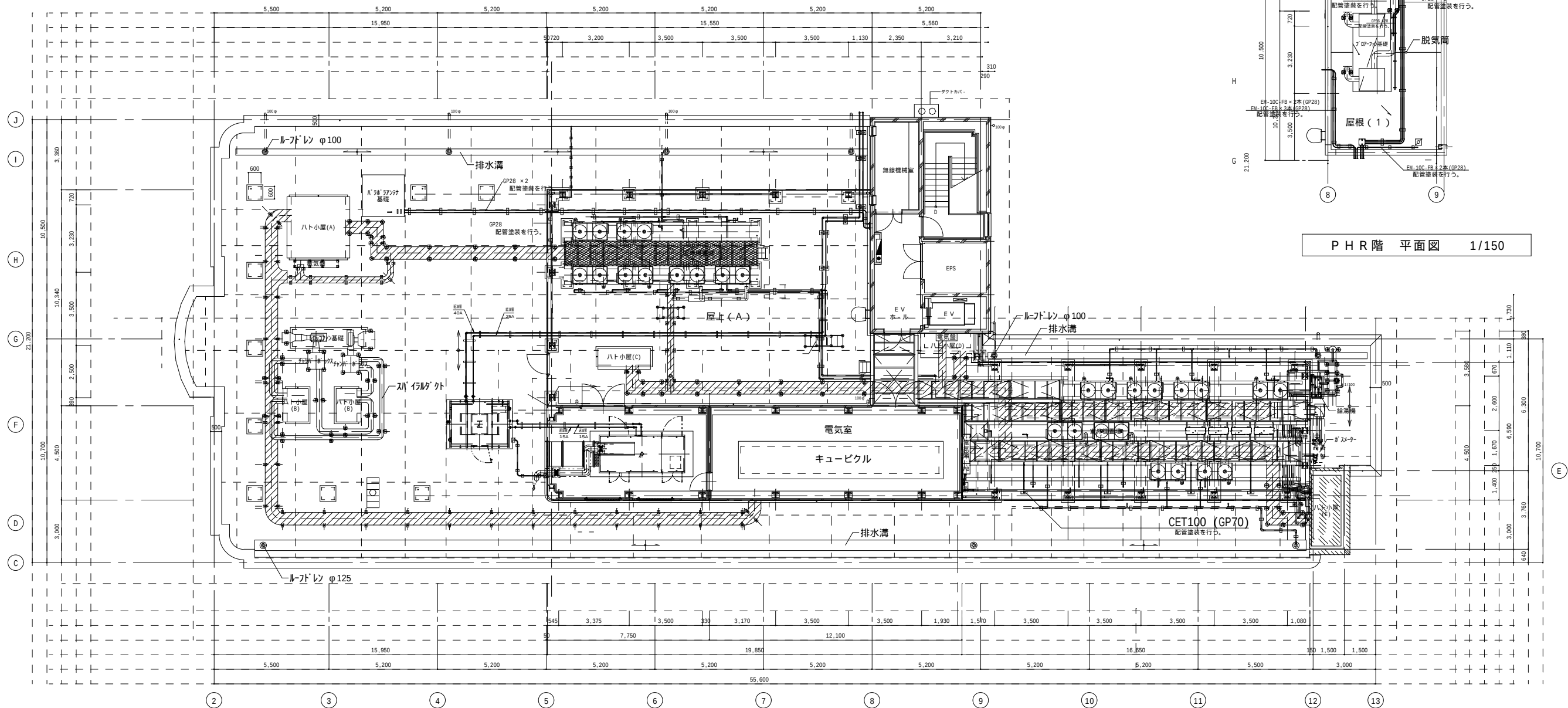
	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. E - 0 5
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	図名 R 階 換気扇 改修前	縮尺 A2: 1/100 A3: -



株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. E - 0 6
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 R階 換気扇 改修後	縮尺 A2: 1/100 A3: -



ウ	G	電源	CV3.5sq-2C (GP28)	キュービクル (G回路)
	H	警報 満油、減油	CVV1.25sq-10C (GP28)	2 F 警報盤へ
	I	電源	CV8.0sq-4C (GP28)	ポンプ制御盤へ

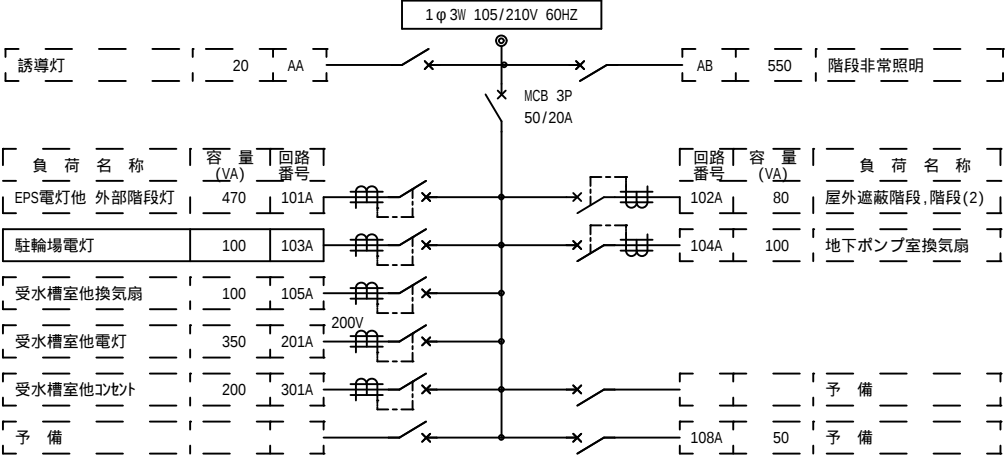


R 階 平面図 1/150

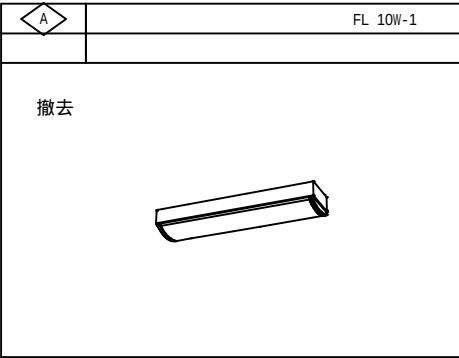
すべてのケーブル・配管・分電盤をジャッキアップ行うこと。

部分をジャッキアップを行う。

	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()		名称 うじ安心館屋上防水ほか改修工事	No. E - 0 7
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 R階 配管・ケーブル等支持改修図面	縮尺 A2: 1/150 A3: -



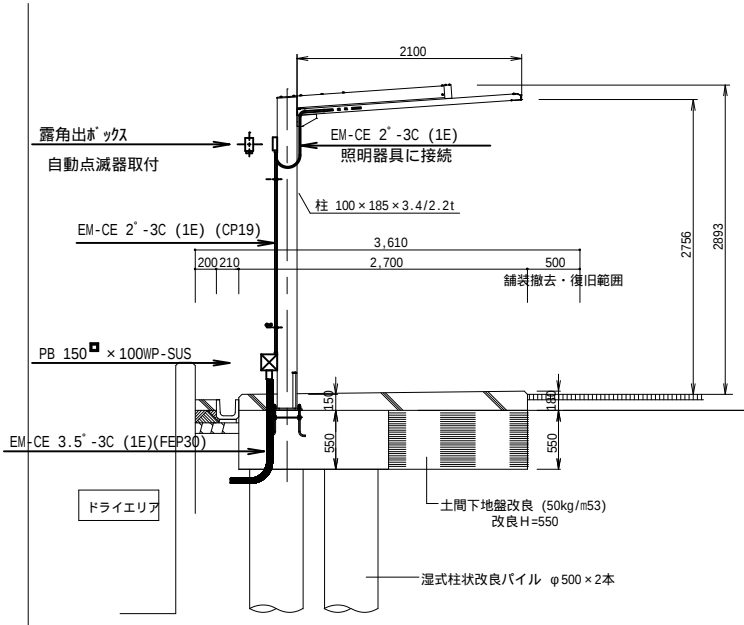
1L-1 既設



撤去を表す

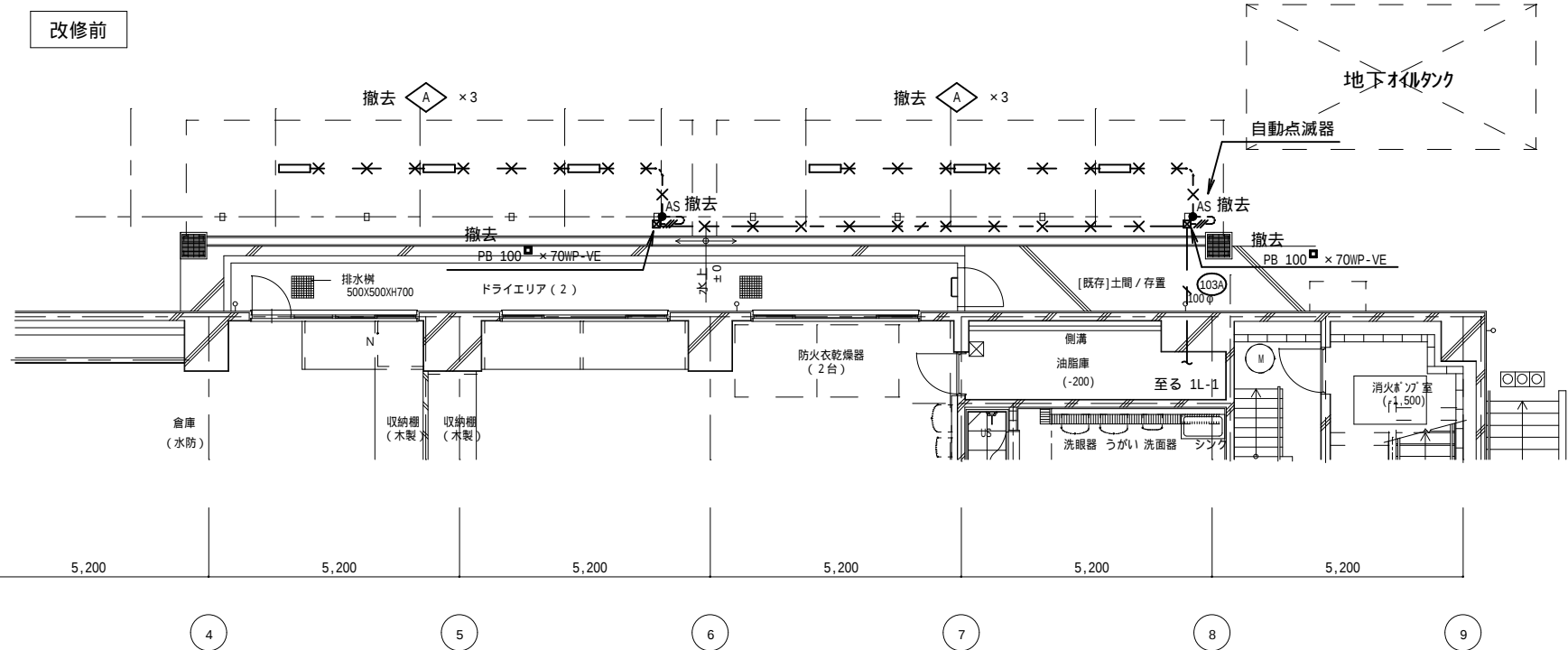
記載なき配管配線は、下記に依る。		
— — —	EM-EEF 1.6 - 2C	(CP19)
— — —	EM-CE 2.0' - 3C (1E)	(CP19)
— — —	EM-CE 5.5' - 3C (1E)	(FEP30)

印 新設



S: 1/50

改修前



改修後

